

余 市 町

令和8年度 町営住宅黒川団地外壁改修工事(西棟)

図面番号	図面タイトル	図面番号	図面タイトル
意 01	共通特記仕様書-1	24	立面図-2(改修後)
02	共通特記仕様書-2	25	断面詳細図(改修前)
03	改修特記仕様書-1	26	断面詳細図(改修後)
04	改修特記仕様書-2	27	階段室詳細図(改修後)
05	改修特記仕様書-3	28	共用部展開図(改修後)
06	改修特記仕様書-4	29	建具配置図(改修前・後)
07	改修特記仕様書-5	30	建具表-1(改修前・後)
08	改修特記仕様書-6	31	建具表-2(改修前・後)
09	付近見取図・配置図	32	各部詳細図-1(改修前・後)
10	工事概要書-1	33	各部詳細図-2(改修前・後)
11	工事概要書-2	34	外壁改修フロー図
12	仕上表(改修前・後)	35	外壁調査立面図-1
13	1階平面図(改修前)	36	外壁調査立面図-2
14	2~4階平面図(改修前)	37	外壁調査立面図-3
15	5階平面図(改修前)	38	外壁調査立面図-4
16	屋上・塔屋平面図(改修前)	39	外壁調査立面図-5
17	1階平面図(改修後)	40	外壁調査集計図
18	2~4階平面図(改修後)	41	アスベスト含有仕上材の除去を伴う工事の取り扱いについて(参考)
19	5階平面図(改修後)	42	仮設計画図(参考図)
20	屋上・塔屋平面図(改修後)		
21	立面図-1(改修前)		
22	立面図-2(改修前)		
23	立面図-1(改修後)		

章	項目	特記事項
		記載のない限り1.1.1等の3つの数字は、公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）の章・節・項を示す
第2章 仮設工事	1. 騒音・粉じん等の対策	(1) 防音パネル ○ 設ける（設置範囲：図示） * 設けない (2.1.3) (2) 防音シート ○ 設ける（設置範囲：図示） * 設けない (3) 壁つなぎ処理（高性能真空掃除機併用） ● 適用する ○ 適用しない
	2. 足場等	(1) 内部足場 ○ 脚立足場 ○ 枠組脚立足場 ○ ローリングタワー (2.2.1) (2) 外部足場 ● 設置する 足場を設ける場合には、「手すり先行工法等に関するガイドライン」について（厚生労働省令和5年12月改定）の「（別紙）手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づき、足場の組立、解体、変更の作業時及び使用時には、常時、全ての作業床について手すり、中柵及び幅木の機能を有するものを設置しなければならない。
	3. 養生	(1) 既存部分・既存家具・既存設備等の養生 (2.3.1) * 行わない ○ 行う 養生方法 * ビニルシート ○ (2) 既存ブラインド、カーテン等の養生及び保管場所等 * 行わない ○ 行う 養生の方法 * ビニルシート ○ (3) 固定された備品、机・ロッカー等の移動 * 行わない ○ 行う 移動場所
	4. 仮設間仕切り	(1) 仮設間仕切りの種別 (2.3.2)(表2.3.1) 種別 下地 材質 充填材 塗装 ○ A種 ○ 木下地 * セッコウボード (* 9.5 ○) 厚さ mm ○ 片面 ○ B種 * 軽量鉄骨 ○ 合板 (* 9.0 ○) - * 無し * C種 ○ 単管下地 - - 仮設扉 * 木製扉 ○ 合板張り程度 - * 鋼製扉 ○ 片面フラッシュ程度 -
	5. 監督員事務所及び備品等	(2) 設置場所 * 図示 (2.4.1) (1) 監督員事務所 ○ 設ける * 設けない (* 10㎡ ○ 20㎡ ○ 35㎡ ○ 65㎡ ○ 100㎡) 程度 (2) 設備、備品等は工事監督員との協議による。 * 設ける ○ 設けない 構内既存の施設 ○ 利用できる (* 有償 ○ 無償) * 利用できない 構内既存の施設 ○ 利用できる (* 有償 ○ 無償) * 利用できない
	6. 工事用便所	
	7. 工事用水	
	8. 工事用電力	
	9. 指定仮設	
	10. 交通誘導警備員	* 仮設計画図による。 建設機械及び車両等の出入りの際には、出入口に交通誘導警備員を配置し、一般通行者及び一般車両の安全を確保すること なお、配置位置及び交通誘導警備員の区分は、次による 配置位置 * 図示 警備員詰所 (○ 設ける * 設けない) 表 工事現場の位置と交通誘導警備員区分 工事現場の出入り口を設ける道路（路線） 交通誘導警備員区分 市街地（DID）内の路線 交通誘導警備員A 北海道（各方面）公安委員会告示による認定路線 交通誘導警備員B 上記以外の路線 交通誘導警備員B 市街地内の路線及び認定路線の場合は、交通誘導警備業務を行う場所ごとに交通誘導警備員Aを1人以上配置する 交通誘導警備員Aを配置できない場合で、やむを得ず受注者自らが交通誘導を行う場合は、工事監督員と協議すること 建設機械及び車両等の出入りの際には、適宜作業員を配置し、敷地外の道路等を泥等で汚した場合には、速やかに清掃を行うこと
11. 清掃員		

章	項目	特記事項
		(3) 押え金物の材質及び形状寸法 (3.3.2) 材質： * アルミニウム製 ○ 形状： * L-30×15×2.0mm程度 ○ (4) 屋根保護防水断熱工法の断熱材の種類及び厚さ： (3.3.2) 種類 厚さ(mm) * JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種bA ○ 30 (スキム層付き) ○ 50 ○ 100 (5) 屋根露出防水断熱工法の断熱材の種類及び厚さ (3.3.2) 種類 厚さ(mm) * JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく次の発泡プラスチック断熱材 ○ 30 ○ 50 ○ 100 ○ ビーズ法* リスレンフォーム (JIS記号 * スキム層等の区分) ○ 押出法* リスレンフォーム (JIS記号 * スキム層等の区分) ○ 硬質ウレタンフォーム断熱材 2種1号又は2号で透湿係数を除くJIS A 9521の規格に準ずるもの
		(6) 絶縁用シート (3.3.2) 7. 屋根保護防水密着工法又は屋根保護防水絶縁工法 (3.3.2) * ポリエチレンフィルム 厚0.15mm以上又はフラットヤーンクロス (70g/㎡程度) ○ 4. 屋根保護防水密着断熱工法又は屋根保護防水絶縁断熱工法 (3.3.2) * フラットヤーンクロス (70g/㎡程度) ○ (7) 保護コンクリート (3.3.2)(8.11.1) 7. コンクリートの種類 * 普通コンクリート ○ 4. 設計基準強度(Fc) * 18N/㎡ ○ N/㎡ ウ スランプ * 15cm ○ 18cm (8) 立上り部の保護材料 (3.3.2) ○ コンクリート ○ れんが ○ モルタル押え (屋内) ○ 乾式保護材 製造所の仕様による (9) 種別及び工程 (3.1.4)(表3.1.1)(3.3.3)(表3.3.3~10)
	施工部位	工法 種別 立上り部における保護工法
		○ P1B ○ B-1 * B-2 工法： (表3.3.3) ○ 図示 ○ P1BI ○ B1-1 * B1-2 (表3.3.4) ○ ○ P2AI ○ A1-1 * A1-2 ○ A1-3 (表3.3.5) ○ P2A ○ A-1 * A-2 ○ A-3 (表3.3.6)
	施工部位	工法 種別 仕上塗料
		○ M4C ○ C-1 * C-2 種類： (表3.3.7) ○ ○ C-3 * C-4 * 製造所の仕様による ○ M3D ○ POD ○ D-1 * D-2 使用量： (表3.3.8) ○ ○ PODI ○ M3DI ○ DI-1 * DI-2 * 製造所の仕様による ○ M4DI (表3.3.9)
	施工部位	工法 種別 保護層
		○ P1E ○ P2E ○ E-1 * E-2 ○ 設ける (表3.3.10) ○ E-1 ☆ (表3.3.10) (☆は表3.3.10の工程3を行う場合) * 貯水槽、浴槽等の常時水に接する部位 ○
		(10) 立上り部への断熱材及び絶縁用シートの設置 (P1BI, P2AI工法の場合) ○ 設置する ○ 設置しない (表3.3.4~3.3.5) (11) 立上り部等の既存防水層及び保護層の撤去 * 表3.1.1による ○ 行わない (12) 脱気装置の種類及び設置数量 (M3D, POD, PODI, M3DI, M4DI工法の場合) * アスファルトルーフィング類の製造所の指定による ○ (13) 屋根露出防水絶縁断熱工法におけるルーフトレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 * 図示 ○ (14) 平場の保護コンクリートの厚さ (3.3.5)(表8.1.5) 7. こて仕上げ ○ * 80mm以上 ○ 床面の仕上り平たんさ ○ a種 ○ b種 ○ c種 4. 床タイル張り等仕上げ * 60mm以上 ○ (15) 保護層等の屋上排水溝 (3.3.5) ○ 設けない ○ 設ける (図示)

章	項目	特記事項
	7. 改質アスファルトシート防水	(1) 種別及び工程 (3.1.4)(表3.1.1)(3.4.2~3)(表3.4.1~3) 施工部位 工法 種別 材質 仕上塗料 ○ M4AS ○ AS-T1 ○ AS-T2 * R種 * シルバー (表3.4.1) ○ AS-J2 ○ M3AS ○ AS-T3 ○ AS-T4 ○ POAS ○ AS-J1 ○ AS-J3☆ ○ M3ASI ○ ASI-T1 ○ N種 ○ カラー (表3.4.3) ○ M4ASI ○ ASI-J1 ○ POASI
		(2) 仕上塗料の種類及び使用量 (表3.4.1~3) 7. 種類： * 改質アスファルトシートの製造所の仕様による ○ 4. 使用量 * 改質アスファルトシート製造所の仕様による ○ (3) 改質アスファルトシートの種類及び厚さ (3.4.2) * 表3.4.1から表3.4.3による ○ (4) 粘着層付改質アスファルトシート及び部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ (3.4.2) * 表3.4.1から表3.4.3による ○ (5) 押え金物の材質及び形状寸法： (3.4.2) 7. 材質 * アルミニウム製 ○ 4. 形状 * L-30×15×2.0mm程度 ○ (6) 断熱材 (3.4.2) 種類 厚さ(mm) * JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく次の発泡プラスチック断熱材 ○ 30 ○ ビーズ法ポリスチレンフォーム ○ 50 (JIS記号 * スキム層等の区分) ○ 100 ○ 押出法ポリスチレンフォーム (JIS記号 * スキム層等の区分) ○ 硬質ウレタンフォーム断熱材 2種1号又は2号で透湿係数を除くJIS A 9521の規格に準ずるもの
		(7) M3AS, POAS, M3ASI, M4ASI, POASI工法の脱気装置の種類及び設置数量 (3.4.3) * 改質アスファルトシートの製造所の指定による ○ (8) M3ASI, M4ASI, POASI工法における防湿用シートの設置 (3.4.3) ○ 設ける ○ 設けない
	8. 合成高分子系ルーフィングシート防水	(1) 種別及び工程 (3.1.4)(表3.1.1)(3.5.2~4)(表3.5.1~3) 施工部位 工法 種別 厚さmm 仕上塗料 ○ POS ○ S-F1 * 1.2 ○ * シルバー (表3.5.1) ○ S-F2 * 2.0 ○ 1.5 ○ カラー ○ S4S ○ S-M1 * 1.5 ○ * シルバー ○ S-M2 * 2.0 ○ 1.5 ○ カラー ○ POSI ○ SI-F1 * 1.2 ○ * シルバー ○ SI-F2 * 1.5 ○ ○ カラー ○ S4S1 (表3.5.2) ○ SI-M1 * 1.5 ○ * シルバー ○ SI-M2 * 1.5 ○ ○ カラー ○ S3S (表3.5.1) ○ S-F1 * 1.2 ○ * シルバー ○ S-F2 * 2.0 ○ 1.5 ○ カラー ○ S3S1 (表3.5.2) ○ SI-F1 * 1.2 ○ * シルバー ○ SI-F2 * 1.5 ○ ○ カラー ○ M4S (表3.5.1) ○ S-M1 * 1.5 ○ * シルバー ○ S-M2 * 2.0 ○ 1.5 ○ カラー ○ M4S1 (表3.5.2) ○ SI-M1 * 1.5 ○ * シルバー ○ SI-M2 * 1.5 ○ ○ カラー ○ P1S (表3.5.3) ○ S-C1 * 1.0 ○ ○ カラー
		(2) 既存防水層（立上り部等）の撤去 (POS (機械), POSI (機械), M4S, M4S1, S4S (機械), S4S1 (機械) の場合) * ルーフィング類の製造所の仕様による ○ 行わない (3) ルーフィングシート(JIS A 6008)の種類及び厚さ (3.5.2) * 表3.5.1~表3.5.3による ○ (4) 固定金具の材質、形状及び寸法 (3.5.2) 材質 * 防錆処理した鋼板 * ステンレス鋼板 * 片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもの ○ 形状及び寸法 * 厚さ0.4mm以上 ○ (5) 絶縁用シート及び可塑性移行防止用シートの材質 (3.5.2) * 発泡ポリエチレンシート ○ (6) 脱気装置の種類及び設置数量 (3.5.3) * ルーフィングシートの製造所の仕様による (POS工法, POSI工法, S4S工法及びS4S1工法) * ルーフィングシートの製造所の指定による (S3S工法及びS3S1工法) ○

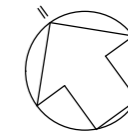
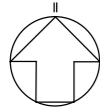
章	項目	特記事項
		(7) 断熱材の種類及び厚さ (3.5.2) 7. 機械的固定工法 (JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材) 種類 厚さ(mm) * ビーズ法* リスレンフォーム (JIS記号 * スキム層等の区分) ○ 30 * 押出法* リスレンフォーム (JIS記号 * スキム層等の区分) ○ 50 ○ 硬質ウレタンフォーム断熱材 2種1号又は2号で透湿係数を除くJIS A 9521の規格に準ずるもの ○ 100 4. 接着工法 (JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材) 種類 厚さ(mm) * ビーズ法* リスレンフォーム (JIS記号 * スキム層等の区分) ○ 30 * 押出法* リスレンフォーム (JIS記号 * スキム層等の区分) ○ 50 ○ 硬質ウレタンフォーム断熱材 2種1号又は2号で透湿係数を除くJIS A 9521の規格に準ずるもの ○ 100 ○ 密度及び熱伝導率がJIS A 9521に準ずるポリエチレンフォーム断熱材 ○ (8) 仕上塗料の種類及び使用 (表3.5.1~2) 7. 種類 * 非歩行用仕様 (S-F1及びS-M1) ○ 4. 使用量 * ルーフィングシートの製造所の仕様による ○ (9) S1-M1及びS1-M2の防湿用フィルムの設置 (表3.5.2) * 図示 ○ (10) S-C1の工程4の保護モルタルの塗厚 (表3.5.3) * 図示 ○ mm (11) プレキャストコンクリート下地の場合の目地処理 (接着工法) * 図示 ○ (12) プレキャストコンクリート下地の入隅部の増張り (S-F1又はS1-F1の場合) * 図示 ○ (3.5.4) (13) 一般部のルーフィングシートの張付け (機械式固定工法の場合) (建築基準法に基づく風圧力に対応した工法) * 適用する ○ 適用しない (3.5.4) (14) 立上り部の保護モルタルの塗厚 (3.5.4) * 図示 ○ mm (1) ウレタンゴム系高伸長形塗膜防水の種類及び工程 (3.1.4)(表3.1.1)(3.6.3)(表3.6.1)
	9. 塗膜防水	施工箇所 工法 種別 脱気装置の種類及び設置数量 仕上塗料 ○ POX * X-1 * 主材料の製造所の仕様による * シルバー ○ X-2 ○ ○ L4X ○ X-1 ○ カラー * X-2
		仕上塗料の種類及び使用量 (表3.6.1) 7. 種類 4. 使用量 * 主材料の製造所の仕様による ○ (2) ウレタンゴム系高強度形塗膜防水の種類及び工程 (3.1.4)(表3.1.1)(3.6.3)(表3.6.2)
		施工箇所 工法 種別 脱気装置の種類及び設置数量 仕上塗料 ○ POX * X-1H * 主材料の製造所の仕様による * シルバー ○ X-2H ○ ○ L4X ○ X-1H ○ カラー * X-2H
		仕上塗料の種類及び使用量 (表3.6.1) 7. 種類 4. 使用量 * 主材料の製造所の仕様による ○ (3) ゴムアスファルト系塗膜防水工法の種類及び工程 (3.1.4)(表3.1.1)(3.6.3)(表3.6.3)
		施工箇所 工法 種別 工程5 (保護層の仕様) ○ PIY * Y-2 ○ 保護コンクリート ○ PZY ○ 保護モルタル
		(1) 改修工法等 (3.1.4)(表3.1.2) 施工箇所 改修工法 図示 シーリング充填工法 シーリング再充填工法 拡幅シーリング再充填工法 ブリッジ工法
		(2) シーリング材の種類及び施工箇所 (3.7.2) 下表以外は、表3.7.1による 種類 施工箇所 シーリング表面の仕上塗装 金物、建具 MS-2 ● あり ○ なし 打継 PU-2 ● あり ○ なし
		(3) シーリング材の目地寸法 * 図示 (3.7.3) (4) 接着性試験 (3.7.8) * 行う (* 簡易接着性試験 ○ 引張接着性試験) ○ 行わない

<p>11. とい</p> <p>(1) といその他の材種： (3.8.2)(表3.8.1) ○ 配管用鋼管 ○ 硬質ポリ塩化ビニル管</p> <p>(2) とい受金物及び足金物の材種、形状及び取付け間隔 (3.8.2)(表3.8.2) * 表3.8.2による</p> <p>7. 多雪区域の場合の軒どいの取付け間隔 (0.5m以下) ○ 適用する ○ 適用しない</p> <p>(3) 防露材のホルムアルデヒド放散量 (3.8.2) * F☆☆☆☆</p> <p>(4) 既存のといその他の撤去及び降雨等に対する養生方法 (3.8.3) * 図示 ○</p> <p>(5) 鋼管製といの防露巻き (3.8.3) * 表3.8.4による ○</p> <p>(6) たてどい受金物の取付け * 図示 ○ (3.8.3)</p> <p>(7) ルーフドレンの取付け工法 (3.8.3) * 水はけよく、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填 ○</p>	<p>12. アルミニウム製笠木</p> <p>(1) 部材の種類 (3.9.2)(表3.9.1) ○ 押出250形 ○ 押出300形 ○ 押出350形 ○ その他 (図示)</p> <p>(2) 板材折曲げ形の笠木本体幅及び板厚 (3.9.2) ○ 笠木本体幅 mm 板厚 * 2.0mm ○ mm</p> <p>(3) 表面処理の種類 (3.9.2)(表5.2.2) ○ AB-1種 ○ AB-2種 ○ AC-1種 ○ AC-2種 ○ BA-1種 ○ BA-2種 ○ BB-1種 ○ BB-2種 ○ BC-1種 ○ BC-2種 ○ C種</p> <p>(4) 既存笠木等の撤去及び新規アルミニウム製笠木の地下補修工法 (3.9.3) * 図示 ○</p> <p>(5) 板材折曲げ形の取付け方法： (3.9.3) * 図示 ○</p> <p>(6) 笠木の固定金具の工法等： (3.9.3) 建築基準法に基づく風圧力に対応した工法 * 適用する ○ 適用しない</p> <p>防水工事の保証期間は、(* 10年 ○ 年)</p>	<p>13. 保証</p>	<p>(3) タイル張り仕上げ外壁 (4.1.4)(4.4.5)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">改修工法の種類</th> <th colspan="2">アンカーピンの本数 (本/m)</th> <th colspan="2">注入口の箇所数 (箇所/m)</th> <th rowspan="2">注入量 (mL/箇所)</th> </tr> <tr> <th>一般部</th> <th>指定部</th> <th>一般部</th> <th>指定部</th> </tr> <tr> <td>アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 16</td> <td>* 25</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>* 25</td> </tr> <tr> <td>アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 13</td> <td>* 20</td> <td>* 12</td> <td>* 20</td> <td>* 25</td> </tr> <tr> <td>アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td> <td>* 13</td> <td>* 20</td> <td>* 12</td> <td>* 20</td> <td>* 50</td> </tr> <tr> <td>注入口アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 9</td> <td>* 16</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>* 25</td> </tr> <tr> <td>注入口アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 9</td> <td>* 16</td> <td>* 9</td> <td>* 16</td> <td>* 25</td> </tr> <tr> <td>注入口アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td> <td>* 9</td> <td>* 16</td> <td>* 9</td> <td>* 16</td> <td>* 50</td> </tr> <tr> <td>充填工法</td> <td colspan="5">* ポリマーセメントモルタル ○ エポキシ樹脂モルタル</td> </tr> <tr> <td>モルタル塗替え工法</td> <td colspan="5">4.3.10による</td> </tr> </table> <p>(2) タイル張り仕上げ外壁 (4.1.4)(4.4.7~15)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">改修工法の種類</th> <th colspan="2">アンカーピンの本数 (本/m)</th> <th colspan="2">注入口の箇所数 (箇所/m)</th> <th rowspan="2">注入量 (mL/箇所)</th> </tr> <tr> <th>一般部</th> <th>指定部</th> <th>一般部</th> <th>指定部</th> </tr> <tr> <td>アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 16</td> <td>* 25</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>* 25</td> </tr> <tr> <td>アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 13</td> <td>* 20</td> <td>* 12</td> <td>* 20</td> <td>* 25</td> </tr> <tr> <td>アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td> <td>* 13</td> <td>* 20</td> <td>* 12</td> <td>* 20</td> <td>* 50</td> </tr> <tr> <td>注入口アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 9</td> <td>* 16</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>* 25</td> </tr> <tr> <td>注入口アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 9</td> <td>* 16</td> <td>* 9</td> <td>* 16</td> <td>* 25</td> </tr> <tr> <td>注入口アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td> <td>* 9</td> <td>* 16</td> <td>* 9</td> <td>* 16</td> <td>* 50</td> </tr> <tr> <td>エポキシ樹脂注入タイプ固定工法</td> <td colspan="5">(本/枚) (本/枚)</td> </tr> <tr> <td>アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td colspan="5">* ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td colspan="5">* ポリマーセメントモルタル</td> </tr> </table>	改修工法の種類	アンカーピンの本数 (本/m)		注入口の箇所数 (箇所/m)		注入量 (mL/箇所)	一般部	指定部	一般部	指定部	アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 16	* 25	—	—	* 25	アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 13	* 20	* 12	* 20	* 25	アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	* 13	* 20	* 12	* 20	* 50	注入口アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 9	* 16	—	—	* 25	注入口アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 9	* 16	* 9	* 16	* 25	注入口アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	* 9	* 16	* 9	* 16	* 50	充填工法	* ポリマーセメントモルタル ○ エポキシ樹脂モルタル					モルタル塗替え工法	4.3.10による					改修工法の種類	アンカーピンの本数 (本/m)		注入口の箇所数 (箇所/m)		注入量 (mL/箇所)	一般部	指定部	一般部	指定部	アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 16	* 25	—	—	* 25	アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 13	* 20	* 12	* 20	* 25	アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	* 13	* 20	* 12	* 20	* 50	注入口アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 9	* 16	—	—	* 25	注入口アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 9	* 16	* 9	* 16	* 25	注入口アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	* 9	* 16	* 9	* 16	* 50	エポキシ樹脂注入タイプ固定工法	(本/枚) (本/枚)					アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* ポリマーセメントモルタル					アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* ポリマーセメントモルタル					<p>5. 塗り仕上げ外壁等の改修 (4.1.5)(4.5.2)(表4.5.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>施工部位</th> <th>種類</th> <th>呼び名</th> <th>仕上げの形状</th> <th>工法</th> </tr> <tr> <td>外壁</td> <td>複層仕上</td> <td>防R透過型</td> <td>ゆず肌</td> <td>ローラー</td> </tr> </table> <p>(2) 複層仕上塗材及び可とう形改修塗材の耐水性等 (4.5.2) 7. 耐水性 * 耐候形3種 ● 耐候形1種</p> <p>4. 溶媒 * 水系 ○ 溶剤系 ○ 弱溶剤系</p> <p>4. 樹脂 * アクリル系 ○ シリカ系 ● アクリル系</p> <p>3. 外観 * つやあり ○ つやなし ○ メタリック</p> <p>(3) 既存塗膜等の除去、下地調整の工法 (4.5.4)(表4.5.4~4.5.7) * 高圧水洗工法 (50MPa程度の温水による洗浄 (はく離剤を使わない。)) ○ サンダー工法 ○ 水洗い工法 ● 塗膜はく離剤工法後、高圧水洗 (10~15MPa) 洗浄</p> <p>(4) 下地調整 * 下地調整塗材 ● ポリマーセメントモルタル ○ 防水型仕上塗材 (4.5.4)</p> <p>(5) 各工法の処理範囲 * 既存仕上げ面全体 ○ 図示 (4.5.4)</p>	施工部位	種類	呼び名	仕上げの形状	工法	外壁	複層仕上	防R透過型	ゆず肌	ローラー	<p>6. 樹脂製建具 (5.3.2)(表5.3.1)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th colspan="3">性能等級</th> </tr> <tr> <th>A種</th> <th>B種</th> <th>C種</th> </tr> <tr> <td>枠の見込み寸法 (mm)</td> <td>* 建具表による</td> <td>* 建具表による</td> <td>* 建具表による</td> </tr> <tr> <td>耐風圧性</td> <td>S-4</td> <td>S-5</td> <td>S-6</td> </tr> <tr> <td>気密性</td> <td colspan="3">A-4</td> </tr> <tr> <td>水密性</td> <td>W-4</td> <td colspan="2">W-5</td> </tr> </table> <p>(2) 防音ドア、防音サッシとする場合の遮音性能の等級 (5.3.2) ○ T-1 ○ T-2</p> <p>(3) 断熱ドア、断熱サッシとする場合の断熱性の等級 (5.3.2)(表5.3.2) * 外部に面する樹脂製建具の断熱性の等級 ○ 適用する (○ H-4 ○ H-5 ○ H-6 ○ H-7 ○ H-8)</p> <p>(4) ガラス： * 複層ガラス ○ 単層ガラス ○ 三重ガラス (5.3.3)</p> <p>(5) 表面色 ○ 標準色 ○ 特注色 (5.3.4)</p> <p>(6) ステンレス製のくつずりの仕上げ * HL ○ (5.3.4)</p> <p>(7) 水切り板、ぜん板等の加工組立 (5.3.5)(表5.3.5) * 図示 ○</p> <p>(8) 外部に面する建具の日射熱取得性の等級 (5.3.2) ○ N-1 ○ N-2 ○ N-3</p>	種別	性能等級			A種	B種	C種	枠の見込み寸法 (mm)	* 建具表による	* 建具表による	* 建具表による	耐風圧性	S-4	S-5	S-6	気密性	A-4			水密性	W-4	W-5		<p>7. 鋼製建具 (5.4.2)(表5.4.1)</p> <p>(1) 簡易気密型ドアセット ○ 適用する ○ 適用しない (5.4.2)</p> <p>(2) 耐風圧性 (外部) ○ S-4 ○ S-5 ○ S-6 (5.4.2)(表5.2.1)</p> <p>(3) 防音ドア、防音サッシとする場合の遮音性能の等級 (5.4.2)(表5.2.2) * 図示 ○</p> <p>(4) 断熱ドア、断熱サッシとする場合の断熱性の等級 (5.4.2)(表5.2.2) * 図示 ○</p> <p>(5) 耐震ドアとする場合の内面変形追随性の等級 (5.4.2) * 図示 ○</p> <p>(6) くつずりの材料 * ステンレス鋼板 (5.4.3) ○</p> <p>(7) 鋼板類の厚さ * 表5.4.2による (5.4.4) * 図示 ○</p>	<p>8. 鋼製軽量建具 (5.5.2)(表5.5.2)</p> <p>(1) 簡易気密型ドアセット ○ 適用する (A-3) ○ 適用しない (5.5.2)</p> <p>(2) 防音ドア、防音サッシとする場合の遮音性能の等級 (5.5.2)(表5.2.2) * 図示 ○</p> <p>(3) 断熱ドア、断熱サッシとする場合の断熱性の等級 (5.5.2)(表5.2.2) * 図示 ○</p> <p>(4) 耐震ドアとする場合の内面変形追随性の等級 (5.5.2) * 図示 ○</p> <p>(5) 鋼板類 ○ 亜鉛めっき鋼板 ○ ビニル被覆鋼板 ○ カラー鋼板 ○ ステンレス鋼板 (5.5.3)</p> <p>(6) 召合せ、縦小口包み板等の材質 (5.5.3) ○ ステンレス鋼板 * 鋼板 ○ アルミニウム合金押出型材</p> <p>(7) 鋼板類の厚さ * 表5.5.1による (5.5.4) * 図示 ○</p>	<p>9. ステンレス製建具 (5.6.2)(表5.6.2)</p> <p>(1) 簡易気密型ドアセット ○ 適用する ○ 適用しない (5.6.2)</p> <p>(2) 耐風圧性 (外部) ○ S-4 ○ S-5 ○ S-6 (5.6.2)</p> <p>(3) 耐震ドアとする場合の内面変形追随性の等級 (5.6.2) * 図示 ○</p> <p>(4) ステンレス鋼板 ○ SUS304 ○ SUS430J1L ○ SUS443J1 (5.6.3)</p> <p>(5) 表面仕上げ * HL ○ 鏡面 (5.6.4)</p> <p>(6) 曲げ加工 * 普通曲げ ○ 角出し曲げ (5.6.5)</p> <p>(1) 建具材の含水率の種別 * A種 ○ B種 (5.7.2)(表5.7.1)</p> <p>(2) フラッシュ戸の表面材の合板の種類 (5.7.2)(表5.7.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>合板の種類</th> <th>表面材の品質等</th> </tr> <tr> <td>○ 普通合板</td> <td>接着の程度 * 水掛り箇所を1類、その他2類以上 ○</td> </tr> <tr> <td>○ 天然化粧合板</td> <td>接着の程度 * 水掛り箇所を1類、その他2類以上 ○</td> </tr> <tr> <td>○ 特殊加工化粧合板</td> <td>接着の程度 * 水掛り箇所を1類、その他2類以上 ○</td> </tr> <tr> <td>○ ミッドリフトタイプ (MDF)</td> <td>表面の状態による区分 () 曲げ強さによる区分 () 耐水性による区分 () 難燃性による区分 ()</td> </tr> </table>	合板の種類	表面材の品質等	○ 普通合板	接着の程度 * 水掛り箇所を1類、その他2類以上 ○	○ 天然化粧合板	接着の程度 * 水掛り箇所を1類、その他2類以上 ○	○ 特殊加工化粧合板	接着の程度 * 水掛り箇所を1類、その他2類以上 ○	○ ミッドリフトタイプ (MDF)	表面の状態による区分 () 曲げ強さによる区分 () 耐水性による区分 () 難燃性による区分 ()	<p>10. 木製建具 (5.7.2)(表5.7.2)</p>																																																																																																													
					改修工法の種類	アンカーピンの本数 (本/m)		注入口の箇所数 (箇所/m)		注入量 (mL/箇所)																																																																																																																																																																																																																																																																																	
				一般部		指定部	一般部	指定部																																																																																																																																																																																																																																																																																			
アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 16	* 25	—	—	* 25																																																																																																																																																																																																																																																																																						
アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 13	* 20	* 12	* 20	* 25																																																																																																																																																																																																																																																																																						
アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	* 13	* 20	* 12	* 20	* 50																																																																																																																																																																																																																																																																																						
注入口アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 9	* 16	—	—	* 25																																																																																																																																																																																																																																																																																						
注入口アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 9	* 16	* 9	* 16	* 25																																																																																																																																																																																																																																																																																						
注入口アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	* 9	* 16	* 9	* 16	* 50																																																																																																																																																																																																																																																																																						
充填工法	* ポリマーセメントモルタル ○ エポキシ樹脂モルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																										
モルタル塗替え工法	4.3.10による																																																																																																																																																																																																																																																																																										
改修工法の種類	アンカーピンの本数 (本/m)		注入口の箇所数 (箇所/m)		注入量 (mL/箇所)																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	一般部	指定部	一般部	指定部																																																																																																																																																																																																																																																																																							
アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 16	* 25	—	—	* 25																																																																																																																																																																																																																																																																																						
アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 13	* 20	* 12	* 20	* 25																																																																																																																																																																																																																																																																																						
アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	* 13	* 20	* 12	* 20	* 50																																																																																																																																																																																																																																																																																						
注入口アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 9	* 16	—	—	* 25																																																																																																																																																																																																																																																																																						
注入口アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 9	* 16	* 9	* 16	* 25																																																																																																																																																																																																																																																																																						
注入口アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	* 9	* 16	* 9	* 16	* 50																																																																																																																																																																																																																																																																																						
エポキシ樹脂注入タイプ固定工法	(本/枚) (本/枚)																																																																																																																																																																																																																																																																																										
アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																										
アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																										
施工部位	種類	呼び名	仕上げの形状	工法																																																																																																																																																																																																																																																																																							
外壁	複層仕上	防R透過型	ゆず肌	ローラー																																																																																																																																																																																																																																																																																							
種別	性能等級																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	A種	B種	C種																																																																																																																																																																																																																																																																																								
枠の見込み寸法 (mm)	* 建具表による	* 建具表による	* 建具表による																																																																																																																																																																																																																																																																																								
耐風圧性	S-4	S-5	S-6																																																																																																																																																																																																																																																																																								
気密性	A-4																																																																																																																																																																																																																																																																																										
水密性	W-4	W-5																																																																																																																																																																																																																																																																																									
合板の種類	表面材の品質等																																																																																																																																																																																																																																																																																										
○ 普通合板	接着の程度 * 水掛り箇所を1類、その他2類以上 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																										
○ 天然化粧合板	接着の程度 * 水掛り箇所を1類、その他2類以上 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																										
○ 特殊加工化粧合板	接着の程度 * 水掛り箇所を1類、その他2類以上 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																										
○ ミッドリフトタイプ (MDF)	表面の状態による区分 () 曲げ強さによる区分 () 耐水性による区分 () 難燃性による区分 ()																																																																																																																																																																																																																																																																																										
<p>1. ひび割れ部改修 (4.1.4)(4.2.4~4.2.7)</p> <table border="1"> <tr> <th>ひび割れ幅</th> <th>工法</th> <th>材料</th> <th>注入(口)間隔</th> <th>注入量</th> </tr> <tr> <td>0.2mm以上 1.0mm以下</td> <td>* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* エポキシ樹脂 JIS A 6024</td> <td>* 200~300</td> <td>○ 130 ○</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th>ひび割れ幅</th> <th>工法</th> <th>材料</th> <th>注入(口)間隔</th> <th>注入量</th> </tr> <tr> <td>0.2mm以上 1.0mm以下</td> <td>* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* エポキシ樹脂 JIS A 6024</td> <td>* 200~300</td> <td>○ 130 ○</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <th>ひび割れ幅</th> <th>工法</th> <th>材料</th> <th>注入(口)間隔</th> <th>注入量</th> </tr> <tr> <td>0.2mm以上 1.0mm以下</td> <td>* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* エポキシ樹脂 JIS A 6024</td> <td>* 200~300</td> <td>○ 130 ○</td> </tr> </table> <p>(2) モルタル塗り仕上げ外壁 (4.1.4)(4.3.5~4.3.8)</p> <table border="1"> <tr> <th>ひび割れ幅</th> <th>工法</th> <th>材料</th> <th>注入(口)間隔</th> <th>注入量</th> </tr> <tr> <td>0.2mm以上 1.0mm以下</td> <td>* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* エポキシ樹脂 JIS A 6024</td> <td>* 200~300</td> <td>○ 130 ○</td> </tr> </table> <p>(3) タイル張り仕上げ外壁 (4.1.4)(4.4.2)(4.4.5)(4.4.6)</p> <table border="1"> <tr> <th>ひび割れの幅</th> <th>工法</th> <th>材料</th> <th>注入(口)間隔</th> <th>注入量</th> </tr> <tr> <td>0.2mm以上 1.0mm以下</td> <td>* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* エポキシ樹脂 JIS A 6024</td> <td>* 200~300</td> <td>○ 130 ○</td> </tr> </table> <p>(4) タイル張り仕上げ外壁 (4.1.4)(4.4.2)(4.4.5)(4.4.6)</p> <table border="1"> <tr> <th>ひび割れの幅</th> <th>工法</th> <th>材料</th> <th>注入(口)間隔</th> <th>注入量</th> </tr> <tr> <td>0.2mm以上 1.0mm以下</td> <td>* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* エポキシ樹脂 JIS A 6024</td> <td>* 200~300</td> <td>○ 130 ○</td> </tr> </table> <p>(4) 樹脂注入工法のひび割れ部の注入状況の確認方法 * 行わない ○ 行う (コア抜き) 抜き回数 * 長さ500mmごと及びその端数につき1個 ○ 補修方法 * 図示 ○</p>	ひび割れ幅	工法	材料	注入(口)間隔	注入量	0.2mm以上 1.0mm以下	* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	* エポキシ樹脂 JIS A 6024	* 200~300	○ 130 ○	ひび割れ幅	工法	材料	注入(口)間隔	注入量	0.2mm以上 1.0mm以下	* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	* エポキシ樹脂 JIS A 6024	* 200~300	○ 130 ○	ひび割れ幅	工法	材料	注入(口)間隔	注入量	0.2mm以上 1.0mm以下	* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	* エポキシ樹脂 JIS A 6024	* 200~300	○ 130 ○	ひび割れ幅	工法	材料	注入(口)間隔	注入量	0.2mm以上 1.0mm以下	* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	* エポキシ樹脂 JIS A 6024	* 200~300	○ 130 ○	ひび割れの幅	工法	材料	注入(口)間隔	注入量	0.2mm以上 1.0mm以下	* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	* エポキシ樹脂 JIS A 6024	* 200~300	○ 130 ○	ひび割れの幅	工法	材料	注入(口)間隔	注入量	0.2mm以上 1.0mm以下	* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	* エポキシ樹脂 JIS A 6024	* 200~300	○ 130 ○	<p>3. 浮き部改修 (4.1.4)(4.3.9~16)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">改修工法の種類</th> <th colspan="2">アンカーピンの本数 (本/m)</th> <th colspan="2">注入口の箇所数 (箇所/m)</th> <th rowspan="2">注入量 (mL/箇所)</th> </tr> <tr> <th>一般部</th> <th>指定部</th> <th>一般部</th> <th>指定部</th> </tr> <tr> <td>アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 16</td> <td>* 25</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>* 25</td> </tr> <tr> <td>アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 13</td> <td>* 20</td> <td>* 12</td> <td>* 20</td> <td>* 25</td> </tr> <tr> <td>アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td> <td>* 13</td> <td>* 20</td> <td>* 12</td> <td>* 20</td> <td>* 50</td> </tr> <tr> <td>注入口アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 9</td> <td>* 16</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>* 25</td> </tr> <tr> <td>注入口アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 9</td> <td>* 16</td> <td>* 9</td> <td>* 16</td> <td>* 25</td> </tr> <tr> <td>注入口アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td> <td>* 9</td> <td>* 16</td> <td>* 9</td> <td>* 16</td> <td>* 50</td> </tr> <tr> <td>充填工法</td> <td colspan="5">* ポリマーセメントモルタル ○ エポキシ樹脂モルタル</td> </tr> <tr> <td>モルタル塗替え工法</td> <td colspan="5">4.3.10による</td> </tr> </table> <p>(2) タイル張り仕上げ外壁 (4.1.4)(4.4.7~15)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">改修工法の種類</th> <th colspan="2">アンカーピンの本数 (本/m)</th> <th colspan="2">注入口の箇所数 (箇所/m)</th> <th rowspan="2">注入量 (mL/箇所)</th> </tr> <tr> <th>一般部</th> <th>指定部</th> <th>一般部</th> <th>指定部</th> </tr> <tr> <td>アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 16</td> <td>* 25</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>* 25</td> </tr> <tr> <td>アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 13</td> <td>* 20</td> <td>* 12</td> <td>* 20</td> <td>* 25</td> </tr> <tr> <td>アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td> <td>* 13</td> <td>* 20</td> <td>* 12</td> <td>* 20</td> <td>* 50</td> </tr> <tr> <td>注入口アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 9</td> <td>* 16</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>* 25</td> </tr> <tr> <td>注入口アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>* 9</td> <td>* 16</td> <td>* 9</td> <td>* 16</td> <td>* 25</td> </tr> <tr> <td>注入口アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td> <td>* 9</td> <td>* 16</td> <td>* 9</td> <td>* 16</td> <td>* 50</td> </tr> <tr> <td>エポキシ樹脂注入タイプ固定工法</td> <td colspan="5">(本/枚) (本/枚)</td> </tr> <tr> <td>アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td colspan="5">* ポリマーセメントモルタル</td> </tr> <tr> <td>アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td colspan="5">* ポリマーセメントモルタル</td> </tr> </table>	改修工法の種類	アンカーピンの本数 (本/m)		注入口の箇所数 (箇所/m)		注入量 (mL/箇所)	一般部	指定部	一般部	指定部	アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 16	* 25	—	—	* 25	アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 13	* 20	* 12	* 20	* 25	アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	* 13	* 20	* 12	* 20	* 50	注入口アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 9	* 16	—	—	* 25	注入口アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 9	* 16	* 9	* 16	* 25	注入口アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	* 9	* 16	* 9	* 16	* 50	充填工法	* ポリマーセメントモルタル ○ エポキシ樹脂モルタル					モルタル塗替え工法	4.3.10による					改修工法の種類	アンカーピンの本数 (本/m)		注入口の箇所数 (箇所/m)		注入量 (mL/箇所)	一般部	指定部	一般部	指定部	アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 16	* 25	—	—	* 25	アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 13	* 20	* 12	* 20	* 25	アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	* 13	* 20	* 12	* 20	* 50	注入口アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 9	* 16	—	—	* 25	注入口アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 9	* 16	* 9	* 16	* 25	注入口アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	* 9	* 16	* 9	* 16	* 50	エポキシ樹脂注入タイプ固定工法	(本/枚) (本/枚)					アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* ポリマーセメントモルタル					アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* ポリマーセメントモルタル					<p>5. 塗り仕上げ外壁等の改修 (4.1.5)(4.5.2)(表4.5.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>施工部位</th> <th>種類</th> <th>呼び名</th> <th>仕上げの形状</th> <th>工法</th> </tr> <tr> <td>外壁</td> <td>複層仕上</td> <td>防R透過型</td> <td>ゆず肌</td> <td>ローラー</td> </tr> </table> <p>(2) 複層仕上塗材及び可とう形改修塗材の耐水性等 (4.5.2) 7. 耐水性 * 耐候形3種 ● 耐候形1種</p> <p>4. 溶媒 * 水系 ○ 溶剤系 ○ 弱溶剤系</p> <p>4. 樹脂 * アクリル系 ○ シリカ系 ● アクリル系</p> <p>3. 外観 * つやあり ○ つやなし ○ メタリック</p> <p>(3) 既存塗膜等の除去、下地調整の工法 (4.5.4)(表4.5.4~4.5.7) * 高圧水洗工法 (50MPa程度の温水による洗浄 (はく離剤を使わない。)) ○ サンダー工法 ○ 水洗い工法 ● 塗膜はく離剤工法後、高圧水洗 (10~15MPa) 洗浄</p> <p>(4) 下地調整 * 下地調整塗材 ● ポリマーセメントモルタル ○ 防水型仕上塗材 (4.5.4)</p> <p>(5) 各工法の処理範囲 * 既存仕上げ面全体 ○ 図示 (4.5.4)</p>	施工部位	種類	呼び名	仕上げの形状	工法	外壁	複層仕上	防R透過型	ゆず肌	ローラー	<p>6. マスチック塗材塗り (4.1.5)(4.6.2)(表4.6.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>施工部位</th> <th>塗材</th> <th>仕上材塗</th> <th>防火性</th> <th>仕上げの種類</th> </tr> <tr> <td></td> <td>○ A ○ あり ○ C ○ なし</td> <td>○ あり ○ なし</td> <td>○ あり ○ なし</td> <td></td> </tr> </table> <p>(1) 外壁用塗膜防水材の仕上げの形状及び工法： (4.1.5)(4.7.2)(表4.7.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>施工部位</th> <th>仕上の形状</th> <th>工法</th> <th>下地準拠塗材</th> <th>耐水性</th> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 凹凸状 ○ 凸部処理 ○ 吹付け ○ 吹付け</td> <td></td> <td>○ 適用 ○ 3種</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ゆず肌状 ○ さざ波状</td> <td>ローラー</td> <td>○ 適用 ○ 3種</td> <td></td> </tr> </table> <p>模様の種類 ○ * 外壁用塗膜防水材の製造所の仕様による 外壁用仕上塗材の種類 ○ * 外壁用塗膜防水材の製造所の仕様による</p> <p>(2) コンクリート面及びモルタル面のひび割れ部、欠損部 (4.7.3)及び浮き部の処置 ○ 下地準拠緩衝材を用いる * 下地準拠緩衝材を用いない</p>	施工部位	塗材	仕上材塗	防火性	仕上げの種類		○ A ○ あり ○ C ○ なし	○ あり ○ なし	○ あり ○ なし		施工部位	仕上の形状	工法	下地準拠塗材	耐水性		○ 凹凸状 ○ 凸部処理 ○ 吹付け ○ 吹付け		○ 適用 ○ 3種			○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー	○ 適用 ○ 3種		<p>7. 外壁用塗膜防水材 (4.1.5)(4.7.2)(表4.7.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>施工部位</th> <th>仕上の形状</th> <th>工法</th> <th>下地準拠塗材</th> <th>耐水性</th> </tr> <tr> <td></td> <td>○ 凹凸状 ○ 凸部処理 ○ 吹付け ○ 吹付け</td> <td></td> <td>○ 適用 ○ 3種</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ ゆず肌状 ○ さざ波状</td> <td>ローラー</td> <td>○ 適用 ○ 3種</td> <td></td> </tr> </table> <p>模様の種類 ○ * 外壁用塗膜防水材の製造所の仕様による 外壁用仕上塗材の種類 ○ * 外壁用塗膜防水材の製造所の仕様による</p> <p>(2) コンクリート面及びモルタル面のひび割れ部、欠損部 (4.7.3)及び浮き部の処置 ○ 下地準拠緩衝材を用いる * 下地準拠緩衝材を用いない</p>	施工部位	仕上の形状	工法	下地準拠塗材	耐水性		○ 凹凸状 ○ 凸部処理 ○ 吹付け ○ 吹付け		○ 適用 ○ 3種			○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー	○ 適用 ○ 3種		<p>1. 改修工法 (5.1.3)</p> <p>(1) ○ かぶせ工法 ○ 撤去工法 (5.1.3) 両方適用の場合の区分は、図示</p> <p>(2) 新規に建具を設置する場合 (5.1.3) 壁部分の開口の開け方、新規建具周囲の補修工法並びに範囲 * 図示 ○</p>	<p>2. 防火戸 (5.1.4)</p> <p>(1) 防火戸の適用 ○ 適用する (5.1.4) (適用箇所： * 建具表による ○) ○ 適用しない</p> <p>(2) ヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動： (5.1.4) * 建具表による ○</p>	<p>3. 見本の製作等 (5.1.5)</p> <p>(1) 建具見本の製作 * 行わない ○ 行う (建具表により指定する。) (5.1.5)</p> <p>(2) 特殊な建具の仮組 * 行わない ○ 行う (建具表により指定する。) (5.1.5)</p>	<p>4. 取付調整等 (5.1.6)</p> <p>(1) ブラインドボックス等の再使用 * 行わない ○ 行う (建具表により指定する。) (5.1.6)</p> <p>(2) 防犯建物部品 * 適用する ○ 適用しない (5.1.7)</p>	<p>5. アルミニウム製建具 (5.2.2)(表5.2.1)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th colspan="3">性能等級</th> </tr> <tr> <th>A種</th> <th>B種</th> <th>C種</th> </tr> <tr> <td>枠の見込み寸法 (mm)</td> <td>* 70 (注) ○ 100</td> <td>* 70 (注) ○ 100</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>耐風圧性</td> <td>S-4</td> <td>S-5</td> <td>S-6</td> </tr> <tr> <td>気密性</td> <td colspan="3">A-3</td> </tr> <tr> <td>水密性</td> <td>W-4</td> <td colspan="2">W-5</td> </tr> </table> <p>(2) 防音ドア、防音サッシとする場合の遮音性能の等級 * 図示 ○</p> <p>(3) 断熱ドア、断熱サッシとする場合の断熱性の等級 * 図示 ○</p> <p>(4) 外部に面するアルミニウム製建具の断熱性能による等級</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>枠見込み寸法 (mm)</th> <th>断熱性能による等級</th> </tr> <tr> <td>引き違い</td> <td>○ 70 ○ 100</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>引き違い</td> <td>○ 70 ○ 100</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>開き</td> <td>○ 70 ○ 100</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>開き</td> <td>○ 70 ○ 100</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>F I X</td> <td>○ 70 ○ 100</td> <td>○</td> </tr> </table> <p>(5) アルミニウム製建具の表面処理 (5.2.4)(表5.2.2) 7. 外部に面する建具</p> <p>(7) 種別 ○ BB-1種 ○ BB-2種 ○ 標準色 ○ 特注色 () (4) 着色 (○ ブラウン系 ○ ブラック ○ ステンカラー ○)</p> <p>4. 屋内の建具</p> <p>(7) 種別 ○ BC-1種 ○ BC-2種 ○ 標準色 ○ 特注色 () (4) 着色 (○ ブラウン系 ○ ブラック ○ ステンカラー ○)</p> <p>(6) ステンレス製のくつずりの仕上げ * HL ○ (5.2.4)</p> <p>(7) 結露水の処理方法 * 図示 ○ 水貯め式 ○ 排水式 ○ (5.2.4)</p>	種別	性能等級			A種	B種	C種	枠の見込み寸法 (mm)	* 70 (注) ○ 100	* 70 (注) ○ 100	○	耐風圧性	S-4	S-5	S-6	気密性	A-3			水密性	W-4	W-5		種類	枠見込み寸法 (mm)	断熱性能による等級	引き違い	○ 70 ○ 100	○	引き違い	○ 70 ○ 100	○	開き	○ 70 ○ 100	○	開き	○ 70 ○ 100	○	F I X	○ 70 ○ 100	○	<p>2022 . 10 . 31</p> <p>代表となる設計者 担当 一級建築士 辻 弘明 一級建築士 担当 構造設計一級建築士</p> <p>株式会社 創 建 社 一級建築士事務所登録 (石) 第614号</p> <p>管理建築士 一級建築士登録 第273809号 大江 徹</p> <p>余市町 令和8年度 町営住宅黒川団地外壁改修工事(西棟)</p> <p>建築改修特記仕様書-2</p> <p>意 04</p> <p>42</p>
ひび割れ幅	工法	材料	注入(口)間隔	注入量																																																																																																																																																																																																																																																																																							
0.2mm以上 1.0mm以下	* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	* エポキシ樹脂 JIS A 6024	* 200~300	○ 130 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
ひび割れ幅	工法	材料	注入(口)間隔	注入量																																																																																																																																																																																																																																																																																							
0.2mm以上 1.0mm以下	* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	* エポキシ樹脂 JIS A 6024	* 200~300	○ 130 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
ひび割れ幅	工法	材料	注入(口)間隔	注入量																																																																																																																																																																																																																																																																																							
0.2mm以上 1.0mm以下	* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	* エポキシ樹脂 JIS A 6024	* 200~300	○ 130 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
ひび割れ幅	工法	材料	注入(口)間隔	注入量																																																																																																																																																																																																																																																																																							
0.2mm以上 1.0mm以下	* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	* エポキシ樹脂 JIS A 6024	* 200~300	○ 130 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
ひび割れの幅	工法	材料	注入(口)間隔	注入量																																																																																																																																																																																																																																																																																							
0.2mm以上 1.0mm以下	* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	* エポキシ樹脂 JIS A 6024	* 200~300	○ 130 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
ひび割れの幅	工法	材料	注入(口)間隔	注入量																																																																																																																																																																																																																																																																																							
0.2mm以上 1.0mm以下	* 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 ○ 手動式エポキシ樹脂注入工法 ○ 機械式エポキシ樹脂注入工法	* エポキシ樹脂 JIS A 6024	* 200~300	○ 130 ○																																																																																																																																																																																																																																																																																							
改修工法の種類	アンカーピンの本数 (本/m)		注入口の箇所数 (箇所/m)		注入量 (mL/箇所)																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	一般部	指定部	一般部	指定部																																																																																																																																																																																																																																																																																							
アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 16	* 25	—	—	* 25																																																																																																																																																																																																																																																																																						
アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 13	* 20	* 12	* 20	* 25																																																																																																																																																																																																																																																																																						
アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	* 13	* 20	* 12	* 20	* 50																																																																																																																																																																																																																																																																																						
注入口アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 9	* 16	—	—	* 25																																																																																																																																																																																																																																																																																						
注入口アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 9	* 16	* 9	* 16	* 25																																																																																																																																																																																																																																																																																						
注入口アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	* 9	* 16	* 9	* 16	* 50																																																																																																																																																																																																																																																																																						
充填工法	* ポリマーセメントモルタル ○ エポキシ樹脂モルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																										
モルタル塗替え工法	4.3.10による																																																																																																																																																																																																																																																																																										
改修工法の種類	アンカーピンの本数 (本/m)		注入口の箇所数 (箇所/m)		注入量 (mL/箇所)																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	一般部	指定部	一般部	指定部																																																																																																																																																																																																																																																																																							
アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 16	* 25	—	—	* 25																																																																																																																																																																																																																																																																																						
アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 13	* 20	* 12	* 20	* 25																																																																																																																																																																																																																																																																																						
アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	* 13	* 20	* 12	* 20	* 50																																																																																																																																																																																																																																																																																						
注入口アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* 9	* 16	—	—	* 25																																																																																																																																																																																																																																																																																						
注入口アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	* 9	* 16	* 9	* 16	* 25																																																																																																																																																																																																																																																																																						
注入口アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	* 9	* 16	* 9	* 16	* 50																																																																																																																																																																																																																																																																																						
エポキシ樹脂注入タイプ固定工法	(本/枚) (本/枚)																																																																																																																																																																																																																																																																																										
アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																										
アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	* ポリマーセメントモルタル																																																																																																																																																																																																																																																																																										
施工部位	種類	呼び名	仕上げの形状	工法																																																																																																																																																																																																																																																																																							
外壁	複層仕上	防R透過型	ゆず肌	ローラー																																																																																																																																																																																																																																																																																							
施工部位	塗材	仕上材塗	防火性	仕上げの種類																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	○ A ○ あり ○ C ○ なし	○ あり ○ なし	○ あり ○ なし																																																																																																																																																																																																																																																																																								
施工部位	仕上の形状	工法	下地準拠塗材	耐水性																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	○ 凹凸状 ○ 凸部処理 ○ 吹付け ○ 吹付け		○ 適用 ○ 3種																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー	○ 適用 ○ 3種																																																																																																																																																																																																																																																																																								
施工部位	仕上の形状	工法	下地準拠塗材	耐水性																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	○ 凹凸状 ○ 凸部処理 ○ 吹付け ○ 吹付け		○ 適用 ○ 3種																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	○ ゆず肌状 ○ さざ波状	ローラー	○ 適用 ○ 3種																																																																																																																																																																																																																																																																																								
種別	性能等級																																																																																																																																																																																																																																																																																										
	A種	B種	C種																																																																																																																																																																																																																																																																																								
枠の見込み寸法 (mm)	* 70 (注) ○ 100	* 70 (注) ○ 100	○																																																																																																																																																																																																																																																																																								
耐風圧性	S-4	S-5	S-6																																																																																																																																																																																																																																																																																								
気密性	A-3																																																																																																																																																																																																																																																																																										
水密性	W-4	W-5																																																																																																																																																																																																																																																																																									
種類	枠見込み寸法 (mm)	断熱性能による等級																																																																																																																																																																																																																																																																																									
引き違い	○ 70 ○ 100	○																																																																																																																																																																																																																																																																																									
引き違い	○ 70 ○ 100	○																																																																																																																																																																																																																																																																																									
開き	○ 70 ○ 100	○																																																																																																																																																																																																																																																																																									
開き	○ 70 ○ 100	○																																																																																																																																																																																																																																																																																									
F I X	○ 70 ○ 100	○																																																																																																																																																																																																																																																																																									

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項
11.	11. 建具用金物	かまち戸の材料 かまち樹種 鏡板樹種 ふすまの材料 種別 ○ I型 ○ II型 上張り(押入等の裏側以外) ○ 鳥の子 ○ 新鳥の子又はビニル紙程度 枠及びつぎりの材料 * 図示 接着剤のホルムアルデヒド放散量 * F☆☆☆☆ ○ 表面板の厚さ * 表5.7.6 ○ 見込み寸法(mm) * 表5.7.7 ○ かまち戸 * 36 ○ ふすま * 19.5 ○ 戸ふすま * 30 ○ 紙張り障子 * 30 ○ (3) 工法 (5.7.4)(表5.7.8)(表5.7.10) 引戸の召合せかまをいんろう付き ○ 適用する ○ 適用しない ふすまの縁の仕上げ ○ 塗り縁 ○ 生地縁(素地) ○ 生地縁(ウレタンクリアー塗装) 1) 材質、形状及び寸法 (5.8.2)(表5.8.1~表5.8.5) 7. 金物の種類及び見え掛り部の材質: * 建具表による 建具表で指示のない建具金物は、表5.8.1による 4. 金属製建具、樹脂製建具及び木製建具に使用する丁番: * 表5.8.2~4による 7. 木製建具に使用する戸車及びレール: * 表5.8.5による (2) 取付け施工 (5.8.3) 取っ手類の取付け高さ(床仕上げ面からの高さ) * 建具表による ○ 建具製造所の仕様による (3) マスターキー (5.8.4) ○ 製作する * 製作しない ○ 既存のマスターキーに合わせる (4) 鍵 * 3本1組(室名札付) ○ (5.8.4) (5) 鍵箱(仕様は工事監督員と協議) ○ 無し ○ 有り (5.8.4) 12. 自動ドア開閉装置 (1) 引き戸用駆動装置の性能 (5.9.2)(表5.9.1) ○ SSLD-1 ○ SSLD-2 ○ DSLD-1 ○ DSLD-2 防錆の適用 ○ 適用する ○ 適用しない (2) 車椅子使用者用便所出入口に設置される引き戸用駆動装置の性能 (5.9.2) * 表5.9.2による ○ 図示 防錆の適用 ○ 適用する ○ 適用しない (3) 引き戸用検出装置の性能 (5.9.2) * 表5.9.3による ○ 図示 防錆の適用 ○ 適用する ○ 適用しない (4) 戸の開閉方式は、建具表による。 (5.9.2) (5) 引き戸用検出装置の種類 (5.9.2)(表5.9.4) * 光線(反射)センサー ○ 熱線センサー ○ その他 タッチスイッチの種類 ○ 無線式タッチスイッチ ○ 光線式タッチスイッチ 車椅子使用者用便所操作スイッチの種類 ○ 大形(開・閉)押しボタン・ ○ 非接触スイッチ (6) 凍結防止措置 (5.9.2) * 行う(適用箇所は建具表による) ○ 行わない 13. 自閉式上吊り引戸装置 (1) 性能等 (5.10.3) * 表5.10.1による 14. 重量シャッター (1) シャッターの種類 (5.11.2) ○ 管理用シャッター ○ 外壁用防火シャッター ○ 屋内用防火シャッター ○ 防煙シャッター (2) 耐風圧強度 (5.11.2) 管理用シャッター Pa 外壁用防火シャッター Pa (3) 開閉方式 (5.11.2 表5.11.1) * 電動式(手動併用) ○ 手動式 (4) 安全装置 (5.11.2) 7. 急降下制動装置等の設置箇所 * 図示 4. 障害物感知装置の設置箇所 * 図示 煙感知器連動機構若しくは熱感知器連動機構又は手動閉鎖装置により閉鎖する屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターに設ける装置 * 危害防止装置 ○ 可動座板式 危害防止装置又は可動座板式は「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」(昭和48年12月28日建設省告示第2563号)に定める基準に適合するもの 設置箇所 * 図示 (5) シャッターケース(管理用シャッター) (5.11.2) ○ 設ける ○ 設けない (6) 注意喚起装置 ○ 音声発生装置 ○ 注意灯の設置 ○ シャッターへの危険表示 ○ シャッターの下降位置の表示 (7) 吹雪止め 吹き込み防止用サイドシール(3方)を設ける (8) 鋼板の種類及びめっきの付着量 (5.11.3) 種類 ○ JIS G 3302 ○ JIS G 3312 付着量 * Z12又はF12 ○	15. 軽量シャッター (9) ガイドレール及びまくらさ、外部に面する箇所に用いる場合の座板又は座板カバー及びスイッチボックス類のふた ステンレス鋼板 ○ SUS304 ○ SUS430J1L ○ SUS443J1 ○ (1) 開閉形式による種類 * 手動式 (5.12.2)(表5.12.1) * 電動式(手動併用) (2) 耐風圧強度 Pa (5.12.2) (3) 安全装置(電動式シャッター) (5.12.2) 急降下停止装置 ○ 設ける ○ 設けない (4) スラットの材質の種類 (5.12.3) ○ JIS G 3312 めっき付着量 * Z06又はF06 ○ ○ JIS G 3322 めっき付着量 * AZ90 ○ (5) スラットの種類 ○ インターロッキング形 (5.12.4) ○ オーバーラッピング形 (5.13.2-3) セクション材料による区分 * スチールタイプ ○ 125 * バランス式 ○ スタンダード区分 ○ アルミニウムタイプ ○ 100 ○ チェーン式 ○ ローヘッド形 ○ ファイバーグラスタイプ ○ 75 ○ 電動式 ○ ハイリフト形 ○ ○ 50 ○ パーチカル形 17. ガラス (1) ガラスの種類及び厚さは建具表による (5.14.2) (2) ガラス留め材(防火戸以外) 該当 建具の種類 材 種 ○ アルミニウム製建具 * シーリング材 ○ 建築用ガスケット ○ 鋼製建具 * シーリング材 ○ ステンレス製建具 * シーリング材 ○ 鋼製軽量建具 * シーリング材 ○ 木製建具 * 押縁 ○ 樹脂製建具 * 建築用ガスケット (3) 板ガラスをはめ込む溝の大きさ (5.14.3) * 建具の製造所の仕様による ○ 図示 (4) ガラス用フィルム(JIS A 5759)の性能 * 図示 (1) 表面形状、呼び寸法及び厚さ * 図示 (5.14.5) (2) 壁用金属枠、補強材 * 図示 (5.14.5) (3) 力骨の材質、寸法、形状 (5.14.5) * ステンレス鋼(SUS304)、径5.5mm以上ご形状複筋及び単筋 ○ 図示 (4) 化粧目地モルタル 色 (5.14.5) (5) シーリングの種類 * 図示 (5.14.5) (6) 金属製化粧カバーの材質、寸法、形状 * 図示 (5.14.5) (7) 建築基準法に基づく風圧力に対応した工法 (5.14.5) * 適用する ○ 適用しない (8) ガラスブロックの目地幅の寸法 (5.14.5) 7. 平積み * 8mm以上15mm以下 ○ 4. 曲面積み * 曲率半径をガラスブロックの幅寸法の10倍以上とし、外側15mm以下、内側6mm以上 (9) 伸縮調整目地の位置 (5.14.5) * 幅6mm以下ごとに10~25mm ○ 図示 (10) 目地部の横力骨の納まり (5.14.5) * ガラスブロック製造所の仕様 ○ 図示 18. ガラスブロック積み (1) 既存間仕切壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁及び床の改修範囲 * 壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ○ (2) 天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲 * 壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ○ (3) 既存天井の撤去に伴う取り合い部の壁面の改修 * 既存のまま 2. 既存床の撤去及び下地補修 (1) 浮き、欠損部等による下地モルタルの撤去 (6.2.2) * 図示 ○ (2) 合成樹脂塗材の除去等 ○ 機械的除去工法 ○ 目荒し工法 (3) 改修後の床の清掃範囲 * 改修端部より1m程度 ○ 3. 既存壁の撤去及び下地補修 (1) 間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 (6.3.2) * モルタル塗替え工法(4.3.10)のモルタル塗り ○ (6.5.1) 4. 木下地等 (6.5.2)(表6.5.1) 7. 部位 種 別 備考 下地材 * A種(15%以下) ○ B種(20%以下) 全断面の平均 造作材 * A種(15%以下) ○ B種(18%以下) の推定値 4. ホルムアルデヒド放散量 * F☆☆☆☆ ○	(3) 製材 (6.5.2) 7. JAS 1083-5による下地用製材 施工箇所 等級 寸法(mm) 保存処理 含水率 * 2級 ○ 防腐 ○ 防虫 * A種 ○ 防ぎ ○ B種 * 2級 ○ 防腐 ○ 防虫 * A種 ○ 防ぎ ○ B種 * 2級 ○ 防腐 ○ 防虫 * A種 ○ 防ぎ ○ B種 4. JAS 1083-2による造作用製材 施工箇所 等級 寸法(mm) 保存処理 含水率 見え掛り面 * 上小節 ○ 防腐 ○ 防虫 * A種 ○ 防ぎ ○ B種 見え掛り面以外 * 上小節 ○ 防腐 ○ 防虫 * A種 * 小節 ○ 防ぎ ○ B種 5. JAS 1083-6による広葉樹製材 施工箇所 等級 寸法(mm) 保存処理 含水率 * 1等 ○ 防腐 ○ 防虫 * 10%以下 ○ 防ぎ ○ * 1等 ○ 防腐 ○ 防虫 * 10%以下 ○ 防ぎ ○ * 1等 ○ 防腐 ○ 防虫 * 10%以下 ○ 防ぎ ○ 6. JAS 1083(製材)以外の製材 (6.5.2)(表6.5.2) 施工箇所 寸法(mm) 材面の品質 防虫処理 含水率 * A種 ○ 適用する * A種 ○ B種 ○ 適用しない ○ B種 * A種 ○ 適用する * A種 ○ B種 ○ 適用しない ○ B種 * A種 ○ 適用する * A種 ○ B種 ○ 適用しない ○ B種 (4) JAS乾燥認定工場から出荷された木材は、出荷証明書若くは、その他の工場から出荷された木材は、北海道林産物検査会が発行する検査証明書を提出すること。 (5) カラマツの使用範囲は、東・母屋・土台・大引きとする。 (6) 造作用集成材等 (6.5.2) 7. 「集成材の日本農林規格」による造作用集成材等 施工箇所 樹種 見付け材面数 寸法(mm) 見付け材面の品質 面 * 1等 ○ 2等 面 * 1等 ○ 2等 面 * 1等 ○ 2等 4. 「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材 施工箇所 樹種 厚さ(mm) 見付け材面数 寸法(mm) 見付け材面の品質 化粧薄板: 面 * 1等 ○ 2等 芯材: 面 * 1等 ○ 2等 化粧薄板: 面 * 1等 ○ 2等 芯材: 面 * 1等 ○ 2等 化粧薄板: 面 * 1等 ○ 2等 芯材: 面 * 1等 ○ 2等 5. 「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材等 施工箇所 樹種 寸法(mm) 見付け材面の品質 含水率 * 1等 ○ 2等 * 15%以下 ○ * 1等 ○ 2等 * 15%以下 ○ * 1等 ○ 2等 * 15%以下 ○ 6. 「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材 施工箇所 樹種 寸法(mm) 厚さ(mm) 見付け材面の品質 含水率 化粧薄板: * 1等 ○ 2等 * 15%以下 ○ 芯材: * 1等 ○ 2等 * 15%以下 ○ 化粧薄板: * 1等 ○ 2等 * 15%以下 ○ 芯材: * 1等 ○ 2等 * 15%以下 ○ (7) 造作用単板積層材 (6.5.2) 7. JAS 0701の造作用単板積層材 施工箇所 品名 寸法(mm) 表面の品質(化粧加工) 防虫処理 ○ 有り ○ 適用する 加工: ○ 天然木化粧加工 ○ 適用しない ○ 塗装加工 ○ 無し(等級:) ○ 有り ○ 適用する 加工: ○ 天然木化粧加工 ○ 適用しない ○ 塗装加工 ○ 無し(等級:) 4. JAS 0701以外の造作用単板積層材 施工箇所 寸法(mm) 表面の品質(化粧加工) 含水率 防虫処理 ○ 有り * 14%以下 ○ 適用する 加工: ○ 天然木化粧加工 ○ 適用しない ○ 塗装加工 ○ 無し() ○ 有り * 14%以下 ○ 適用する 加工: ○ 天然木化粧加工 ○ 適用しない ○ 塗装加工 ○ 無し() 5. JAS 3079による直交集成板 施工箇所 品名 樹種 寸法(mm) 強度等級 種別 接着性能 ○ 異等級構成 ○ ○ ○ 目視1等 ○ A種 ○ A ○ 同一等級構成 ○ ○ ○ 目視2等 ○ B種 ○ B ○ ○ ○ ○ C ○ 異等級構成 ○ ○ ○ 目視1等 ○ A種 ○ A ○ 同一等級構成 ○ ○ ○ 目視2等 ○ B種 ○ B ○ ○ ○ C	(8) 合板等 (6.5.2) 7. 「合板の日本農林規格」による普通合板 施工箇所 品名 厚さ(mm) 単板の樹種名 接着の程度 板面の品質 防虫処理 * 5.5 ○ * 1類 ○ 2類 広葉樹 * 2等 ○ 1等 ○ 適用する 針葉樹 * 0-D ○ 適用しない * 5.5 ○ * 1類 ○ 2類 広葉樹 * 2等 ○ 1等 ○ 適用する 針葉樹 * 0-D ○ 適用しない 4. 「合板の日本農林規格」による構造用合板 施工箇所 品名 厚さ(mm) 単板の樹種名 接着の程度 板面の品質 等級 防虫処理 強度等級 * 12.0 ○ ○ ○ * 0-D * 2級 * 特類 ○ 適用する ○ ○ ○ * 1級 * 1類 ○ () * 12.0 ○ ○ ○ * 0-D * 2級 * 特類 ○ 適用する ○ ○ ○ * 1級 * 1類 ○ () 5. 「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板 施工箇所 品名 厚さ(mm) 単板の樹種名 接着の程度 防虫処理 ○ 12.0 ○ ○ ○ * 特類 ○ 適用する ○ ○ ○ * 1類 ○ 適用しない ○ 12.0 ○ ○ ○ * 特類 ○ 適用する ○ ○ ○ * 1類 ○ 適用しない 6. 「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板 施工箇所 厚さ(mm) 単板の樹種名 接着の程度 防虫処理 ○ ○ ○ ○ 1類 ○ 適用する ○ ○ ○ ○ 2類 ○ 適用しない ○ ○ ○ ○ 1類 ○ 適用する ○ ○ ○ ○ 2類 ○ 適用しない 7. 「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板 施工箇所 品名 単板の樹種名 化粧加工の方法 表面性能 厚さ(mm) 接合の程度 防虫処理 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 適用する ○ 塗装等 ○ ○ ○ ○ 適用しない ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 適用する ○ 塗装等 ○ ○ ○ ○ 適用しない 8. JIS A 5908によるパーティクルボード 施工箇所 表裏面の状態による区分 曲げ強さによる区分 耐水性による区分 厚さ(mm) * 13タイプ ○ ○ 耐水性1(Mタイプ) * 15 ○ ○ 耐水性2(Pタイプ) ○ * 13タイプ ○ ○ 耐水性1(Mタイプ) * 15 ○ ○ 耐水性2(Pタイプ) ○ 9. JAS 0360による構造用パネル 施工箇所 品名 厚さ(mm) 10. JIS A 5905によるミディアムデンシティファイバーボード(MDF) (6.5.2) 施工箇所 表裏面の状態による区分 曲げ強さによる区分 耐水性による区分 難燃性による区分 厚さ(mm) (9) 接合具等 (6.5.3) 7. 釘等 造作材の化粧面の釘打ち * 隠し釘打ち ○ 4. 諸金物 形状、寸法及び材質 * 表6.5.3~表6.5.5による ○ 図示 5. 接着剤 ホルムアルデヒド放散量 * F☆☆☆☆ ○ (10) 木れんがの接着工法に使用する接着剤 (6.5.4) ホルムアルデヒド放散量 * F☆☆☆☆ ○ (11) 防蟻・防蟻処理 (6.5.5) 7. 表面処理用防蟻剤は工事監督員の承諾するものとする 4. 防蟻・防蟻処理が必要な樹種による製材及び集成材 適用部位 () 9. 薬剤の加圧注入処理等による防蟻・防蟻処理 適用部位 保存処理性能区分 ○ K2 ○ K3 ○ K4 ○ K2 ○ K3 ○ K4 1. 薬剤の塗布等による防蟻・防蟻処理 適用部位 薬剤の種類 処理の方法 ○ JIS K 1571に適合する表面処理用木材保存剤又は同等品 ○ 薬剤の製造所の仕様による ○ JIS K 1571付属書Aに基づく表面処理用木材保存剤 ○ 薬剤の製造所の仕様による 種類: () * 薬剤の製造所の仕様による ○ 8. 薬剤の接着剤への混入による防蟻・防蟻処理 適用部位 () 9. 合板等の加圧注入処理等による防蟻・防蟻処理 適用部位 () 保存処理の性能区分 * K3 ○ 8. 不燃処理木材等 ○ 不燃材料 ○ 準不燃材料 ○ 難燃材料						

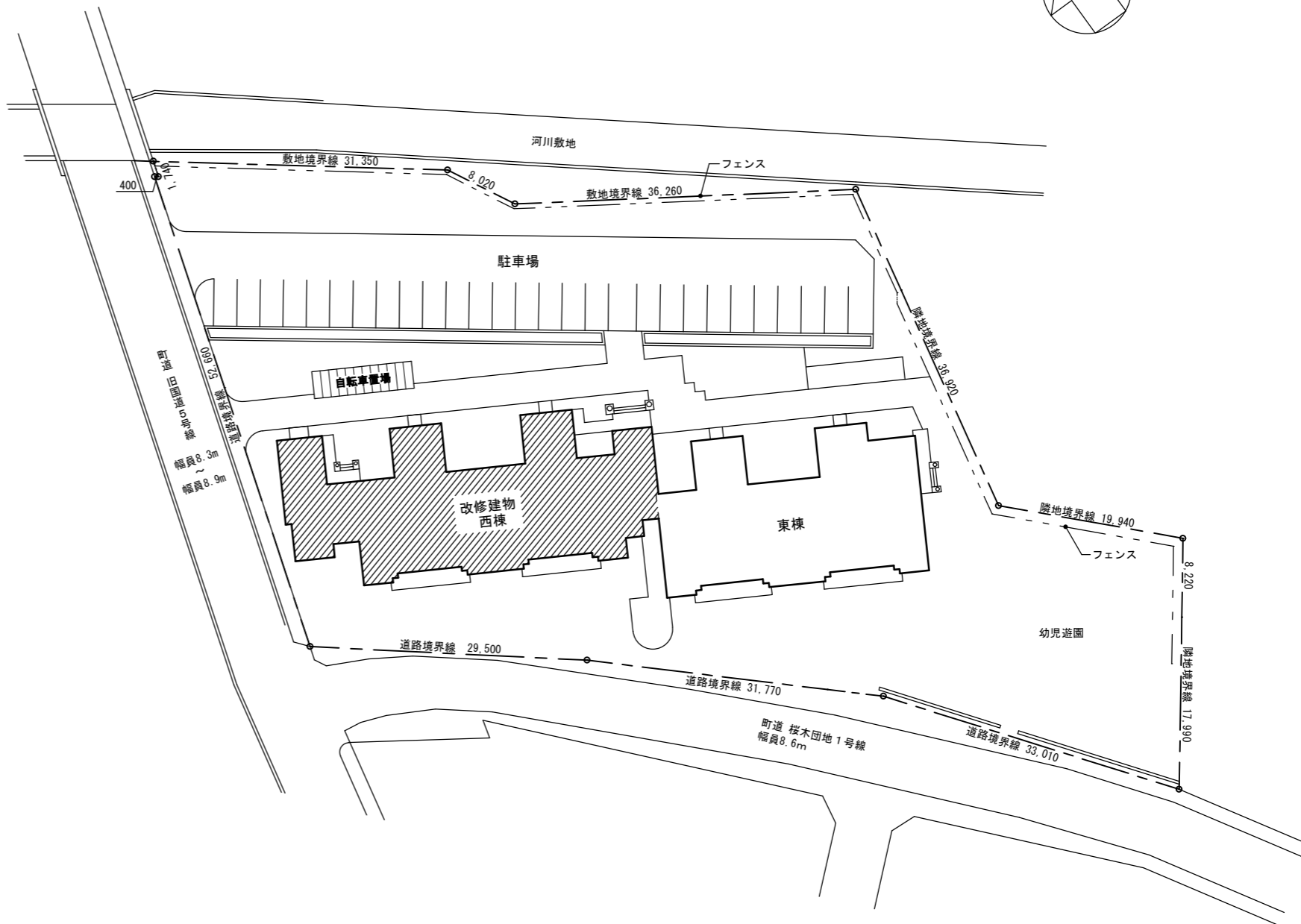
章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項																							
5.	軽量鉄骨天井下地	(12) 鉄筋コンクリート造等の内部間仕切組及び床組 (6.5.6) 7. 間仕切組に用いる木材 * 杉又は松 ○	(1) 材料 (6.6.2)(表6.6.1) 7. 野縁等の種類 <table border="1"> <tr><th>施工部位</th><th>野縁等の種類</th></tr> <tr><td>屋内</td><td>* 19形 ○ 25形</td></tr> <tr><td>屋外</td><td>* 19形 * 25形</td></tr> </table>	施工部位	野縁等の種類	屋内	* 19形 ○ 25形	屋外	* 19形 * 25形	(1) 耐動荷重性床シート (6.8.2) <table border="1"> <tr><th>施工箇所</th><th>種類</th><th>厚さ(mm)</th></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	施工箇所	種類	厚さ(mm)				▷ 10. フローリング張り (1) 単層フローリング (6.11.2~7)(表6.11.1)(表6.11.3)(表6.11.5) <table border="1"> <tr><th>品名</th><th>樹種</th><th>工法</th><th>厚さ(mm)</th><th>仕上げ塗装</th></tr> <tr><td>○ フローリングボード1等</td><td>* なら ○</td><td>○ 釘留め (根太張り)</td><td>○ 図示</td><td>○ 塗装品 ○ 無塗装品</td></tr> <tr><td>○ フローリングブロック1等</td><td>○ なら ○</td><td>○ 接着</td><td>○ 図示</td><td>○ 塗装品 ○ 無塗装品</td></tr> </table>	品名	樹種	工法	厚さ(mm)	仕上げ塗装	○ フローリングボード1等	* なら ○	○ 釘留め (根太張り)	○ 図示	○ 塗装品 ○ 無塗装品	○ フローリングブロック1等	○ なら ○	○ 接着	○ 図示	○ 塗装品 ○ 無塗装品	▷ 14. モルタル張り (1) 材料 (6.15.3) ○ 現場調査材料 ○ 既調合材料 (6.15.3) (2) 既製目地材 (6.15.3) ○ 設ける 施工箇所 () 形状 (* 図示 ○) ○ 設けない (3) 下地処理 (6.15.5) 壁面の仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処理 処理方法 * 図示 ○	
		施工部位		野縁等の種類																														
		屋内		* 19形 ○ 25形																														
		屋外		* 19形 * 25形																														
		施工箇所		種類	厚さ(mm)																													
		品名		樹種	工法	厚さ(mm)	仕上げ塗装																											
		○ フローリングボード1等		* なら ○	○ 釘留め (根太張り)	○ 図示	○ 塗装品 ○ 無塗装品																											
		○ フローリングブロック1等		○ なら ○	○ 接着	○ 図示	○ 塗装品 ○ 無塗装品																											
		(13) 窓、出入口その他に用いる木材 (6.5.7) 7. 吊元栓、水掛りの下枠及び敷板 * ひのき ○ 4. その他 * 杉又は松 ○		(2) 形式及び寸法 (6.6.3)(表6.6.2) 7. 野縁受け、つりボルト及びビンサートの間隔 <table border="1"> <tr><th>屋内</th><td>* 900mm程度 周辺部の端から150mm以内</td></tr> <tr><td>屋外</td><td>○</td></tr> </table>	屋内	* 900mm程度 周辺部の端から150mm以内	屋外	○	(3) 防滑性床シート (6.8.2) <table border="1"> <tr><th>施工箇所</th><th>種類</th><th>厚さ(mm)</th></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>		施工箇所	種類	厚さ(mm)					(2) 複合フローリング (6.11.2~7)(表6.11.2)(表6.11.4)(表6.11.6) <table border="1"> <tr><th>樹種</th><th>種別</th><th>工法</th><th>厚さ(mm)</th><th>仕上げ塗装</th></tr> <tr><td>* なら ○ さくら ○ ひのき、まつ</td><td>○ A種 ○ B種 * C種</td><td>○ 釘留め (根太張り) ○ 釘留め (直張り) ○ 接着</td><td>○ (mm) ○ 図</td><td>○ 塗装品 ○ 無塗装品</td></tr> </table>	樹種	種別	工法	厚さ(mm)	仕上げ塗装	* なら ○ さくら ○ ひのき、まつ	○ A種 ○ B種 * C種	○ 釘留め (根太張り) ○ 釘留め (直張り) ○ 接着	○ (mm) ○ 図	○ 塗装品 ○ 無塗装品	(3) 下地処理 (6.15.5) 壁面の仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処理 処理方法 * 図示 ○					
屋内	* 900mm程度 周辺部の端から150mm以内																																	
屋外	○																																	
施工箇所	種類	厚さ(mm)																																
樹種	種別	工法	厚さ(mm)	仕上げ塗装																														
* なら ○ さくら ○ ひのき、まつ	○ A種 ○ B種 * C種	○ 釘留め (根太張り) ○ 釘留め (直張り) ○ 接着	○ (mm) ○ 図	○ 塗装品 ○ 無塗装品																														
(14) 縁甲板及び上りがまに用いる木材 (6.5.8) * ひのき ○	(3) 工法 (6.6.4) 7. 既存の埋込みインサートを使用する場合 つりボルトの引張試験 <table border="1"> <tr><th>箇所数</th><th>確認する強度</th></tr> <tr><td>* 3箇所(当該階) ○</td><td>* 400N程度 ○</td></tr> </table>	箇所数	確認する強度	* 3箇所(当該階) ○	* 400N程度 ○	(4) 防滑性床シート (6.8.2) <table border="1"> <tr><th>施工箇所</th><th>種類</th><th>寸法(mm)</th><th>厚さ(mm)</th></tr> <tr><td></td><td></td><td>x</td><td>x</td></tr> </table>	施工箇所	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)			x	x	(3) 特殊フローリング <table border="1"> <tr><th>品名</th><th>表面材の樹種</th><th>仕上げ塗装</th></tr> <tr><td>○ 屋内体育館アリーナ床 (JIS A 6519)</td><td>* なら</td><td></td></tr> <tr><td>○ 柔剣道場の床 (JIS A 6519)</td><td>* なら</td><td></td></tr> </table>	品名	表面材の樹種	仕上げ塗装	○ 屋内体育館アリーナ床 (JIS A 6519)	* なら		○ 柔剣道場の床 (JIS A 6519)	* なら		(4) 床の目地 (6.15.6) ○ 設ける (種類 * 押し目地 ○) * 目地割2m程度、最大目地間隔3m程度 ○ ○ 設けない									
箇所数	確認する強度																																	
* 3箇所(当該階) ○	* 400N程度 ○																																	
施工箇所	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)																															
		x	x																															
品名	表面材の樹種	仕上げ塗装																																
○ 屋内体育館アリーナ床 (JIS A 6519)	* なら																																	
○ 柔剣道場の床 (JIS A 6519)	* なら																																	
(15) 壁及び天井下地に用いる木材 (6.5.9) * 杉又は松 ○	(4) 野縁の間隔 (6.6.3) <table border="1"> <tr><th>屋内</th><td>* 表6.6.2による</td></tr> <tr><td>屋外</td><td>○</td></tr> </table>	屋内	* 表6.6.2による	屋外	○	(5) 防滑性床シート (6.8.2) <table border="1"> <tr><th>施工箇所</th><th>種類</th><th>寸法(mm)</th><th>厚さ(mm)</th></tr> <tr><td></td><td></td><td>x</td><td>x</td></tr> </table>	施工箇所	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)			x	x	(4) フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 (6.11.2) * F☆☆☆☆ ○	(4) 床の目地 (6.15.6) ○ 設ける (種類 * 押し目地 ○) * 目地割2m程度、最大目地間隔3m程度 ○ ○ 設けない																		
屋内	* 表6.6.2による																																	
屋外	○																																	
施工箇所	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)																															
		x	x																															
6.	軽量鉄骨壁下地	(1) 材料 (6.6.2)(表6.6.1) 7. 野縁等の種類 <table border="1"> <tr><th>施工部位</th><th>野縁等の種類</th></tr> <tr><td>屋内</td><td>* 19形 ○ 25形</td></tr> <tr><td>屋外</td><td>* 19形 * 25形</td></tr> </table>	施工部位	野縁等の種類	屋内	* 19形 ○ 25形	屋外	* 19形 * 25形	▷ 8. カーペット敷き <table border="1"> <tr><th>種別</th><th>織り方</th><th>パイルの形状</th><th>色柄</th><th>パイル糸の種類</th><th>帯電性</th></tr> <tr><td>○ A種 ○ B種 ○ C種</td><td>○ ウイルトン ○ フェイストッ ○ フェイス ○ アクシミンスター</td><td>○ ループ ○ カット ○ 併用</td><td>* 模様なし ○ 無地 ○ 毛糸 B種、C種の場合 * 人体帯電圧 3.0kV以下 ○ 適用しない</td><td>A種の場合 ○ 適用する 性能 ○ 人体帯電圧 3.0kV以下 ○ 適用しない</td><td>性能 ○ 人体帯電圧 3.0kV以下 ○ 適用しない</td></tr> </table>	種別	織り方	パイルの形状	色柄	パイル糸の種類	帯電性	○ A種 ○ B種 ○ C種	○ ウイルトン ○ フェイストッ ○ フェイス ○ アクシミンスター	○ ループ ○ カット ○ 併用	* 模様なし ○ 無地 ○ 毛糸 B種、C種の場合 * 人体帯電圧 3.0kV以下 ○ 適用しない	A種の場合 ○ 適用する 性能 ○ 人体帯電圧 3.0kV以下 ○ 適用しない	性能 ○ 人体帯電圧 3.0kV以下 ○ 適用しない	▷ 11. 畳敷き (1) 普通畳の種類 (6.12.2) ○ A種 ○ B種 ○ C種 * D種 A種の場合の畳表 ○ JS ○ J1 ○ J2 C種の場合の畳表 ○ PS-C20 ○ PS-C25 ○ PS-C30 D種の場合の畳表 ○ KT-I ○ KT-II * KT-III ○ KT-K ○ KT-N ○ C1 ○ C2	▷ 15. タイル張り (1) 伸縮調整目地の位置 (6.16.2) 床タイル * 縦・横とも4m以内ごと ○ 図示 床タイル以外 * 図示 ○ (2) セメントモルタルによるタイル張り (6.16.2)(6.16.3) 再生材利用タイルの使用 * 使用する ○ 使用しない											
		施工部位	野縁等の種類																															
		屋内	* 19形 ○ 25形																															
		屋外	* 19形 * 25形																															
		種別	織り方	パイルの形状	色柄	パイル糸の種類	帯電性																											
		○ A種 ○ B種 ○ C種	○ ウイルトン ○ フェイストッ ○ フェイス ○ アクシミンスター	○ ループ ○ カット ○ 併用	* 模様なし ○ 無地 ○ 毛糸 B種、C種の場合 * 人体帯電圧 3.0kV以下 ○ 適用しない	A種の場合 ○ 適用する 性能 ○ 人体帯電圧 3.0kV以下 ○ 適用しない	性能 ○ 人体帯電圧 3.0kV以下 ○ 適用しない																											
		(2) スタッドの高さが5.0mを超える場合 * 図示 (6.7.3)(表6.7.1) (3) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(6) 天井下地材における耐震性を考慮した補強 (6.6.4) 補強箇所 * 図示 補強方法 * 図示	(6) 天井下地材における耐震性を考慮した補強 (6.6.4) 補強箇所 * 図示 補強方法 * 図示	(5) 接着剤 (6.11.5) * 合成樹脂発泡シート ○	(4) フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 (6.11.2) * F☆☆☆☆ ○																												
		(3) スタッドの高さが4.5mを超える場合 * 図示 (6.7.3)(表6.7.1) (4) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(7) 既存の埋込みインサートを使用する場合 つりボルトの引張試験 <table border="1"> <tr><th>箇所数</th><th>確認する強度</th></tr> <tr><td>* 3箇所(当該階) ○</td><td>* 400N程度 ○</td></tr> </table>	箇所数	確認する強度	* 3箇所(当該階) ○	* 400N程度 ○	(7) ホルムアルデヒド放散量 * F☆☆☆☆ ○ (4) 施工箇所の下地が、セメント系及び木質系以外の場 (表6.8.1) 合 (表6.8.2) 施工箇所 ○ 主成分による区分 ○		(6) 現場塗装仕上げ (6.11.6) ○ 適用する ○ 適用しない 適用する施工箇所 ○ 図示 下地調整 ○ する ○ しない 塗装の種類 * 珪藻土系塗り ○ 珪藻土系の上、ワックス塗り ○ 生地のままワックス塗り	(5) 接着剤 (6.11.5) * 合成樹脂発泡シート ○																							
		箇所数	確認する強度																															
		* 3箇所(当該階) ○	* 400N程度 ○																															
(4) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(8) 野縁の軒、ピロティ等の天井における耐震圧性を考慮した補強 (6.6.4) 補強箇所 * 図示 補強方法 * 図示	(8) 野縁の軒、ピロティ等の天井における耐震圧性を考慮した補強 (6.6.4) 補強箇所 * 図示 補強方法 * 図示	(7) ホルムアルデヒド放散量 * F☆☆☆☆ ○	(6) 現場塗装仕上げ (6.11.6) ○ 適用する ○ 適用しない 適用する施工箇所 ○ 図示 下地調整 ○ する ○ しない 塗装の種類 * 珪藻土系塗り ○ 珪藻土系の上、ワックス塗り ○ 生地のままワックス塗り																														
(5) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(9) スタッド、ランナ等の種類 (6.7.3)(表6.7.1) <table border="1"> <tr><th>施工部位</th><th>スタッドの高さによる区分</th><th>種類</th></tr> <tr><td></td><td>高さ2.7m以下</td><td>* 50形 ○</td></tr> <tr><td></td><td>高さ4.0m以下</td><td>* 65形 ○</td></tr> <tr><td></td><td>高さ4.0m超~4.5m以下</td><td>* 90形 ○</td></tr> <tr><td></td><td>高さ4.5m超~5.0m以下</td><td>* 100形 ○</td></tr> </table>	施工部位	スタッドの高さによる区分	種類		高さ2.7m以下	* 50形 ○		高さ4.0m以下	* 65形 ○		高さ4.0m超~4.5m以下	* 90形 ○		高さ4.5m超~5.0m以下	* 100形 ○	(9) スタッド、ランナ等の種類 (6.7.3)(表6.7.1) <table border="1"> <tr><th>施工部位</th><th>スタッドの高さによる区分</th><th>種類</th></tr> <tr><td></td><td>高さ2.7m以下</td><td>* 50形 ○</td></tr> <tr><td></td><td>高さ4.0m以下</td><td>* 65形 ○</td></tr> <tr><td></td><td>高さ4.0m超~4.5m以下</td><td>* 90形 ○</td></tr> <tr><td></td><td>高さ4.5m超~5.0m以下</td><td>* 100形 ○</td></tr> </table>	施工部位	スタッドの高さによる区分	種類		高さ2.7m以下	* 50形 ○		高さ4.0m以下	* 65形 ○		高さ4.0m超~4.5m以下	* 90形 ○		高さ4.5m超~5.0m以下	* 100形 ○	(8) 野縁の軒、ピロティ等の天井における耐震圧性を考慮した補強 (6.6.4) 補強箇所 * 図示 補強方法 * 図示	(7) ホルムアルデヒド放散量 * F☆☆☆☆ ○
施工部位	スタッドの高さによる区分	種類																																
	高さ2.7m以下	* 50形 ○																																
	高さ4.0m以下	* 65形 ○																																
	高さ4.0m超~4.5m以下	* 90形 ○																																
	高さ4.5m超~5.0m以下	* 100形 ○																																
施工部位	スタッドの高さによる区分	種類																																
	高さ2.7m以下	* 50形 ○																																
	高さ4.0m以下	* 65形 ○																																
	高さ4.0m超~4.5m以下	* 90形 ○																																
	高さ4.5m超~5.0m以下	* 100形 ○																																
(6) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(10) スタッドの高さが4.5mを超える場合 * 図示 (6.7.3)(表6.7.1) (11) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(10) スタッドの高さが4.5mを超える場合 * 図示 (6.7.3)(表6.7.1) (11) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(10) スタッドの高さが4.5mを超える場合 * 図示 (6.7.3)(表6.7.1) (11) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(8) 野縁の軒、ピロティ等の天井における耐震圧性を考慮した補強 (6.6.4) 補強箇所 * 図示 補強方法 * 図示	(7) ホルムアルデヒド放散量 * F☆☆☆☆ ○																													
(7) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(12) スタッドの高さが4.5mを超える場合 * 図示 (6.7.3)(表6.7.1) (13) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(12) スタッドの高さが4.5mを超える場合 * 図示 (6.7.3)(表6.7.1) (13) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(12) スタッドの高さが4.5mを超える場合 * 図示 (6.7.3)(表6.7.1) (13) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(8) 野縁の軒、ピロティ等の天井における耐震圧性を考慮した補強 (6.6.4) 補強箇所 * 図示 補強方法 * 図示	(7) ホルムアルデヒド放散量 * F☆☆☆☆ ○																													
(8) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(14) スタッドの高さが4.5mを超える場合 * 図示 (6.7.3)(表6.7.1) (15) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(14) スタッドの高さが4.5mを超える場合 * 図示 (6.7.3)(表6.7.1) (15) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(14) スタッドの高さが4.5mを超える場合 * 図示 (6.7.3)(表6.7.1) (15) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(8) 野縁の軒、ピロティ等の天井における耐震圧性を考慮した補強 (6.6.4) 補強箇所 * 図示 補強方法 * 図示	(7) ホルムアルデヒド放散量 * F☆☆☆☆ ○																													
(9) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(16) スタッドの高さが4.5mを超える場合 * 図示 (6.7.3)(表6.7.1) (17) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(16) スタッドの高さが4.5mを超える場合 * 図示 (6.7.3)(表6.7.1) (17) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(16) スタッドの高さが4.5mを超える場合 * 図示 (6.7.3)(表6.7.1) (17) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(8) 野縁の軒、ピロティ等の天井における耐震圧性を考慮した補強 (6.6.4) 補強箇所 * 図示 補強方法 * 図示	(7) ホルムアルデヒド放散量 * F☆☆☆☆ ○																													
(10) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(18) スタッドの高さが4.5mを超える場合 * 図示 (6.7.3)(表6.7.1) (19) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(18) スタッドの高さが4.5mを超える場合 * 図示 (6.7.3)(表6.7.1) (19) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(18) スタッドの高さが4.5mを超える場合 * 図示 (6.7.3)(表6.7.1) (19) 出入口及びこれに準じる開口部の補強 * 6.7.4による ○ 図示	(8) 野縁の軒、ピロティ等の天井における耐震圧性を考慮した補強 (6.6.4) 補強箇所 * 図示 補強方法 * 図示	(7) ホルムアルデヒド放散量 * F☆☆☆☆ ○																													

章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項	章	項目	特記事項
第8章	3. 素地ごしらえ	素地ごしらえ種別 (7.3.2~7)	●	1. コンクリートの種類	(1) コンクリートの類別 (8.1.3)(表8.1.1) * I類 ○ II類 ※ JIS認定表示工場で、かつ、(社)コンクリート工学協会から認定されたコンクリート主任技士又はコンクリート技士あるいはこれらと同等以上の技術者が常駐しており、配合設計及び品質管理等を適切に実施できる工場(全国品質管理協議会の認定した統一監査基準に基づく監査に合格した工場)から選定することとし、これにより難しい場合は工事監督員と協議すること	2. コンクリートの品質	(1) コンクリートの種類、形状及び寸法 (8.2.5)(表8.2.7)	26. 溶接継手	(4) 鉄筋相互のあき * 図示 ○ _____ (5) 施工完了後の継手部の試験 ○ 外観試験 ○ 超音波測定試験		
		種別 不透明塗料塗りの場合 * A種 ○ B種 透明塗料塗りの場合 ○ A種 * B種			(2) 建築基準法第37条第二号の規定に基づき国土交通大臣の認定を受けたコンクリート (8.1.3) ○ 適用する 適用箇所 * 図示 ○ _____ ● 適用しない		(2) モルタルのフロー値 ○ _____ (2) モルタルのフロー値 ○ _____ (1) せき板の材料 * 合板 ● 化粧開放型枠 (8.2.7) (2) 合板の厚さ * 12mm ○ _____ (3) スリープに用いる材料 (8.2.7)(表8.2.6) ○ 材種 ○ 規格等		(6) 不合格となった場合の措置 外観試験 * 8.4.2(5)(a)~ ○ _____ 超音波測定試験 * 図示 ○ _____		
第8章	4. 錆止め塗料塗り	素地面	●	2. コンクリートの品質	(3) 気乾単位容積質量による種類 (8.1.3) * 普通コンクリート ○ 軽量コンクリート (8.1.4)	3. 鉄骨製作工場	(1) 高力ボルトの種類 (8.2.5)	27. 型枠工事	(1) 適用箇所 * 図示 ○ _____ (2) 性能 * 図示 ○ _____ (3) 工法 * 図示 ○ _____ (4) 鉄筋相互のあき * 図示 ○ _____ (5) 施工完了後の溶接部の試験 ○ 外観試験 ○ 超音波探傷試験		
		改修塗り仕様			(1) コンクリートの強度 (8.1.4) 設計基準強度(Fc)の値は次のとおりとする ○ 18N/mm ² 施工部位: _____ ● 21N/mm ² 施工部位: 塀(復旧部分) ○ _____ N/mm ² 施工部位: _____		(1) 高力ボルトの種類 (8.2.5) ○ トルシヤ形高力ボルト ○ JIS形高力ボルト ○ 溶融亜鉛めっき高力ボルト (2) 高力ボルトの寸法 ねじの呼び ○ M12 ○ M16 ○ M20 ○ M22 ○ M24 溶接棒等及びガスシールドアーク溶接以外の溶接材料 (8.2.10) * 無収縮モルタル ○ _____		(1) 外部に面するコンクリートの打増し厚さ * 図示 ○ _____ (2) シアコネクタをセパレーターとして使用 ○ 使用する ● 使用しない (3) 普通エコセメントの場合の最小存置期間 * 図示 ○ _____		
第8章	5. 塗料塗り	鉄鋼面	●	4. 鉄筋の種類	(2) コンクリートの荷割し地点におけるスラブ (8.1.4) 7. 基礎、基礎梁、土間スラブ * 18cm ○ 15cm 4. 柱、梁、スラブ、壁 * 18cm	5. 溶接金網	(1) 高力ボルトの種類 (8.2.5)	28. 軽量コンクリート	(1) 軽量コンクリートの適用 (8.9.1) ○ なし ○ あり (適用箇所 * 図示 ○ _____) (2) 種類 ○ 1種 ○ 2種 (3) 気乾単位容積質量 ○ _____ t/m ³ (4) スラブ * 21cm ○ _____ (1) スラブ * 21cm ○ _____ (8.10.2) (2) 構造体強度補正值(S) * 6N/mm ² ○ _____ (8.11.1)		
		垂鉛めっき鋼面			(1) 鉄骨製作工場の加工能力 (8.1.5) 建築基準法第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場 ○ S ○ H ○ M ○ R ○ J 以上とする (2) 鉄骨製作工場における施工管理技術者の配置 (8.1.6) * 配置する ○ 配置しない		(2) 鉄筋の規格 (8.2.1) * JIS G 3112規格品 ○ 建築基準法第37条の規定に基づき認定を受けたせん断補強筋 鉄筋の種類記号 ● SD295 (D 10 ~ D 13) ○ SD345 (D _____ ~ D _____) ○ SD _____ (D _____ ~ D _____)		(1) 高力ボルトの種類 (8.2.5) ○ トルシヤ形高力ボルト ○ JIS形高力ボルト ○ 溶融亜鉛めっき高力ボルト (2) 高力ボルトの寸法 ねじの呼び ○ M12 ○ M16 ○ M20 ○ M22 ○ M24 溶接棒等及びガスシールドアーク溶接以外の溶接材料 (8.2.10) * 無収縮モルタル ○ _____	(1) 埋込み配管等の探査方法 (8.12.4) * 鉄筋探査器(電磁波レーダー法)により探査し、鉄筋、配管類の位置に差出しを行う ○ はつり出しによる ● 行わない (2) 確認試験 * 行う 引張試験機による引張試験 (8.12.7) 確認強度 _____ kN ● 行わない	
第8章	6. あと施工アンカー	新規	●	7. コンクリートの材料及び調合(セメント)	(3) 合板せき板を用いる場合のコンクリートの打放し仕上げ (8.1.4) 種類 ● A種 * B種 ○ C種 適用箇所 * 図示	6. あと施工アンカー	(1) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)	29. 暑中コンクリート	(1) 軽量コンクリートの適用 (8.9.1) ○ なし ○ あり (適用箇所 * 図示 ○ _____) (2) 種類 ○ 1種 ○ 2種 (3) 気乾単位容積質量 ○ _____ t/m ³ (4) スラブ * 21cm ○ _____ (1) スラブ * 21cm ○ _____ (8.10.2) (2) 構造体強度補正值(S) * 6N/mm ² ○ _____ (8.11.1)		
		塗替え			(1) あと施工アンカーの仕様 (8.2.4) ○ 金属系アンカー 引張耐力 _____ kN/本 せん断耐力 _____ kN/本 アンカー本体の径及び埋込み長さ * 図示 セット方式 * 本体打込み式改良型 ○ 接合部の種類、径及び長さ * 図示 * 接着系アンカー 引張耐力 _____ kN/本 せん断耐力 _____ kN/本 アンカーの種類 * カプセル方式の回転・打撃式 ○ 注入力 接着剤の品質 * 有機系 ○ 無機系 アンカーの径及び埋込み長さ * 有物理深さ140以上(引張耐力仕様) アンカー筋の種類 ● D10、D13 アンカー筋の新設壁内への定着長さ * L1以上とし重ね接手 (2) あと施工アンカーの性能確認試験 (8.2.4) ● 適用しない		(2) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)		(1) 暑中コンクリートの種類 (8.11.1) * 普通コンクリート ○ _____ (2) 設計基準強度(Fc)の値は次のとおりとする * 18N/mm ² 施工部位: _____ ○ _____ N/mm ² 施工部位: _____ (3) スラブ ○ 15cm ○ _____ (4) 表8.1.1以外のコンクリートの適用 ○ 適用する 適用箇所 _____		
第8章	7. コンクリートの材料及び調合(骨材)	コンクリート面	●	8. コンクリートの材料及び調合(骨材)	(1) セメントの種類 (8.2.5) * 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種	7. コンクリートの材料及び調合(セメント)	(1) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)	30. 無筋コンクリート	(1) 普通コンクリートの適用 (8.9.1) ○ なし ○ あり (適用箇所 * 図示 ○ _____) (2) 種類 ○ 1種 ○ 2種 (3) 気乾単位容積質量 ○ _____ t/m ³ (4) スラブ * 21cm ○ _____ (1) スラブ * 21cm ○ _____ (8.10.2) (2) 構造体強度補正值(S) * 6N/mm ² ○ _____ (8.11.1)		
		モルタル面			(2) 高炉セメントB種の適用箇所 ○ _____ (8.2.5) (3) フライアッシュセメントB種の適用箇所 ○ _____		(2) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)		(2) 構造体強度補正值(S) (N/mm ²) (8.2.5)(表8.2.4) ○ 3N ● 6N ○ 3Nかつ時期により温度補正 適用箇所 * 図示	(1) 埋込み配管等の探査方法 (8.12.4) * 鉄筋探査器(電磁波レーダー法)により探査し、鉄筋、配管類の位置に差出しを行う ○ はつり出しによる ● 行わない (2) 確認試験 * 行う 引張試験機による引張試験 (8.12.7) 確認強度 _____ kN ● 行わない	
第8章	8. コンクリートの材料及び調合(骨材)	押出成形セメント板面	●	9. 混和材料	(1) フェロニッケル系スラグ骨材、銅スラグ骨材及び電気炉酸化スラグ骨材 (8.2.5) ○ 使用する * 使用しない	8. コンクリートの材料及び調合(骨材)	(1) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)	31. あと施工アンカー工事	(1) 普通コンクリートの適用 (8.9.1) ○ なし ○ あり (適用箇所 * 図示 ○ _____) (2) 種類 ○ 1種 ○ 2種 (3) 気乾単位容積質量 ○ _____ t/m ³ (4) スラブ * 21cm ○ _____ (1) スラブ * 21cm ○ _____ (8.10.2) (2) 構造体強度補正值(S) * 6N/mm ² ○ _____ (8.11.1)		
		垂鉛めっき鋼面			(2) 混和剤の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(7)による ○ _____		(2) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)		(2) 埋込み配管等の探査方法 (8.12.4) * 鉄筋探査器(電磁波レーダー法)により探査し、鉄筋、配管類の位置に差出しを行う ○ はつり出しによる ● 行わない (2) 確認試験 * 行う 引張試験機による引張試験 (8.12.7) 確認強度 _____ kN ● 行わない		
第8章	9. 混和材料	コンクリート面	●	10. コンクリートの調合	(3) 混和剤の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____	9. 混和材料	(1) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)	32. 鉄骨工作	(1) 普通コンクリートの適用 (8.9.1) ○ なし ○ あり (適用箇所 * 図示 ○ _____) (2) 種類 ○ 1種 ○ 2種 (3) 気乾単位容積質量 ○ _____ t/m ³ (4) スラブ * 21cm ○ _____ (1) スラブ * 21cm ○ _____ (8.10.2) (2) 構造体強度補正值(S) * 6N/mm ² ○ _____ (8.11.1)		
		モルタル面			(1) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____		(2) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)		(2) 埋込み配管等の探査方法 (8.12.4) * 鉄筋探査器(電磁波レーダー法)により探査し、鉄筋、配管類の位置に差出しを行う ○ はつり出しによる ● 行わない (2) 確認試験 * 行う 引張試験機による引張試験 (8.12.7) 確認強度 _____ kN ● 行わない		
第8章	10. コンクリートの調合	鉄鋼面	●	10. コンクリートの調合	(1) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____	9. 混和材料	(1) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)	33. 高力ボルト接合	(1) 普通コンクリートの適用 (8.9.1) ○ なし ○ あり (適用箇所 * 図示 ○ _____) (2) 種類 ○ 1種 ○ 2種 (3) 気乾単位容積質量 ○ _____ t/m ³ (4) スラブ * 21cm ○ _____ (1) スラブ * 21cm ○ _____ (8.10.2) (2) 構造体強度補正值(S) * 6N/mm ² ○ _____ (8.11.1)		
		垂鉛めっき鋼面			(2) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____		(2) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)		(2) 埋込み配管等の探査方法 (8.12.4) * 鉄筋探査器(電磁波レーダー法)により探査し、鉄筋、配管類の位置に差出しを行う ○ はつり出しによる ● 行わない (2) 確認試験 * 行う 引張試験機による引張試験 (8.12.7) 確認強度 _____ kN ● 行わない		
第8章	11. 構造体用モルタルの材料及び調合	コンクリート面	●	10. コンクリートの調合	(1) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____	9. 混和材料	(1) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)	34. 溶接接合	(1) 普通コンクリートの適用 (8.9.1) ○ なし ○ あり (適用箇所 * 図示 ○ _____) (2) 種類 ○ 1種 ○ 2種 (3) 気乾単位容積質量 ○ _____ t/m ³ (4) スラブ * 21cm ○ _____ (1) スラブ * 21cm ○ _____ (8.10.2) (2) 構造体強度補正值(S) * 6N/mm ² ○ _____ (8.11.1)		
		モルタル面			(2) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____		(2) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)		(2) 埋込み配管等の探査方法 (8.12.4) * 鉄筋探査器(電磁波レーダー法)により探査し、鉄筋、配管類の位置に差出しを行う ○ はつり出しによる ● 行わない (2) 確認試験 * 行う 引張試験機による引張試験 (8.12.7) 確認強度 _____ kN ● 行わない		
第8章	12. 型枠の材料	コンクリート面	●	10. コンクリートの調合	(1) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____	9. 混和材料	(1) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)	35. 鉄骨の錆止め塗装	(1) 普通コンクリートの適用 (8.9.1) ○ なし ○ あり (適用箇所 * 図示 ○ _____) (2) 種類 ○ 1種 ○ 2種 (3) 気乾単位容積質量 ○ _____ t/m ³ (4) スラブ * 21cm ○ _____ (1) スラブ * 21cm ○ _____ (8.10.2) (2) 構造体強度補正值(S) * 6N/mm ² ○ _____ (8.11.1)		
		モルタル面			(2) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____		(2) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)		(2) 埋込み配管等の探査方法 (8.12.4) * 鉄筋探査器(電磁波レーダー法)により探査し、鉄筋、配管類の位置に差出しを行う ○ はつり出しによる ● 行わない (2) 確認試験 * 行う 引張試験機による引張試験 (8.12.7) 確認強度 _____ kN ● 行わない		
第8章	13. 鋼材	コンクリート面	●	10. コンクリートの調合	(1) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____	9. 混和材料	(1) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)	35. 鉄骨の錆止め塗装	(1) 普通コンクリートの適用 (8.9.1) ○ なし ○ あり (適用箇所 * 図示 ○ _____) (2) 種類 ○ 1種 ○ 2種 (3) 気乾単位容積質量 ○ _____ t/m ³ (4) スラブ * 21cm ○ _____ (1) スラブ * 21cm ○ _____ (8.10.2) (2) 構造体強度補正值(S) * 6N/mm ² ○ _____ (8.11.1)		
		モルタル面			(2) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____		(2) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)		(2) 埋込み配管等の探査方法 (8.12.4) * 鉄筋探査器(電磁波レーダー法)により探査し、鉄筋、配管類の位置に差出しを行う ○ はつり出しによる ● 行わない (2) 確認試験 * 行う 引張試験機による引張試験 (8.12.7) 確認強度 _____ kN ● 行わない		
第8章	14. 高力ボルト	コンクリート面	●	10. コンクリートの調合	(1) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____	9. 混和材料	(1) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)	35. 鉄骨の錆止め塗装	(1) 普通コンクリートの適用 (8.9.1) ○ なし ○ あり (適用箇所 * 図示 ○ _____) (2) 種類 ○ 1種 ○ 2種 (3) 気乾単位容積質量 ○ _____ t/m ³ (4) スラブ * 21cm ○ _____ (1) スラブ * 21cm ○ _____ (8.10.2) (2) 構造体強度補正值(S) * 6N/mm ² ○ _____ (8.11.1)		
		モルタル面			(2) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____		(2) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)		(2) 埋込み配管等の探査方法 (8.12.4) * 鉄筋探査器(電磁波レーダー法)により探査し、鉄筋、配管類の位置に差出しを行う ○ はつり出しによる ● 行わない (2) 確認試験 * 行う 引張試験機による引張試験 (8.12.7) 確認強度 _____ kN ● 行わない		
第8章	15. 溶接材料	コンクリート面	●	10. コンクリートの調合	(1) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____	9. 混和材料	(1) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)	35. 鉄骨の錆止め塗装	(1) 普通コンクリートの適用 (8.9.1) ○ なし ○ あり (適用箇所 * 図示 ○ _____) (2) 種類 ○ 1種 ○ 2種 (3) 気乾単位容積質量 ○ _____ t/m ³ (4) スラブ * 21cm ○ _____ (1) スラブ * 21cm ○ _____ (8.10.2) (2) 構造体強度補正值(S) * 6N/mm ² ○ _____ (8.11.1)		
		モルタル面			(2) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____		(2) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)		(2) 埋込み配管等の探査方法 (8.12.4) * 鉄筋探査器(電磁波レーダー法)により探査し、鉄筋、配管類の位置に差出しを行う ○ はつり出しによる ● 行わない (2) 確認試験 * 行う 引張試験機による引張試験 (8.12.7) 確認強度 _____ kN ● 行わない		
第8章	16. スタッド	コンクリート面	●	10. コンクリートの調合	(1) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____	9. 混和材料	(1) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)	35. 鉄骨の錆止め塗装	(1) 普通コンクリートの適用 (8.9.1) ○ なし ○ あり (適用箇所 * 図示 ○ _____) (2) 種類 ○ 1種 ○ 2種 (3) 気乾単位容積質量 ○ _____ t/m ³ (4) スラブ * 21cm ○ _____ (1) スラブ * 21cm ○ _____ (8.10.2) (2) 構造体強度補正值(S) * 6N/mm ² ○ _____ (8.11.1)		
		モルタル面			(2) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____		(2) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)		(2) 埋込み配管等の探査方法 (8.12.4) * 鉄筋探査器(電磁波レーダー法)により探査し、鉄筋、配管類の位置に差出しを行う ○ はつり出しによる ● 行わない (2) 確認試験 * 行う 引張試験機による引張試験 (8.12.7) 確認強度 _____ kN ● 行わない		
第8章	17. 柱底均しモルタル	コンクリート面	●	10. コンクリートの調合	(1) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____	9. 混和材料	(1) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)	35. 鉄骨の錆止め塗装	(1) 普通コンクリートの適用 (8.9.1) ○ なし ○ あり (適用箇所 * 図示 ○ _____) (2) 種類 ○ 1種 ○ 2種 (3) 気乾単位容積質量 ○ _____ t/m ³ (4) スラブ * 21cm ○ _____ (1) スラブ * 21cm ○ _____ (8.10.2) (2) 構造体強度補正值(S) * 6N/mm ² ○ _____ (8.11.1)		
		モルタル面			(2) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____		(2) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)		(2) 埋込み配管等の探査方法 (8.12.4) * 鉄筋探査器(電磁波レーダー法)により探査し、鉄筋、配管類の位置に差出しを行う ○ はつり出しによる ● 行わない (2) 確認試験 * 行う 引張試験機による引張試験 (8.12.7) 確認強度 _____ kN ● 行わない		
第8章	18. 連続繊維シート及び含浸接着樹脂等	コンクリート面	●	10. コンクリートの調合	(1) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____	9. 混和材料	(1) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)	35. 鉄骨の錆止め塗装	(1) 普通コンクリートの適用 (8.9.1) ○ なし ○ あり (適用箇所 * 図示 ○ _____) (2) 種類 ○ 1種 ○ 2種 (3) 気乾単位容積質量 ○ _____ t/m ³ (4) スラブ * 21cm ○ _____ (1) スラブ * 21cm ○ _____ (8.10.2) (2) 構造体強度補正值(S) * 6N/mm ² ○ _____ (8.11.1)		
		モルタル面			(2) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____		(2) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)		(2) 埋込み配管等の探査方法 (8.12.4) * 鉄筋探査器(電磁波レーダー法)により探査し、鉄筋、配管類の位置に差出しを行う ○ はつり出しによる ● 行わない (2) 確認試験 * 行う 引張試験機による引張試験 (8.12.7) 確認強度 _____ kN ● 行わない		
第8章	19. 鋼材の材料試験等	コンクリート面	●	10. コンクリートの調合	(1) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____	9. 混和材料	(1) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)	35. 鉄骨の錆止め塗装	(1) 普通コンクリートの適用 (8.9.1) ○ なし ○ あり (適用箇所 * 図示 ○ _____) (2) 種類 ○ 1種 ○ 2種 (3) 気乾単位容積質量 ○ _____ t/m ³ (4) スラブ * 21cm ○ _____ (1) スラブ * 21cm ○ _____ (8.10.2) (2) 構造体強度補正值(S) * 6N/mm ² ○ _____ (8.11.1)		
		モルタル面			(2) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____		(2) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)		(2) 埋込み配管等の探査方法 (8.12.4) * 鉄筋探査器(電磁波レーダー法)により探査し、鉄筋、配管類の位置に差出しを行う ○ はつり出しによる ● 行わない (2) 確認試験 * 行う 引張試験機による引張試験 (8.12.7) 確認強度 _____ kN ● 行わない		
第8章	20. 基礎工事に用いる材料	コンクリート面	●	10. コンクリートの調合	(1) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____	9. 混和材料	(1) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)	35. 鉄骨の錆止め塗装	(1) 普通コンクリートの適用 (8.9.1) ○ なし ○ あり (適用箇所 * 図示 ○ _____) (2) 種類 ○ 1種 ○ 2種 (3) 気乾単位容積質量 ○ _____ t/m ³ (4) スラブ * 21cm ○ _____ (1) スラブ * 21cm ○ _____ (8.10.2) (2) 構造体強度補正值(S) * 6N/mm ² ○ _____ (8.11.1)		
		モルタル面			(2) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____		(2) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)		(2) 埋込み配管等の探査方法 (8.12.4) * 鉄筋探査器(電磁波レーダー法)により探査し、鉄筋、配管類の位置に差出しを行う ○ はつり出しによる ● 行わない (2) 確認試験 * 行う 引張試験機による引張試験 (8.12.7) 確認強度 _____ kN ● 行わない		
第8章	21. 鉄筋の加工及び組立	コンクリート面	●	10. コンクリートの調合	(1) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____	9. 混和材料	(1) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)	35. 鉄骨の錆止め塗装	(1) 普通コンクリートの適用 (8.9.1) ○ なし ○ あり (適用箇所 * 図示 ○ _____) (2) 種類 ○ 1種 ○ 2種 (3) 気乾単位容積質量 ○ _____ t/m ³ (4) スラブ * 21cm ○ _____ (1) スラブ * 21cm ○ _____ (8.10.2) (2) 構造体強度補正值(S) * 6N/mm ² ○ _____ (8.11.1)		
		モルタル面			(2) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____		(2) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)		(2) 埋込み配管等の探査方法 (8.12.4) * 鉄筋探査器(電磁波レーダー法)により探査し、鉄筋、配管類の位置に差出しを行う ○ はつり出しによる ● 行わない (2) 確認試験 * 行う 引張試験機による引張試験 (8.12.7) 確認強度 _____ kN ● 行わない		
第8章	22. 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔	コンクリート面	●	10. コンクリートの調合	(1) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____	9. 混和材料	(1) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)	35. 鉄骨の錆止め塗装	(1) 普通コンクリートの適用 (8.9.1) ○ なし ○ あり (適用箇所 * 図示 ○ _____) (2) 種類 ○ 1種 ○ 2種 (3) 気乾単位容積質量 ○ _____ t/m ³ (4) スラブ * 21cm ○ _____ (1) スラブ * 21cm ○ _____ (8.10.2) (2) 構造体強度補正值(S) * 6N/mm ² ○ _____ (8.11.1)		
		モルタル面			(2) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____		(2) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)		(2) 埋込み配管等の探査方法 (8.12.4) * 鉄筋探査器(電磁波レーダー法)により探査し、鉄筋、配管類の位置に差出しを行う ○ はつり出しによる ● 行わない (2) 確認試験 * 行う 引張試験機による引張試験 (8.12.7) 確認強度 _____ kN ● 行わない		
第8章	23. 壁の配筋及び補強	コンクリート面	●	10. コンクリートの調合	(1) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____	9. 混和材料	(1) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)	35. 鉄骨の錆止め塗装	(1) 普通コンクリートの適用 (8.9.1) ○ なし ○ あり (適用箇所 * 図示 ○ _____) (2) 種類 ○ 1種 ○ 2種 (3) 気乾単位容積質量 ○ _____ t/m ³ (4) スラブ * 21cm ○ _____ (1) スラブ * 21cm ○ _____ (8.10.2) (2) 構造体強度補正值(S) * 6N/mm ² ○ _____ (8.11.1)		
		モルタル面			(2) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____		(2) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)		(2) 埋込み配管等の探査方法 (8.12.4) * 鉄筋探査器(電磁波レーダー法)により探査し、鉄筋、配管類の位置に差出しを行う ○ はつり出しによる ● 行わない (2) 確認試験 * 行う 引張試験機による引張試験 (8.12.7) 確認強度 _____ kN ● 行わない		
第8章	24. ガス圧接	コンクリート面	●	10. コンクリートの調合	(1) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____	9. 混和材料	(1) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)	35. 鉄骨の錆止め塗装	(1) 普通コンクリートの適用 (8.9.1) ○ なし ○ あり (適用箇所 * 図示 ○ _____) (2) 種類 ○ 1種 ○ 2種 (3) 気乾単位容積質量 ○ _____ t/m ³ (4) スラブ * 21cm ○ _____ (1) スラブ * 21cm ○ _____ (8.10.2) (2) 構造体強度補正值(S) * 6N/mm ² ○ _____ (8.11.1)		
		モルタル面			(2) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____		(2) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)		(2) 埋込み配管等の探査方法 (8.12.4) * 鉄筋探査器(電磁波レーダー法)により探査し、鉄筋、配管類の位置に差出しを行う ○ はつり出しによる ● 行わない (2) 確認試験 * 行う 引張試験機による引張試験 (8.12.7) 確認強度 _____ kN ● 行わない		
第8章	25. 機械式継手	コンクリート面	●	10. コンクリートの調合	(1) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____	9. 混和材料	(1) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)	35. 鉄骨の錆止め塗装	(1) 普通コンクリートの適用 (8.9.1) ○ なし ○ あり (適用箇所 * 図示 ○ _____) (2) 種類 ○ 1種 ○ 2種 (3) 気乾単位容積質量 ○ _____ t/m ³ (4) スラブ * 21cm ○ _____ (1) スラブ * 21cm ○ _____ (8.10.2) (2) 構造体強度補正值(S) * 6N/mm ² ○ _____ (8.11.1)		
		モルタル面			(2) 骨材の種類 (8.2.5) * 8.2.5(4)(f)による ○ _____		(2) 鉄筋の加工及び組立 (8.3.2)		(2) 埋		



工事場所：余市町黒川町880番地
【町営住宅黒川団地】

付近見取図 1/8,000



改修建物

配置図 1/600

	2022 . 10 . 31	代表となる設計者	担当	余市町	令和8年度 町営住宅黒川団地外壁改修工事 (西棟)	(意)
		株式会社 創建社				09 / 42
	1987	一級建築士事務所登録 (石) 第614号			付近見取図・配置図 A1: 1/300 A3: 1/600	
		管理建築士 一級建築士登録 第273809号 大江 徹				

改修工事リスト

改修NO	工事項目	枝番	改修概要
外部改修			
A	屋上防水改修	1	改修範囲：平面部・立上り部 ROOF-1 【既存】アスファルト防水の上、押えコンクリート t80 改修内容 ・既存押えコンクリート面を、高圧ポンプ水洗い（10MPa程度） ・既存押えコンクリート面を、全面補修、樹脂モルタル t5 ・既存伸縮目地撤去後、シーリング充填 ・改質アスファルト防水常温積層工法（ケミマスNCA-603TC 1層同等） 新設 ・立上り部、改質アスファルト防水常温積層工法（ケミマスNCA-603TC 1層同等） 新設 ・バルコニー屋上の立上り部、既存アスファルト露出防水撤去、入隅部不陸調整、仮防水ケミマス塗布、改質アスファルト防水常温積層工法（ケミマスNCA-603TC 1層同等） 新設 ・笠木、水切りは、一時取外、再取付 取付に当っては、ステンレスビスを使用のこと
		2	改修範囲：平面部・立上り部 ROOF-2~14 【既存】アスファルト露出防水 改修内容 ・既存防水面を、高圧ポンプ水洗い（10MPa程度） ・改質アスファルト防水常温積層工法（ケミマスNCA-603TC 1層同等） 新設 一部補修全体の10%程度、劣化部あぶり戻し等 ・立上り部、既存アスファルト露出防水撤去、入隅部不陸調整、仮防水ケミマス塗布、改質アスファルト防水常温積層工法（ケミマスNCA-603TC 1層同等） 新設 ・笠木、水切りは、一時取外、再取付 取付に当っては、ステンレスビスを使用のこと
		3	改修範囲：屋上ルーフドレン 【既存】ルーフドレン金物 改修内容 ・既存ルーフドレンキャップ撤去後、改修用ドレン金物を新設（改修用ドレン） ・既存ルーフドレン廻り防水材（900×900）撤去・樹脂モルタルにて、下地処理
B	屋上改修	1	改修範囲：バラベツト廻り ROOF-1 【既存】手摺：アルミ既製品 改修内容 ・手摺A：アルミ既製品 H=200及び笠木 撤去後、劣化部補修の上、樹脂モルタル t20~30、樹脂防水（亀裂自閉式）、吹付タイル（防水形複層塗材RE） ・手摺B：アルミ既製品（手摺子付）撤去後、劣化部補修の上、樹脂モルタル t20~30、樹脂防水（亀裂自閉式）、吹付タイル（防水形複層塗材RE） ・手摺C：アルミ既製品（手摺子、笠木付）撤去後、劣化部補修の上、樹脂モルタル t20~30、樹脂防水（亀裂自閉式）、吹付タイル（防水形複層塗材RE）
		2	改修範囲：煙突 【既存】コンクリート製、上部：鋼製（垂鉛メッキ）煙突フード 改修内容 ・下部塗膜除去後、劣化部補修の上、下地調整、吹付タイル（防水形複層塗材RE） ・Hトップ：鋼製（垂鉛メッキ）、既存のまま
C	外壁改修	1	改修範囲：外壁 【既存】コンクリート打放の上、吹付タイル 改修内容 ・既存塗膜を、剥離剤併用手工具ケレン工法で除去 ・劣化部の補修（クラック処理、欠損部の処理） ・改修部位、改修方法は、外壁調査図及び、外壁改修フロー図を参照とする ・樹脂モルタル t3（ROOF-1屋上側 内壁のみ） ・下地調整の上、吹付タイル（防水形複層塗材RE） ・丸柱：塗膜除去後、劣化部補修の上、下地調整、吹付タイル（防水形複層塗材RE）
		2	改修範囲：基礎部 【既存】コンクリート打放 改修内容 ・劣化部補修 ・改修部位、改修方法は、外壁調査図及び、外壁改修フロー図を参照とする ・樹脂モルタル t3（全面）
		3	改修範囲：屋上外部階段 【既存】コンクリート打放の上、吹付タイル 改修内容 ・床、階段は、既存のまま ・手摺壁：塗膜除去後、劣化部補修の上、下地調整、吹付タイル（塗膜除去、劣化部の補修は、外壁と同じ） ・段裏、天井：塗装塗替え 下地調整、EP-G塗装
		4	改修範囲：玄関ポーチ（スロープB） 【既存】袖壁コンクリート打放、独立柱塗装 改修内容 ・袖壁：劣化部補修の上、樹脂モルタル t3 ・独立柱：塗膜除去後、劣化部補修の上、下地調整、吹付タイル（防水形複層塗材RE） ・独立柱頭部：塗膜除去後、劣化部補修の上、樹脂モルタル t3 樹脂防水（亀裂自閉式）、吹付タイル（防水形複層塗材RE）

改修NO	工事項目	枝番	改修概要
外部改修			
C	外壁改修	5	改修範囲：ポーチA（スロープA） 【既存】袖壁コンクリート打放、独立柱塗装 改修内容 ・袖壁：劣化部補修の上、樹脂モルタル t3 ・独立柱：塗膜除去後、劣化部補修の上、下地調整、吹付タイル（防水形複層塗材RE） ・独立柱頭部：塗膜除去後、劣化部補修の上、樹脂モルタル t3 樹脂防水（亀裂自閉式）、吹付タイル（防水形複層塗材RE）
		6	改修範囲：ポーチB（スロープC） 【既存】袖壁コンクリート打放、独立柱塗装 改修内容 ・袖壁：劣化部補修の上、下地調整、吹付タイル（防水形複層塗材RE） ・独立柱：塗膜除去後、劣化部補修の上、下地調整、吹付タイル（防水形複層塗材RE） ・独立柱頭部：塗膜除去後、劣化部補修の上、樹脂モルタル t3 樹脂防水（亀裂自閉式）、吹付タイル（防水形複層塗材RE）
D	軒天井改修	1	改修範囲：石綿板 t6 VP 【既存】玄関ポーチ、ポーチA 改修内容 ・塗材除去後、下地調整、EP-G塗装
		2	改修範囲：コンクリート打放の上、VP 【既存】バルコニー 改修内容 ・塗材除去後、劣化部補修の上、下地調整、EP-G塗装
E	外部シーリング	1	改修範囲：外壁面 【既存】打継目地シーリング、金属建具周囲・皿板部シーリング、金物廻りシーリング等の全て 改修内容 ・既存シーリング撤去 ・打継目地部：既存シーリング10×10を撤去し、ポリウレタン系シーリング（PU-2）25×15に打替 ・建具周囲：変成シリコンシーリング（MS-2）15×10に打替 ・金物周囲 給排気金物、レジスター金物：変成シリコンシーリング（MS-2）10×10に打替
			特記事項 ・下地調整はC-1とする ・樹脂防水（亀裂自閉式）はバラテックス防水 A-2工法同等以上とする

注記 塗は、工事対象外（各図面共）

2022 . 10 . 31

株式会社 創 建 社
一級建築士事務所登録 (石) 第614号

代表となる設計者 担当
1級建築士 第153036号 辻 弘明
管理建築士 一級建築士登録 第273809号 大江 徹

余市町

令和8年度 町営住宅黒川団地外壁改修工事（西棟）

(意)

改修工事リスト

改修NO	工事項目	枝番	改修概要
老朽化対応工事・結露対応工事			
P	老朽化対応改修	1	改修範囲：金属建具 【既存】アルミ製 鋼製 SOP 改修内容 ・アルミ製建具：既存のまま ・鋼製建具：塗装塗替え DP塗装
		2	改修範囲：玄関ポーチ・スロープB 【既存】床・階段・スロープ：床用タイル 改修内容 ・床、階段、スロープ：全面撤去後、モルタル金ゴテ下地、 ゴムチップタイル 新設
		3	改修範囲：ゴミ庫ポーチ 【既存】床：モルタル金こて 改修内容 ・床：段先共：ノンスリップ ステンレスL-30×30新設 ・床、階段：全面撤去後、モルタル刷毛引 新設
		4	改修範囲：ポーチA スロープA 【既存】床・階段：モルタル金こて 改修内容 ・段鼻：ゴムチップタイル60×20 t10 新設 ・床、階段、スロープ：全面撤去後、モルタル金ゴテ下地、 ゴムチップタイル 新設
		5	改修範囲：ポーチB スロープC 【既存】床・階段：モルタル金こて 改修内容 ・床：段先共：ノンスリップ ステンレスL-30×30新設 ・床、階段、スロープ：全面撤去後、モルタル刷毛引 新設
		6	改修範囲：ポーチ1 ポーチ2 【既存】床：モルタル金こて 改修内容 ・床：段先共：ノンスリップ ステンレスL-30×30新設 ・床、階段：全面撤去後、モルタル刷毛引 新設
		7	改修範囲：ポーチ3 ポーチ4 【既存】床：モルタル金こて 改修内容 ・床：段先共：ノンスリップ ステンレスL-30×30新設 ・床、階段：全面撤去後、モルタル刷毛引 新設
		8	改修範囲：バルコニー手摺（支柱改修） 【既存】アルミ既製品 改修内容 ・支柱下部：水抜き穴新設、穴下部に、エポキシ樹脂充填、及び躯体取付部シーリング打替え
		9	改修範囲：バルコニー排水ドレン管 【既存】ドレン管 50A 改修内容 ・ドレン管 塗装塗替え DP塗装
		10	改修範囲：プロパンボンベ庫屋根 【既存】長尺カラー鉄板 t0.4横葺き、破風・水切り共 カラー鉄板 t0.4加工 改修内容 ・ケレン錆落としの上、DP塗装新設（破風、水切り共）
Q	結露対応改修	1	改修範囲：共用廊下・A階段室 【既存】コンクリート面 改修内容 ・外部：ステンレス既製品フード100φ 内部：樹脂製（開閉式）新設
		2	改修範囲：共用廊下・B階段室 【既存】コンクリート面 改修内容 ・外部：ステンレス既製品フード100φ 内部：樹脂製（開閉式）新設

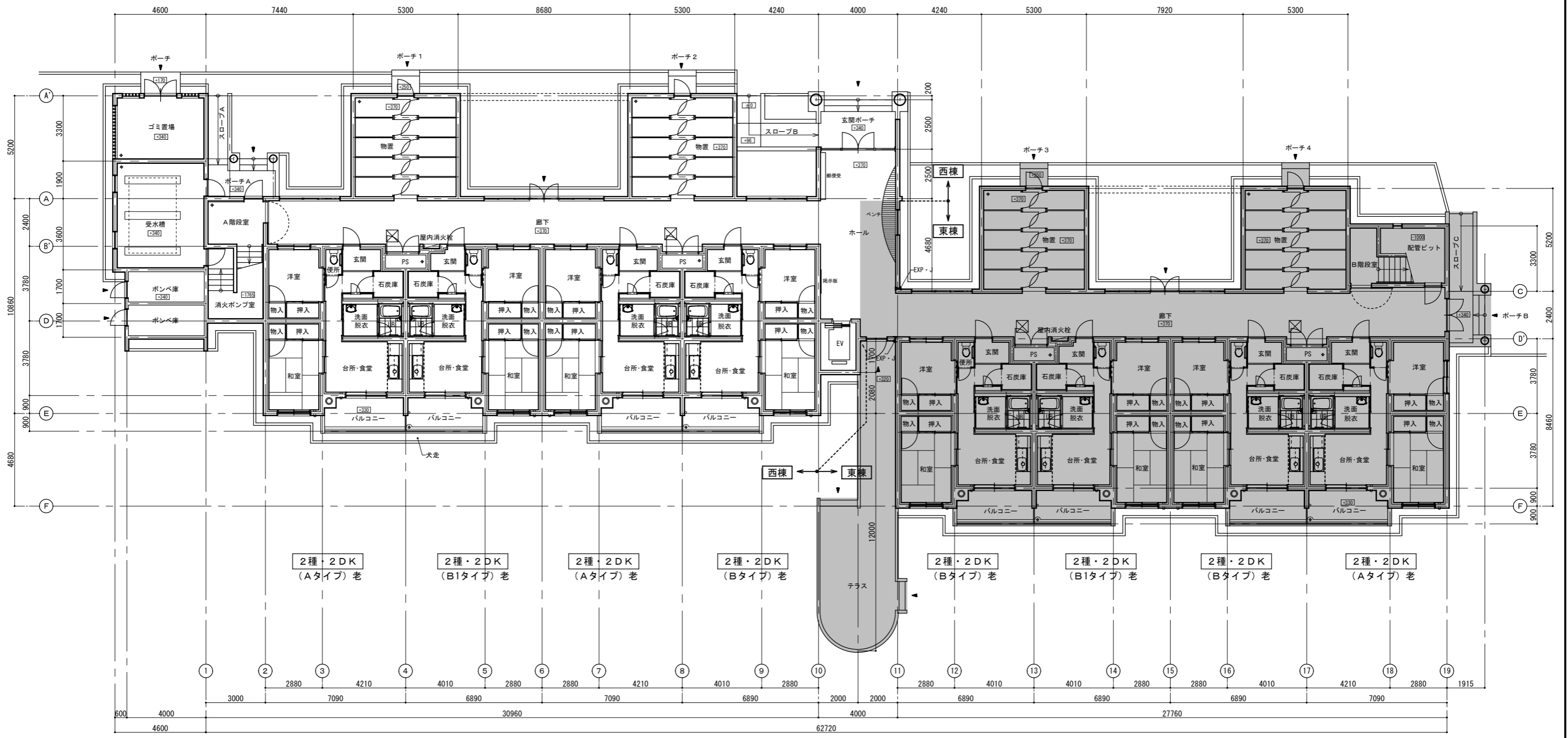
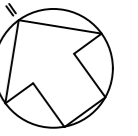
改修NO	工事項目	枝番	改修概要

外部仕上表				特記事項						
部位	改修前(現状)	改修内容	部位	現状	改修内容	部位	現状	改修内容		
屋上 ROOF-1	一部人工芝 押えコンクリート t 80 ワイヤメッシュφ6×100目 アスファルト保護防水 (B-2工法) 下地: コンクリート金こて 伸縮目地φ3000 ネットフェンス 水切り: アルミ既製品 ルーフドレン金物	撤去 平面部: 改質アスファルト防水常温積層工法 (ケミアスNCA-603TC 1層同等) 新設 下地調整: 樹脂モルタル t 5 全面補修 既存立上部: 改質アスファルト防水常温積層工法 (ケミアスNCA-603TC 1層同等) 新設 バルコニー屋上の立上部: 防水撤去、入隅部不陸調整、 仮防水ケミアス塗布、改質アスファルト防水常温積層工法 (ケミアスNCA-603TC 1層同等) 新設 目地撤去後、シーリング充填 撤去後、撤去部分の補修 一時取外し、再取付 既存ドレン撤去後、2重ドレン 新設	軒天	一般部: 石綿板 t 6 VP バルコニー部: コンクリート打放 VP	塗材除去後、下地調整の上、EP-G塗装 塗材除去後、劣化部補修の上、下地調整、EP-G塗装	玄関ポーチ スロープB	床: 100角磁器質タイル 下地: モルタル 袖壁: コンクリート打放	モルタル金ゴテ下地、ゴムチップタイル 新設 劣化部補修の上、下地調整、吹付タイル		
			基礎部	コンクリート打放	劣化部補修の上、樹脂モルタル t 3	テラス	床: 100角磁器質タイル 下地: モルタル 袖壁: コンクリート打放 吹付タイル	既存のまま 既存のまま		
			犬走り	縁石: 150×170×600 砂利 t 60 敷込	既存のまま	ポーチA スロープA	床: モルタル金こて スロープ: モルタル金こて 段部: 磁器質タイル役物 袖壁: コンクリート打放	床: 全面撤去 モルタル金ゴテ下地、ゴムチップタイル 新設 スロープ部: 全面撤去 モルタル金ゴテ下地、ゴムチップタイル 新設 段部: ゴムチップタイル60×20 t 10 新設 劣化部補修の上、下地調整、吹付タイル		
			外部建具	アルミ製、鋼製	アルミ製建具: 既存のまま 鋼製建具: ケレン錆落としの上、DP塗装	ポーチB スロープC	床: モルタル金こて スロープ: モルタル金こて 段部: 磁器質タイル役物 袖壁: コンクリート打放	床・スロープ部: 全面撤去 モルタル刷毛引 新設 スロープ部: 全面撤去 モルタル刷毛引 新設 段先: ステンレス L-30×30×3 新設 劣化部補修の上、下地調整、吹付タイル		
屋上 ROOF-2~14	アスファルト露出防水D-2 下地: コンクリート金こて 笠木: アルミ既製品W=225 275 350 水切り: アルミ既製品 ルーフドレン金物	平面部: 改質アスファルト防水常温積層工法 (ケミアスNCA-603TC 1層同等) 新設 既存防水一部補修、全体の10%程度、劣化部あぶり戻し等 立上部: 防水撤去、入隅部不陸調整、仮防水ケミアス塗布、 改質アスファルト防水常温積層工法 (ケミアスNCA-603TC 1層同等) 新設 一時取外し、再取付 一時取外し、再取付 既存ドレン撤去後、2重ドレン 新設	シーリング	打継目地シーリング 10×10 建具及び、金物廻りシーリング 15×10、10×10	既存シーリング撤去 25×15に打替え 既存シーリング撤去 15×10、10×10 打替え	ポーチ -1 -2	床: モルタル金こて 段先: ステンレス L-30×30×3 新設	床全面撤去 モルタル刷毛引 新設 段先: ステンレス L-30×30×3 新設		
			バルコニー	床・立上り部: モルタル防水 t 30 手摺壁: コンクリート打放 吹付タイル 天端: コンクリート打放 吹付タイル パルコニー手摺: アルミ既製品 物干金物: アルミ既製品 避難用隔壁: アルミ製枠 避難用ハッチ: SUS製	床: 既存のまま 塗膜除去後、劣化部補修の上、下地調整、吹付タイル 天端(アルミ製手摺設置部分): 塗膜除去後、劣化部補修の上、樹脂モルタル t 3、 樹脂防水、吹付タイル 支柱下部: 水抜き穴新設、穴下部に、エポキシ樹脂充填 既存のまま 既存のまま 既存のまま	ポーチ -3 -4	床: モルタル金こて 段先: ステンレス L-30×30×3 新設	床全面撤去 モルタル刷毛引 新設 段先: ステンレス L-30×30×3 新設		
			タラップ	アルミ既製品	既存のまま	EXP-J金物	アルミ既製品	一時取外し、再取付		
			屋外階段 (屋上)	床・段部: モルタル金こて 手摺壁: コンクリート打放 吹付タイル 一般部: 石綿板 t 6 VP 段裏: コンクリート打放 VP	既存のまま 塗膜除去後、劣化部補修の上、下地調整、吹付タイル 塗材除去後、下地調整の上、EP-G塗装 塗膜除去後、劣化部補修の上、下地調整、EP-G塗装	屋上 ROOF-1 手摺	手摺A: 笠木付アルミ既製品W=275 H=200 手摺B: アルミ既製品(手摺子付) 手摺C: 笠木付アルミ既製品(手摺子、笠木付)W=275 H=500	撤去後、劣化部補修の上、樹脂モルタル t 20~30、 樹脂防水、吹付タイル		
ボンベ庫 屋根	長尺カラー鉄板 t 0.4 横置き 下地: アスファルトルーフィング22kg+木毛板 t 25 破風、水切り共、カラー鉄板 t 0.4 加工	ケレン錆落としの上、DP塗装 新設 (破風、水切り共)	EXP-J金物	アルミ既製品	一時取外し、再取付					
煙突	コンクリート打放 吹付タイル Hトツプ: ROOF-1、SUS製煙突 Hトツプ: ROOF-2、鋼製(亜鉛メッキ) 煙突	塗膜除去後、劣化部補修の上、下地調整、吹付タイル 既存のまま 既存のまま	屋上 ROOF-1 手摺	手摺A: 笠木付アルミ既製品W=275 H=200 手摺B: アルミ既製品(手摺子付) 手摺C: 笠木付アルミ既製品(手摺子、笠木付)W=275 H=500	撤去後、劣化部補修の上、樹脂モルタル t 20~30、 樹脂防水、吹付タイル					
外壁	吹付タイル(防水型複層塗材 E) 下地: コンクリート打放 一部: 化粧型枠コンクリート打放 吹付タイル コンクリート打放(増打無し) 吹付タイル 丸柱: コンクリート打放 吹付タイル	塗膜除去後、劣化部補修の上、下地調整、吹付タイル ROOF-1 屋上側 内壁: 塗膜除去後、劣化部補修の上、 樹脂モルタル t 3、吹付タイル 塗膜除去後、劣化部補修の上、下地調整、吹付タイル 丸柱頭部: 塗膜除去後、劣化部補修の上、樹脂モルタル t 3、 樹脂防水、吹付タイル 廊下、ホール: 換気口100φ新設 A階段: 換気口100φ新設 B階段: 換気口100φ新設								

1. 既存、外部コンクリート壁の打増しは25mm
2. 既存、内部コンクリート打放は15mm
3. 既存、天井下地: 共用部は、軽量鉄骨下地

改修後塗装記号
EP-G: つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り
DP: 耐候性塗料塗り
吹付タイル: 防水形複層塗材 RE

改修前・後

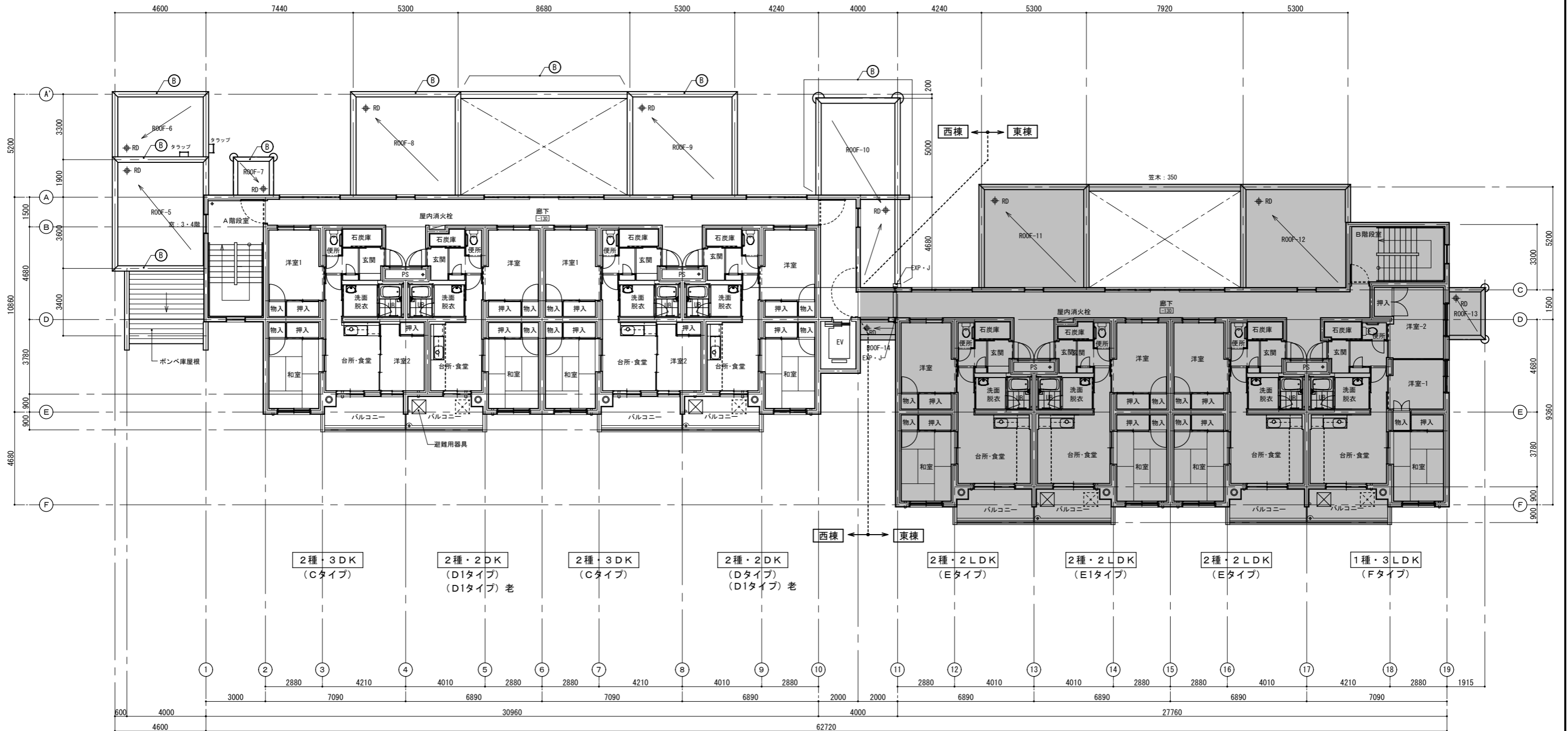
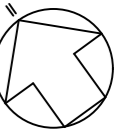


1階 平面図

- 凡例
- 外壁：鉄筋コンクリート造 t180
 - 木製間仕切壁

改修前

2022. 10. 31	株式会社 創建社 一級建築士事務所登録 (石) 第614号	代表となる設計者 1級建築士 第153036号 社 弘明 管理建築士 一級建築士登録 第273809号 大江 徹	担当	余市町	令和8年度 町営住宅黒川団地外壁改修工事 (西棟)	(意)
1987					1階 平面図 (改修前)	A1: 1/100 A3: 1/200

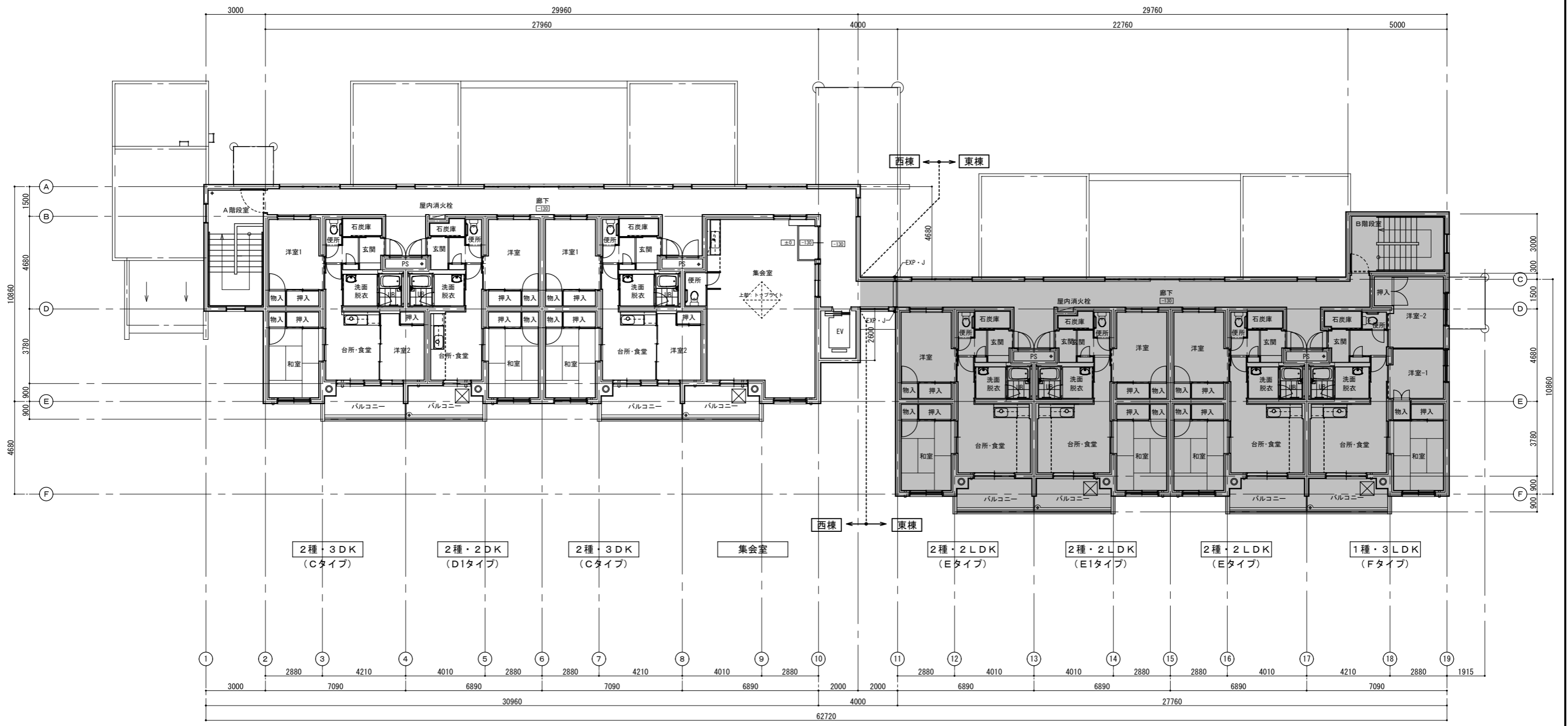
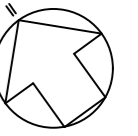


2~4階 平面図

- 凡例
- 外壁：鉄筋コンクリート造 t180
 - 木製間仕切壁
 - 葺木：特記なきは W225
 - ⓑ アルミ葺木：既存のまま

改修前

2022 . 10 . 31	代表となる設計者	担当	余市町	令和8年度 町営住宅黒川団地外壁改修工事 (西棟)	(意)
1級建築士 第153036号 社 弘明	1級建築士 第153036号 社 弘明			2~4階 平面図 (改修前)	A1: 1/100 A3: 1/200
1987	株式会社 創建社 一級建築士事務所登録 (石) 第614号	管理建築士 一級建築士登録 第273809号 大江 徹			14 / 42

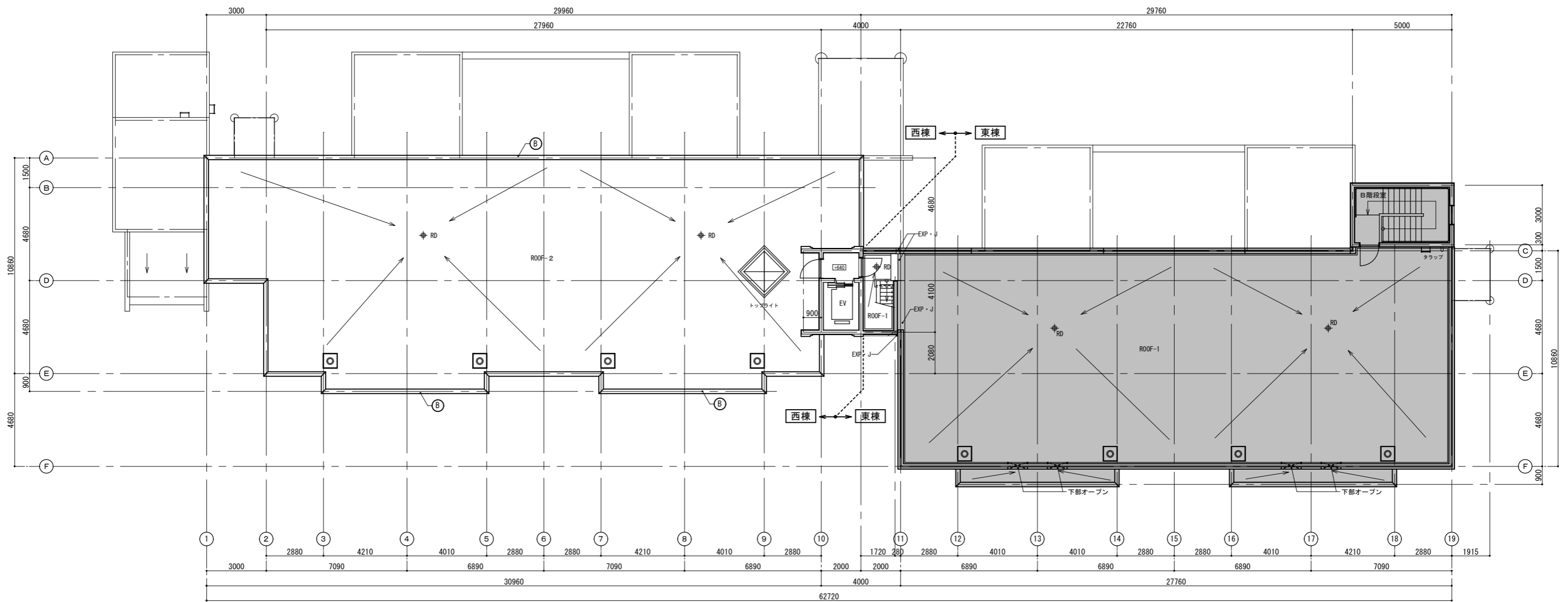
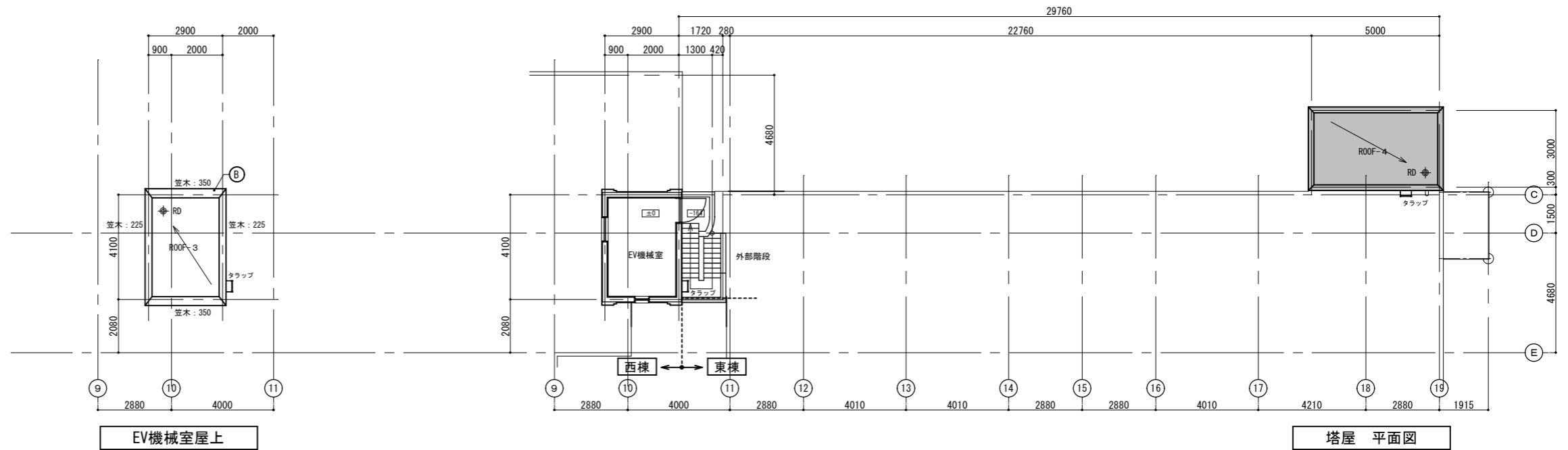
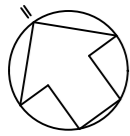


5階 平面図

凡例
 外壁: 鉄筋コンクリート造 t180
 木製間仕切壁

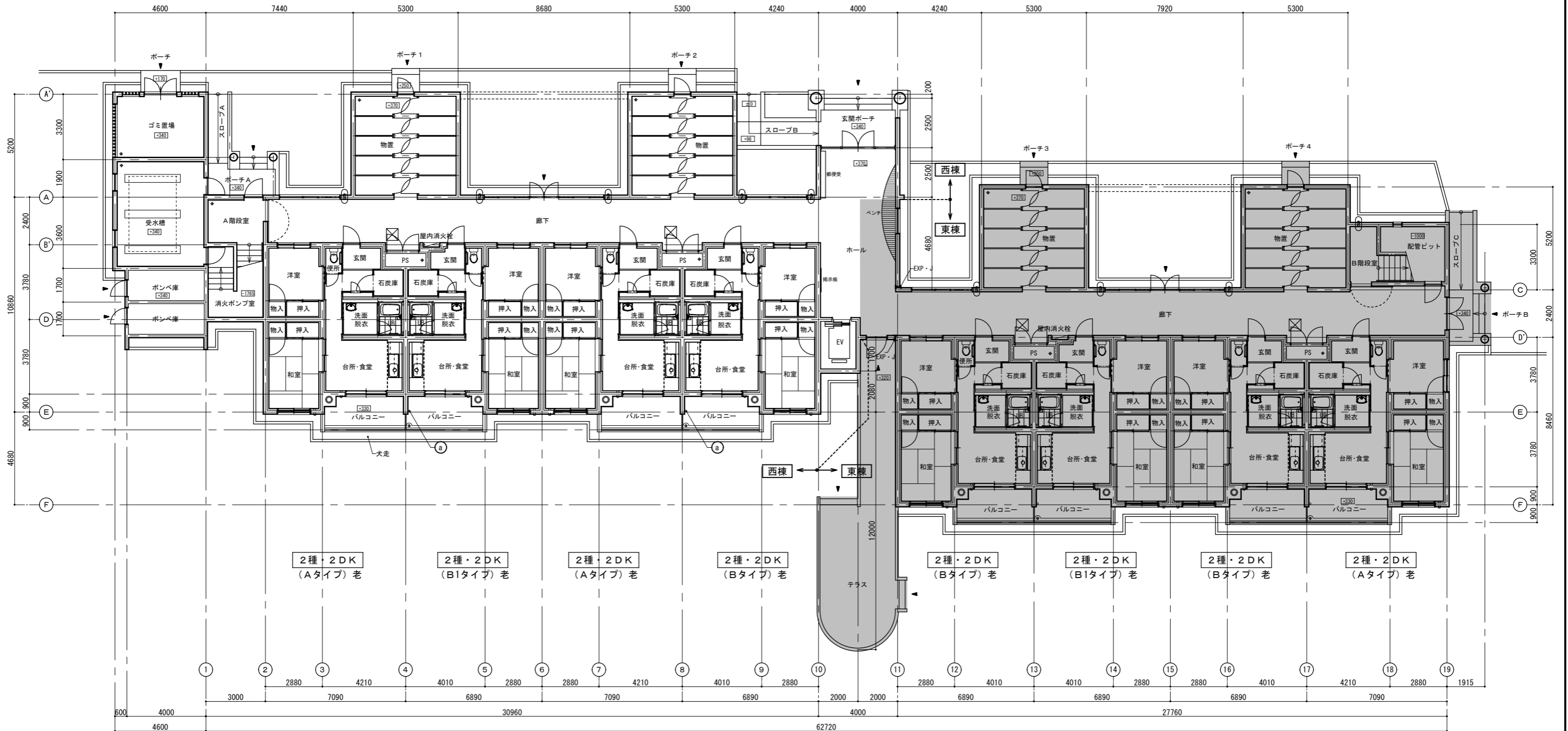
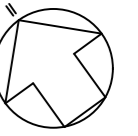
改修前

2022 . 10 . 31	株式会社 創建社 一級建築士事務所登録 (石) 第614号	代表となる設計者 1級建築士 第153036号 社 弘明 管理建築士 一級建築士登録 第273809号 大江 徹	担当	余市町	令和8年度 町営住宅黒川団地外壁改修工事 (西棟)	(意)
1987					5階 平面図 (改修前)	A1: 1/100 A3: 1/200



凡 例
 外壁：鉄筋コンクリート造 t180 笠木：特記なきは W225
 木製間仕切壁 ② アルミ笠木：既存のまま

屋上 平面図 改修前



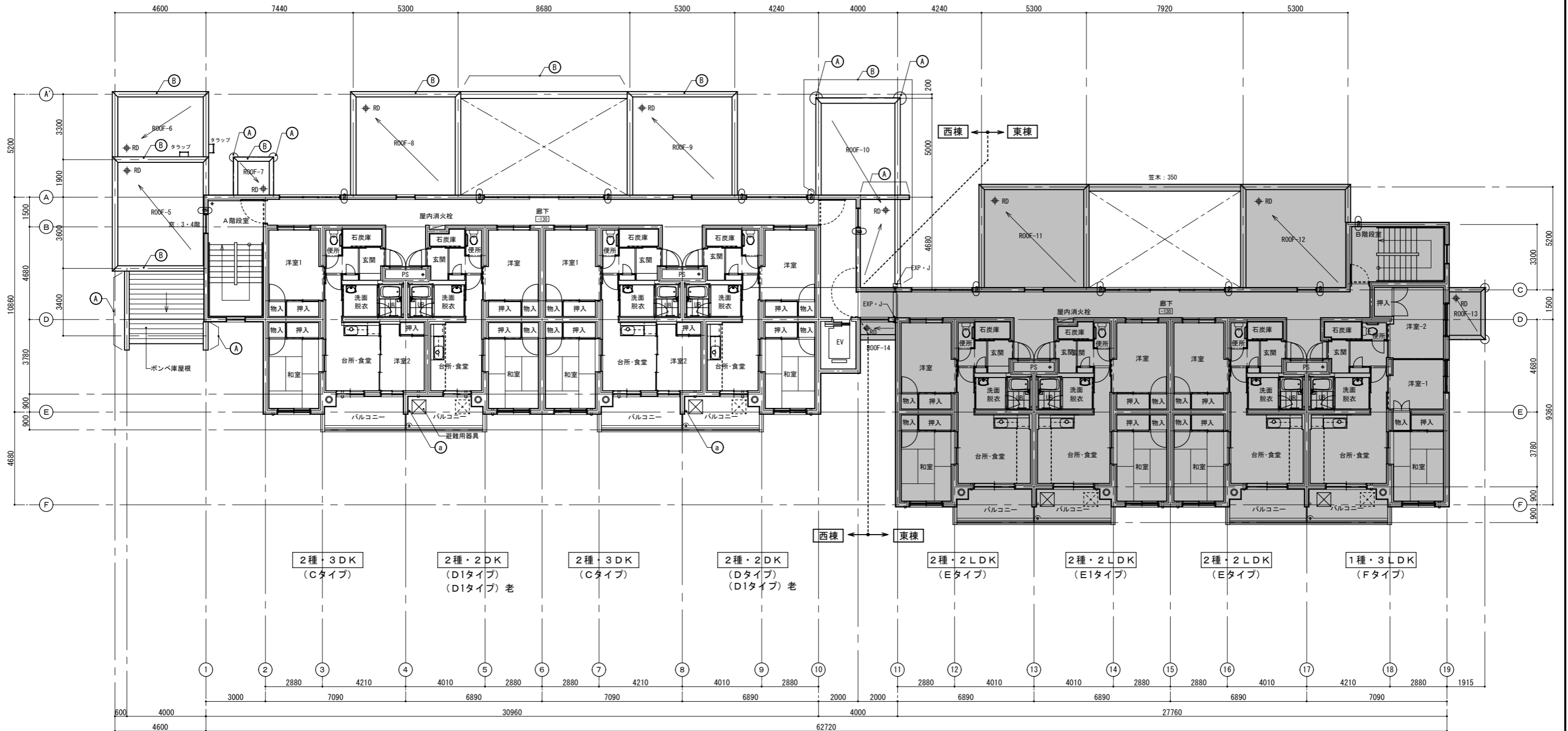
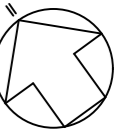
1階 平面図

- 凡例
- 外壁：鉄筋コンクリート造 t180
 - 木製間仕切壁
 - ⊕ 換気孔 100φ 新設
 - ⓐ ドレン管 DP塗装

改修後

2022. 10. 31	代表となる設計者	担当	余市町	令和8年度 町営住宅黒川団地外壁改修工事 (西棟)	(意)
1級建築士 第153036号 社 弘明	1級建築士 第153036号 社 弘明			17 / 42	
1987	管理建築士 一級建築士登録 第273809号 大江 徹			1階 平面図 (改修後)	A1: 1/100 A3: 1/200

株式会社 創建社
一級建築士事務所登録 (石) 第614号



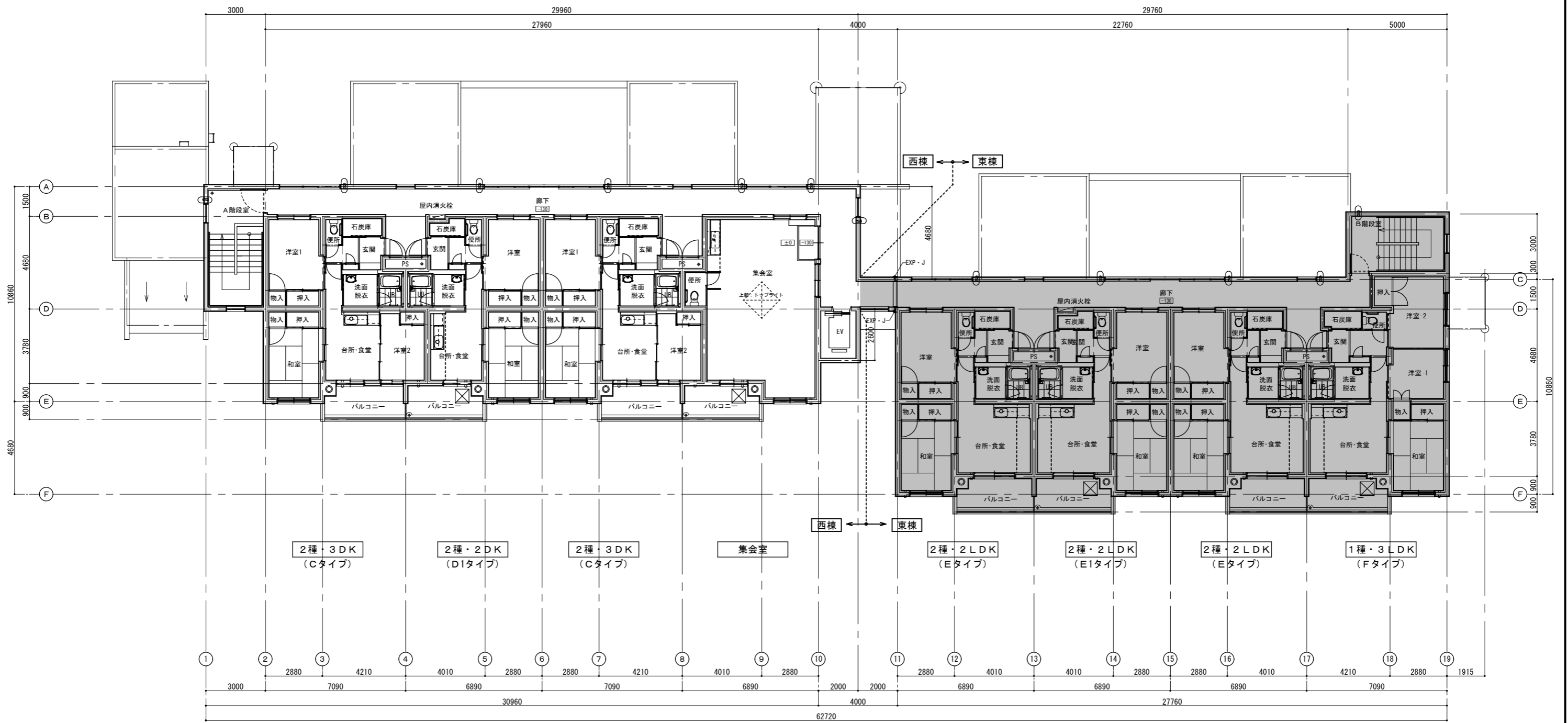
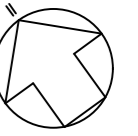
2~4階 平面図

- 凡例
- 外壁：鉄筋コンクリート造 t180
 - 木製間仕切壁
 - ⊕ 換気孔 100φ 新設
- 笠木：特記なきは W225
- Ⓐ 天端：樹脂防水の上、吹付タイル
 - Ⓑ アルミ笠木：既存のまま
 - Ⓒ ドレン管 DP塗装

改修後



2022 . 10 . 31	株式会社 創建社 一級建築士事務所登録 (石) 第 614号	代表となる設計者 1級建築士 第153036号 社 弘明 管理建築士 一級建築士登録 第273809号 大江 徹	担当	余市町	令和8年度 町営住宅黒川団地外壁改修工事 (西棟)	(意)
1987					2~4階 平面図 (改修後)	A1: 1/100 A3: 1/200



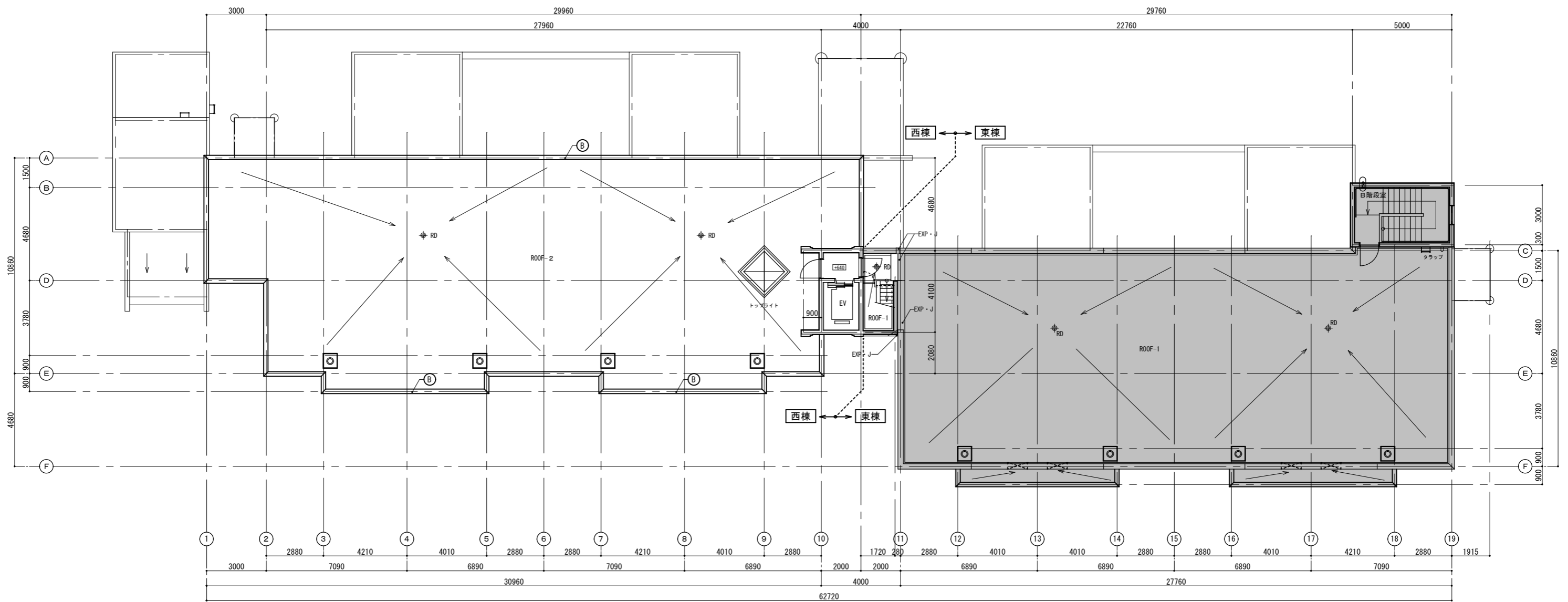
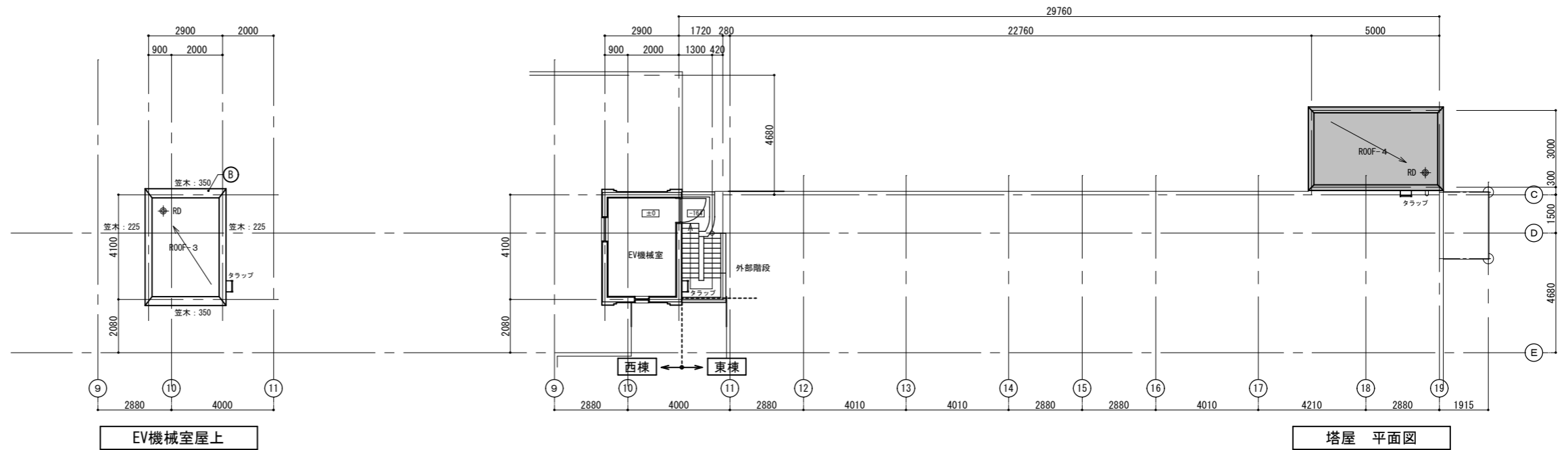
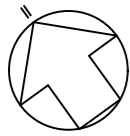
5階 平面図

- 凡例
- 外壁：鉄筋コンクリート造 t180
 - 木製間仕切壁
 - ⊕ 換気孔 100φ 新設



改修後

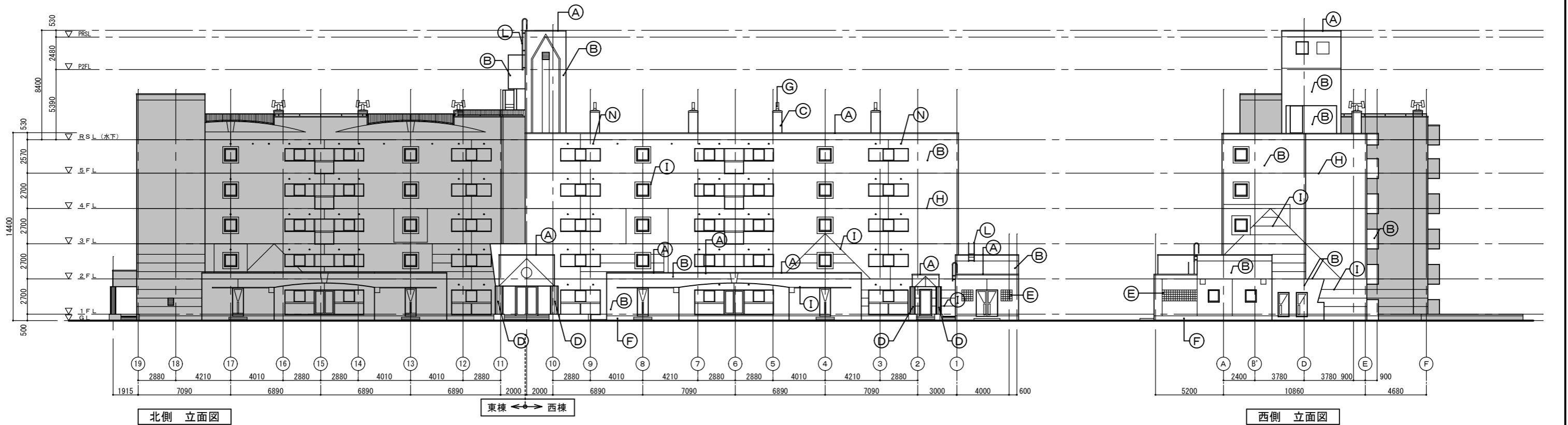
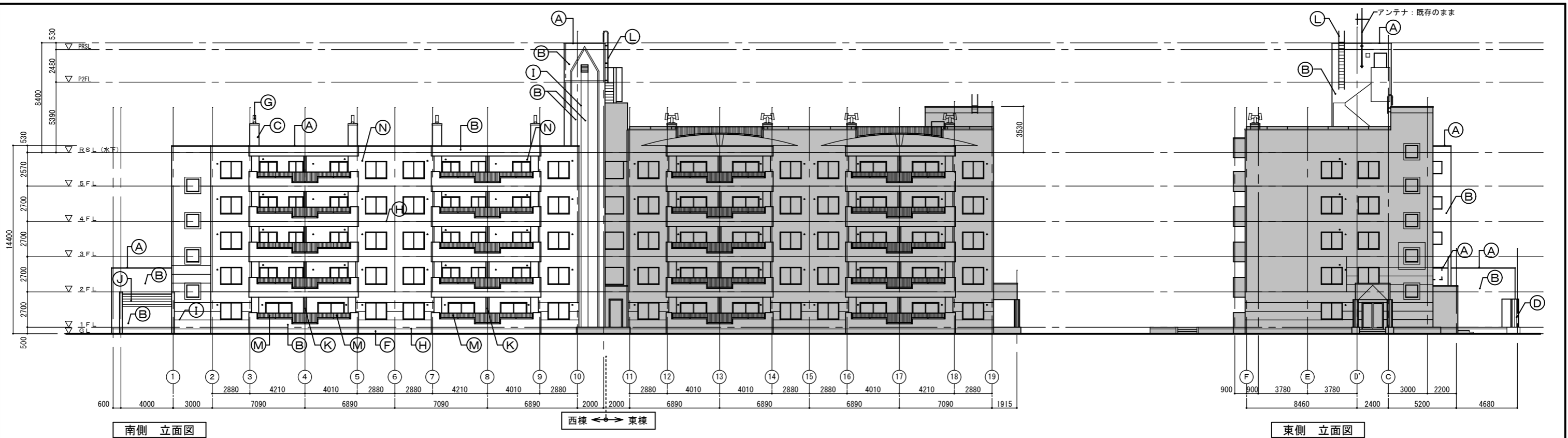
		2022 . 10 . 31	代表となる設計者		担当	余市町		令和8年度 町営住宅黒川団地外壁改修工事(西棟)		(意)
			株式会社 創建社							19 / 42
		1987	一級建築士事務所登録 (石) 第614号		1級建築士 第153006号 社 弘明					A1: 1/100 A3: 1/200
					管理建築士 一級建築士登録 第273809号 大江 徹			5階 平面図 (改修後)		



- 凡 例
- 外壁：鉄筋コンクリート造 t180
 - 木製間仕切壁
 - 換気孔 100φ 新設
 - 笠木：特記なきは W225
 - ⓑ アルミ笠木：既存のまま

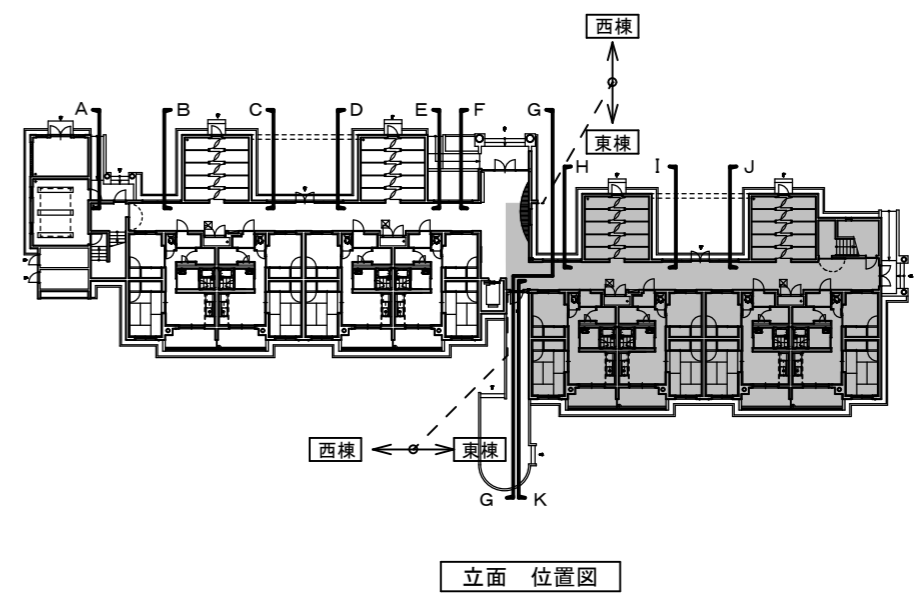
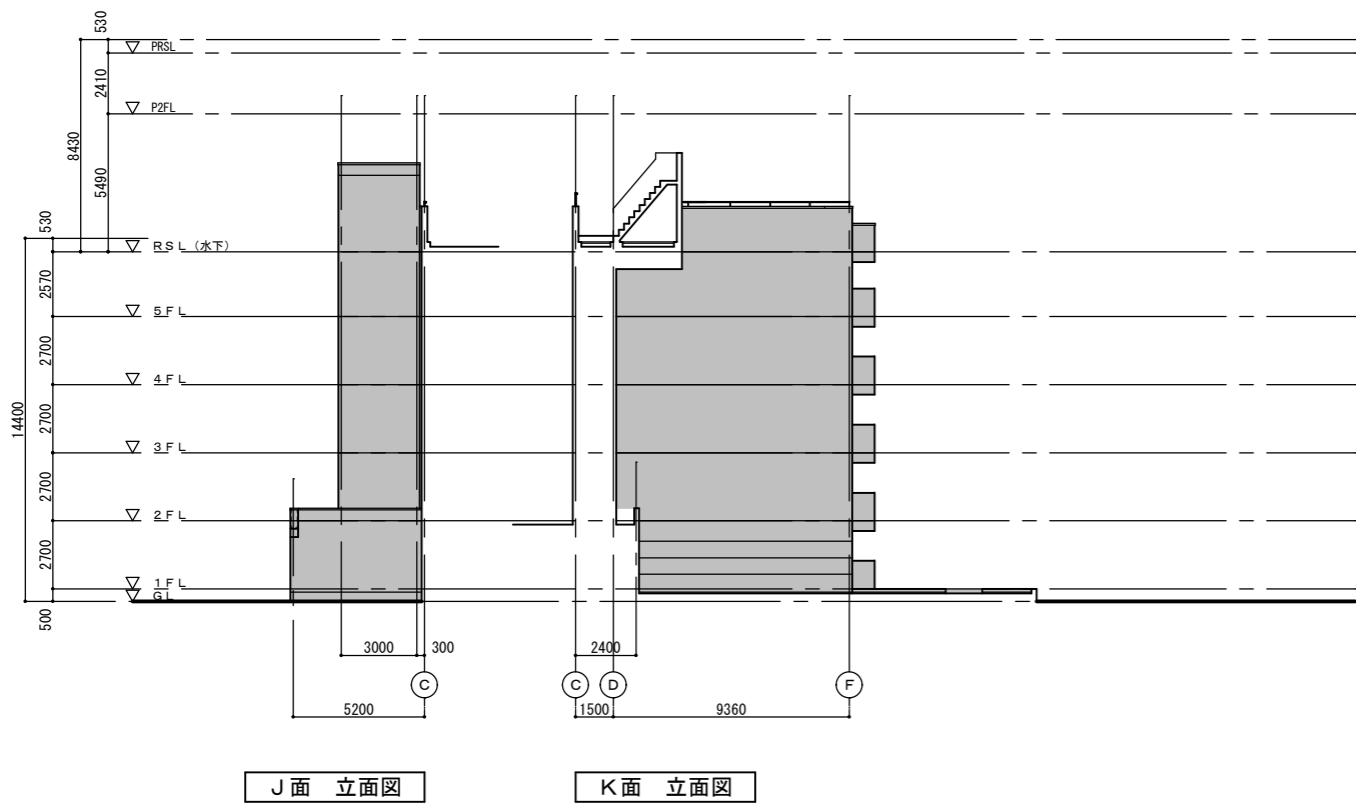
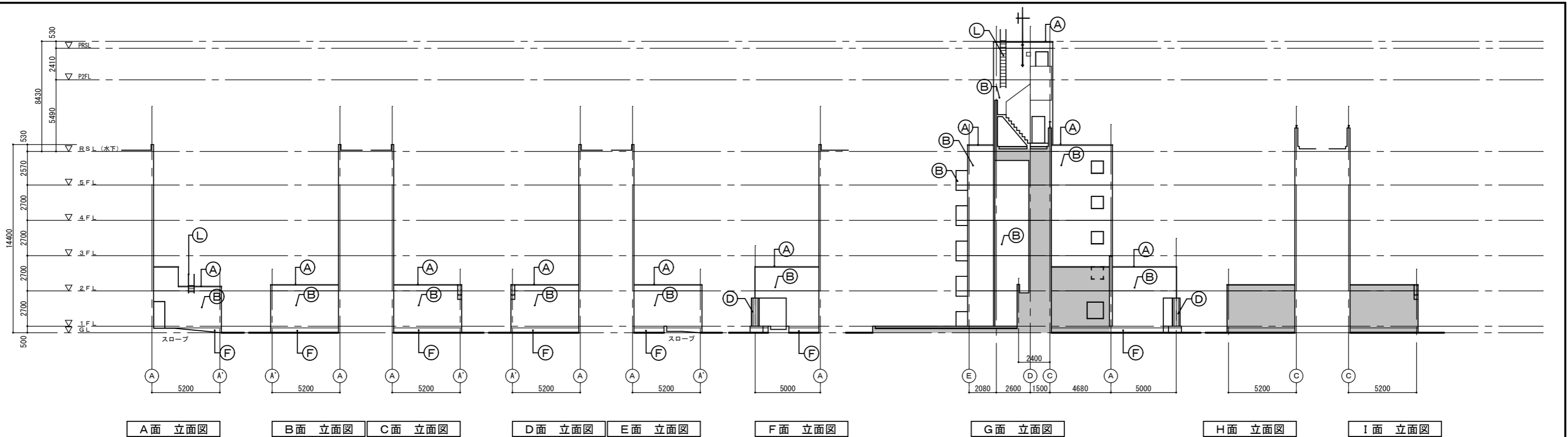
屋上 平面図 改修後

2022 . 10 . 31	株式会社 創 建 社 一級建築士事務所登録 (石) 第 6 1 4 号	代表となる設計者 1級建築士 第153036号 社 弘明 管理建築士 一級建築士登録 第273809号 大江 徹	余市町	令和 8 年度 町営住宅黒川団地外壁改修工事 (西棟)	(意)
1987				屋上-塔屋 平面図 (改修後)	A1 : 1/100 A3 : 1/200



改修前

外部仕上表					
(A) 笠木: アルミ既製品	既存のまま	(F) 基礎部: コンクリート打放	既存のまま	(K) 避難用間仕切り: アルミ既製品 (バルコニー部)	既存のまま
(B) 外壁 A: コンクリート打放 (打増し t25) 吹付タイル	塗膜除去	(G) 煙突Hトップ部: 亜鉛メッキ銅板	既存のまま	(L) タラップ: アルミ既製品	既存のまま
(C) 煙突: コンクリート打放 吹付タイル	塗膜除去	(H) 打継目地 (シーリング)	撤去	(M) バルコニー手摺: アルミ既製品	既存のまま
(D) 丸柱: コンクリート打放 吹付タイル	塗膜除去	(I) 化粧目地	塗材除去	(N) 給排気金物、換気孔150φ	既存のまま
(E) グリルブロック 素焼154×154×t150	既存のまま	(J) 屋根: カラー鉄板 t0.4 横葺き	塗材除去		

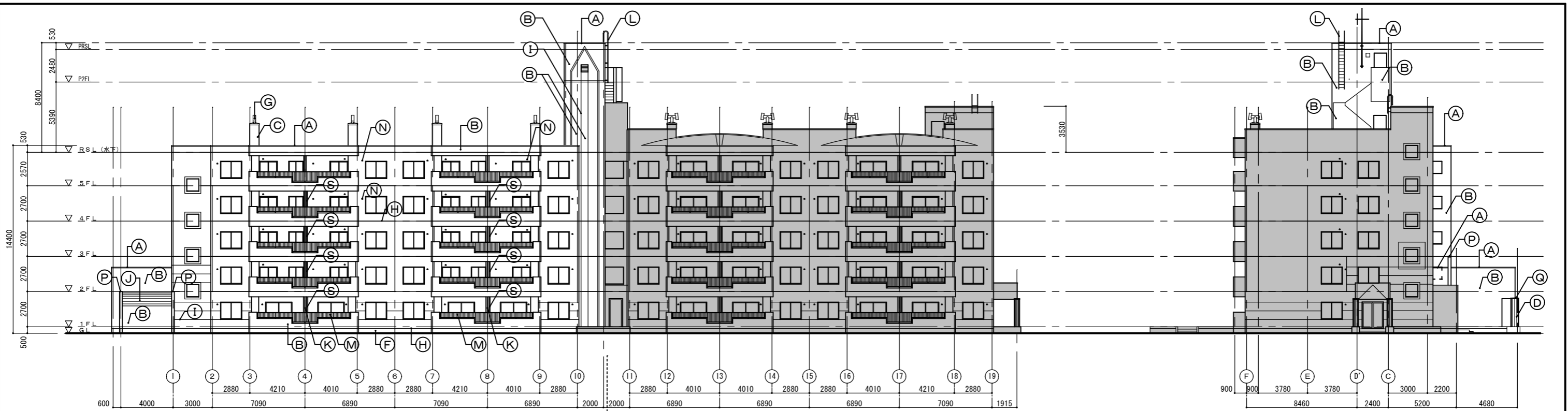


改修前

外部仕上表					
(A) 笠木：アルミ既製品	既存のまま	(F) 基礎部：コンクリート打放	既存のまま	(K) 避難用間仕切り：アルミ既製品（バルコニー部）	既存のまま
(B) 外壁A：コンクリート打放（打増しt25）吹付タイル	塗膜除去	(G) 煙突Hトップ部：垂鉛メッキ銅板	既存のまま	(L) タラップ：アルミ既製品	既存のまま
(C) 煙突：コンクリート打放 吹付タイル	塗膜除去	(H) 打継目地（シーリング）	撤去	(M) バルコニー手摺：アルミ既製品	既存のまま
(D) 丸柱：コンクリート打放 吹付タイル	塗膜除去	(I) 化粧目地	塗材除去	(N) 給排気金物、換気孔150φ	既存のまま
(E) グリルブロック 素焼154×154×t150	既存のまま	(J) 屋根：カラー鉄板 t0.4 横葺き	塗材除去		

2022. 10. 31	株式会社 創建社 一級建築士事務所登録 (石) 第614号	代表となる設計者 1級建築士 第15309号 辻 弘明 管理建築士 一級建築士登録 第27389号 大江 徹	担当	余市町	令和8年度 町営住宅黒川団地外壁改修工事（西棟） （意） 22 / 42
--------------	----------------------------------	--	----	-----	--

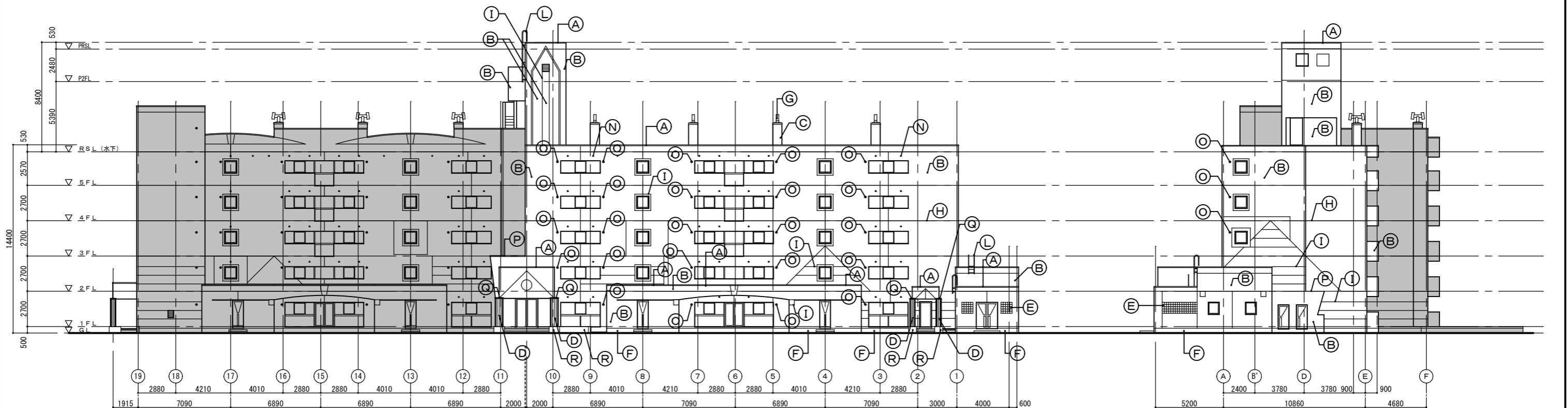
立面図-2 (改修前) A1: 1/150 A3: 1/300



南側 立面図

西棟 ← → 東棟

東側 立面図



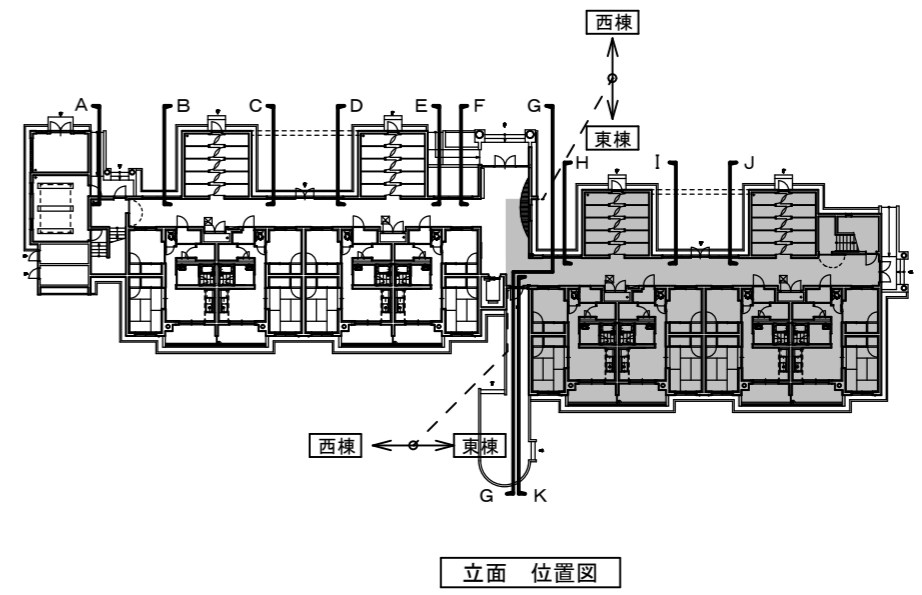
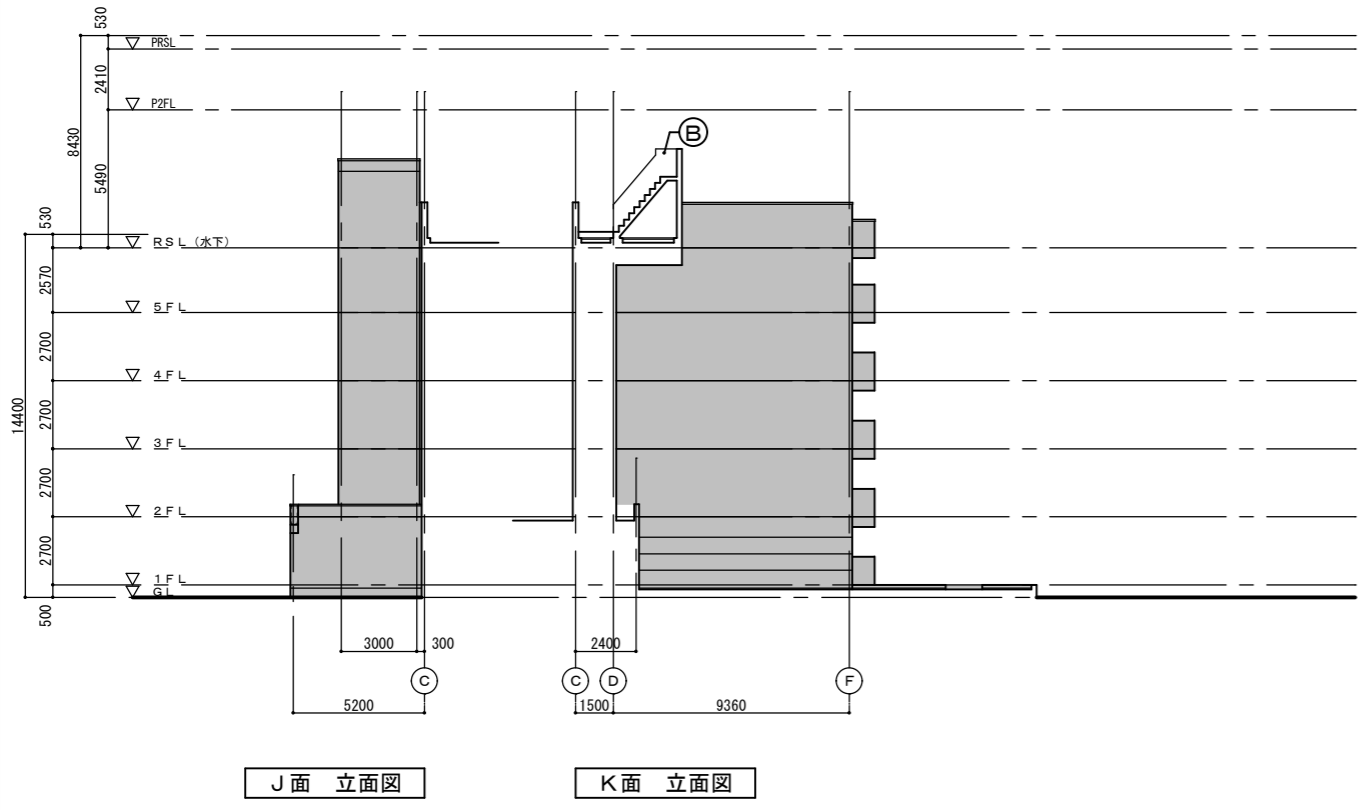
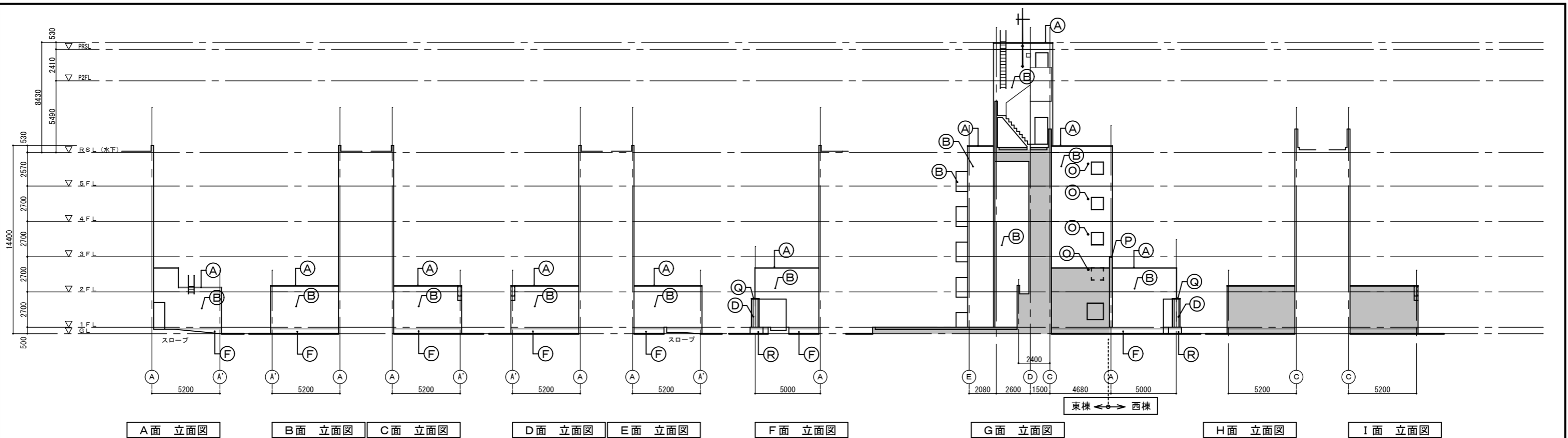
北側 立面図

東棟 ← → 西棟

西側 立面図

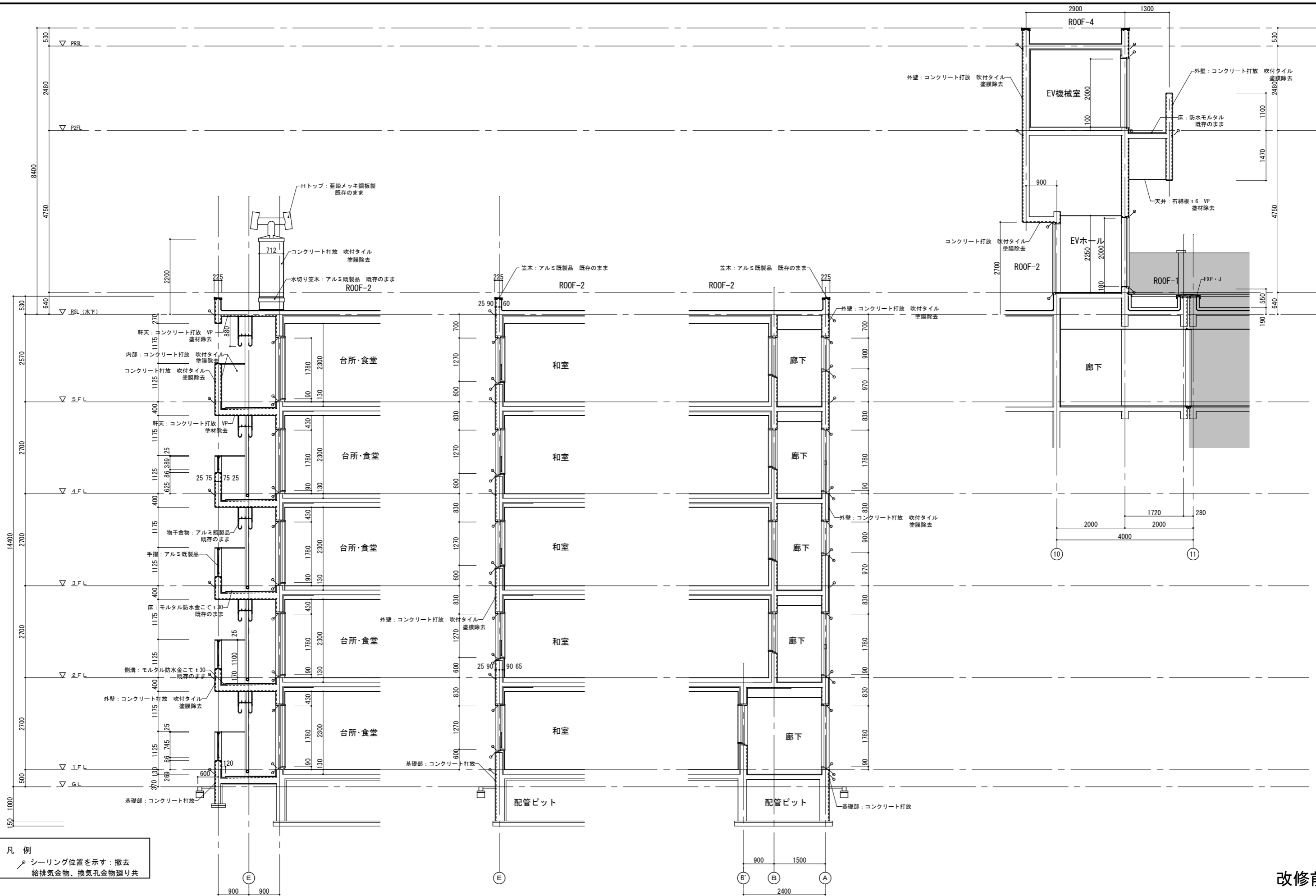
改修後

外部仕上表											
(A)	笠木：アルミ既製品	既存のまま	(F)	基礎部：劣化部補修の上、樹脂モルタル t3	新設	(K)	避難用間仕切り：アルミ既製品（バルコニー部）	既存のまま	(P)	天端：劣化部補修の上、樹脂モルタル t3 樹脂防水、吹付タイル	新設
(B)	外壁 A：劣化部補修の上、下地調整、吹付タイル	新設	(G)	煙突 H トップ部：亜鉛メッキ鋼板	既存のまま	(L)	タラップ：アルミ既製品	既存のまま	(Q)	独立柱頭部：劣化部補修の上、樹脂モルタル t3 樹脂防水、吹付タイル	新設
(C)	煙突：劣化部補修の上、下地調整、吹付タイル	新設	(H)	打継目地（シーリング）	新設	(M)	バルコニー手摺：アルミ既製品	一部補修	(R)	ポーチ袖壁：劣化部補修の上、樹脂モルタル t3	新設
(D)	丸柱：劣化部補修の上、下地調整、吹付タイル	新設	(I)	化粧目地：劣化部補修の上、下地調整、吹付タイル	新設	(N)	給排気金物、換気孔 150φ、金物	既存のまま	(S)	ドレン管 DP 塗装	新設
(E)	グリルブロック 素焼 154×154×t150	既存のまま	(J)	屋根：カラー鉄板 t0.4 横葺き	DP 塗装 新設	(O)	共用部廊下・階段室換気孔：ステンレス製フード 100φ	新設			



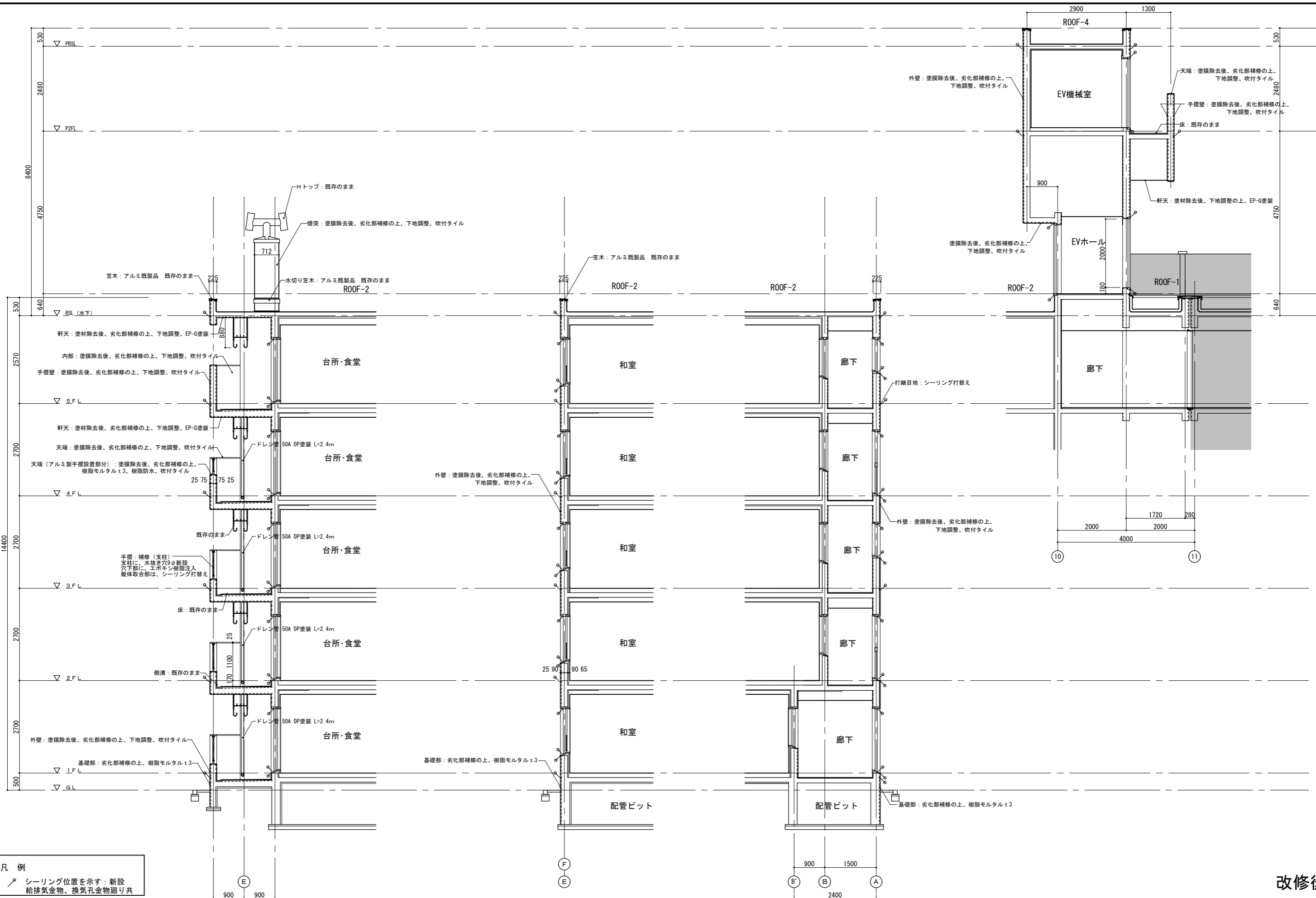
改修後

外部仕上表											
(A)	笠木：アルミ既製品	既存のまま	(F)	基礎部：劣化部補修の上、樹脂モルタル t3	新設	(K)	避難用間仕切り：アルミ既製品（バルコニー部）	既存のまま	(P)	天端：劣化部補修の上、樹脂モルタル t3 樹脂防水、吹付タイル	新設
(B)	外壁 A：劣化部補修の上、下地調整、吹付タイル	新設	(G)	煙突 H トップ部：垂鉛メッキ銅板	既存のまま	(L)	タラップ：アルミ既製品	既存のまま	(Q)	独立柱頭部：劣化部補修の上、樹脂モルタル t3 樹脂防水、吹付タイル	新設
(C)	煙突：劣化部補修の上、下地調整、吹付タイル	新設	(H)	打継目地（シーリング）	新設	(M)	バルコニー手摺：アルミ既製品	一部補修	(R)	ポーチ袖壁：劣化部補修の上、樹脂モルタル t3	新設
(D)	丸柱：劣化部補修の上、下地調整、吹付タイル	新設	(I)	化粧目地：劣化部補修の上、下地調整、吹付タイル	新設	(N)	給排気金物、換気孔 150φ、金物	既存のまま	(S)	ドレン管 DP 塗装	新設
(E)	グリルブロック 素焼 154×154×t150	既存のまま	(J)	屋根：カラー鉄板 t0.4 横葺き	DP 塗装 新設	(O)	共用部廊下・階段室換気孔：ステンレス製フード 100φ	新設			



改修前

2022 . 10 . 31		株式会社 創建社 一級建築士事務所登録 (石) 第614号		代表となる設計者 1級建築士 第153036号 辻 弘明 管理建築士 一級建築士登録 第273809号 大江 徹	担当	余市町	令和8年度 町営住宅黒川団地外壁改修工事 (西棟)	(意)
1987							断面詳細図 (改修前)	A1 : 1/50 A3 : 1/100

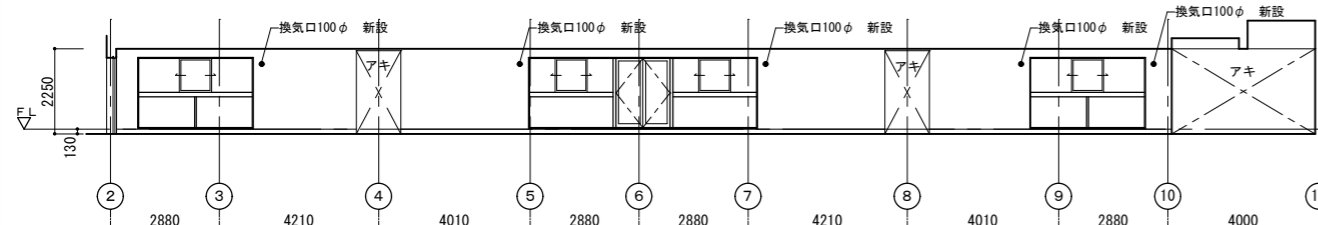


凡例
 シーリング位置を示す: 新設
 給排水金物、換気孔金物廻り共

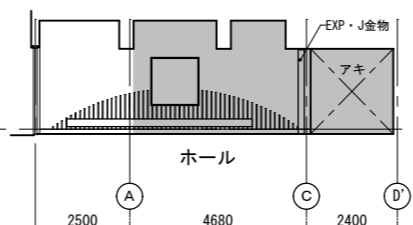
改修後

2022 . 10 . 31	代表となる設計者 1級建築士 第153036号 社 弘明	担当 管理建築士 一級建築士登録 第273809号 大江 徹	余市町	令和8年度 町営住宅黒川団地外壁改修工事(西棟)	(意)
1987	株式会社 創建社 一級建築士事務所登録 (石) 第614号			断面詳細図(改修後)	A1: 1/50 A3: 1/100

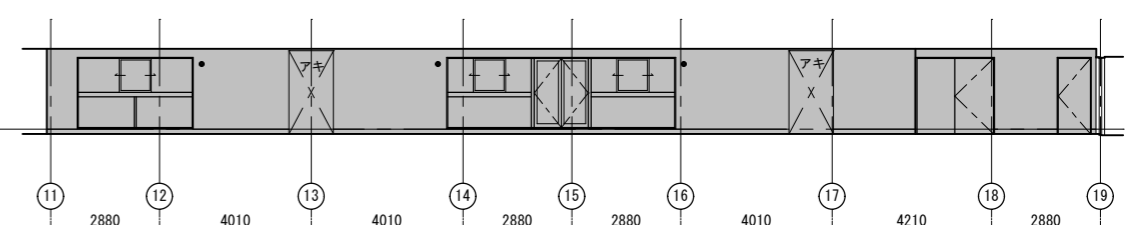
※ 廊下外壁面：換気孔100φ（外部フード：ステンレス既製品）新設



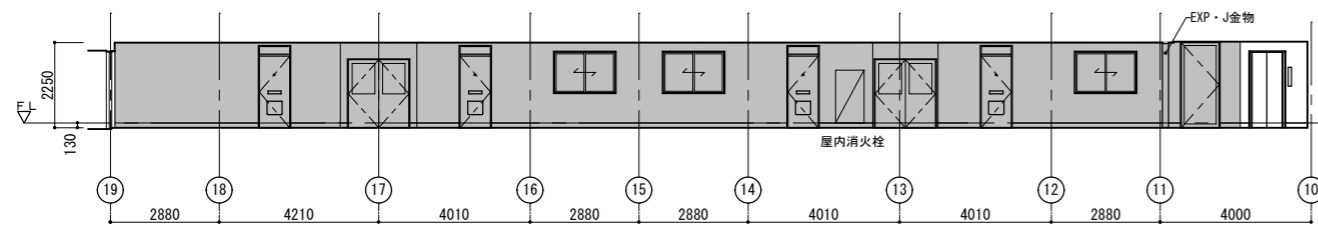
1階 共用部 -A-



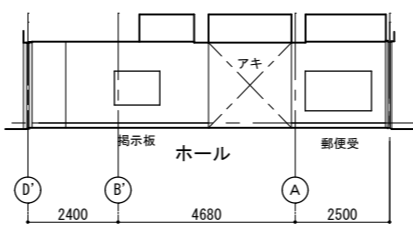
1階 共用部 -B-



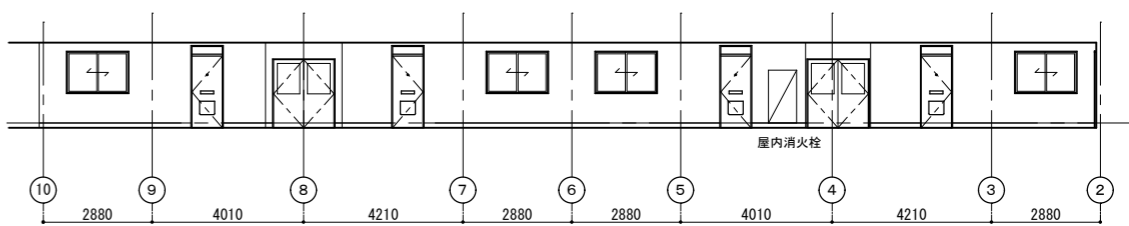
1階 共用部 -A-



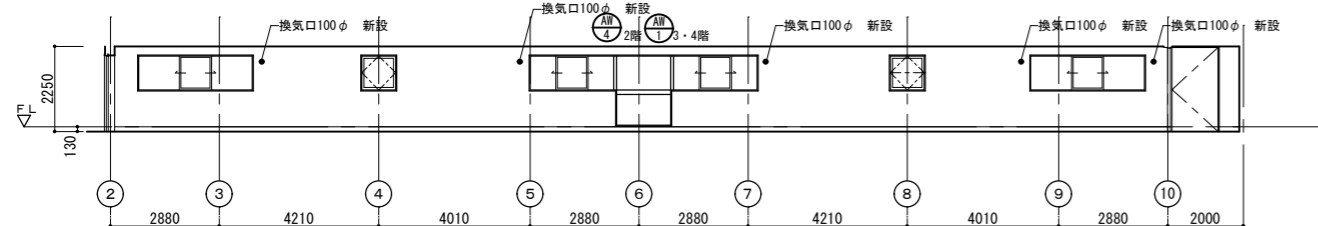
1階 共用部 -C-



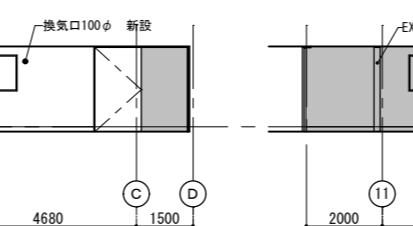
1階 共用部 -D-



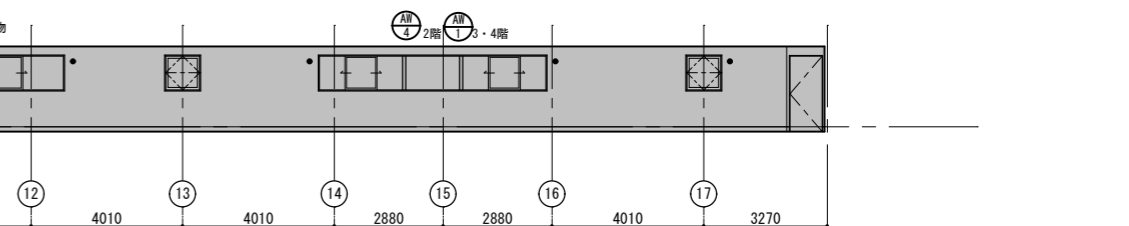
1階 共用部 -C-



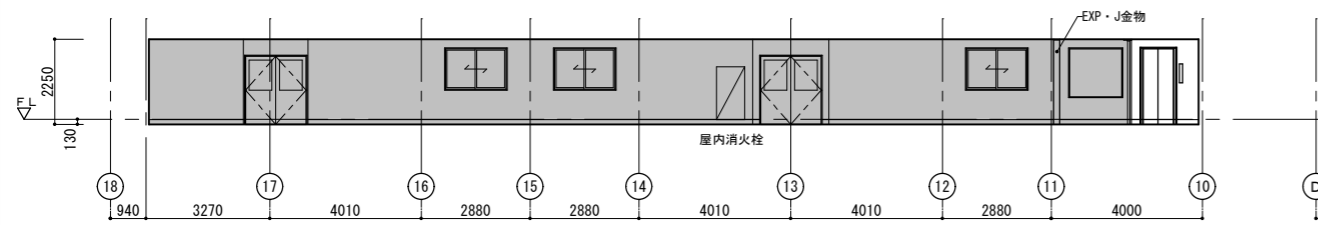
2～4階 共用部 -A-



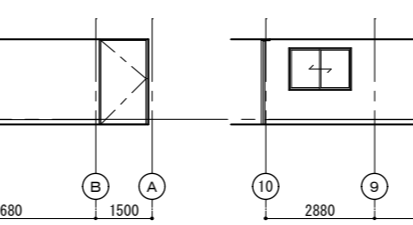
2～4階 共用部 -B-



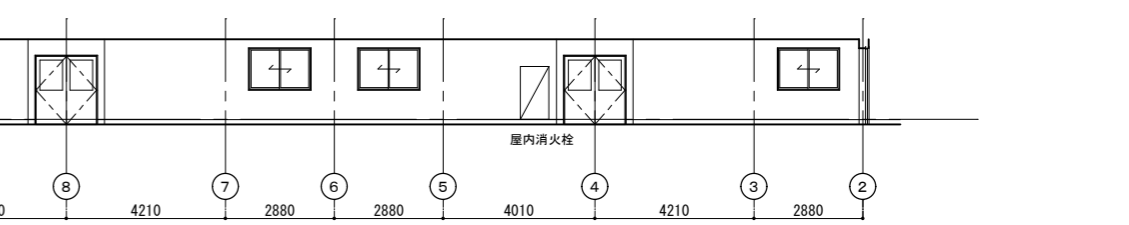
2～4階 共用部 -A-



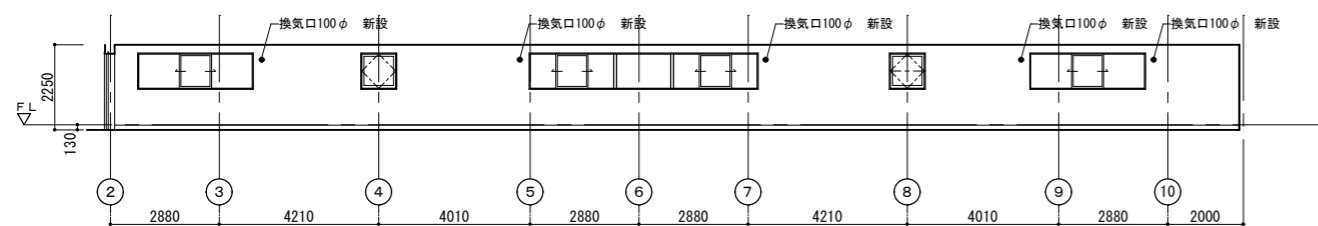
2～4階 共用部 -C-



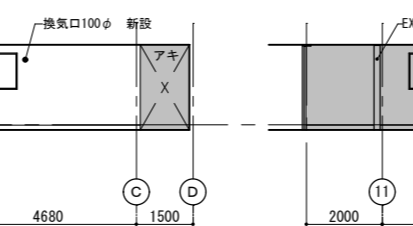
2～4階 共用部 -D-



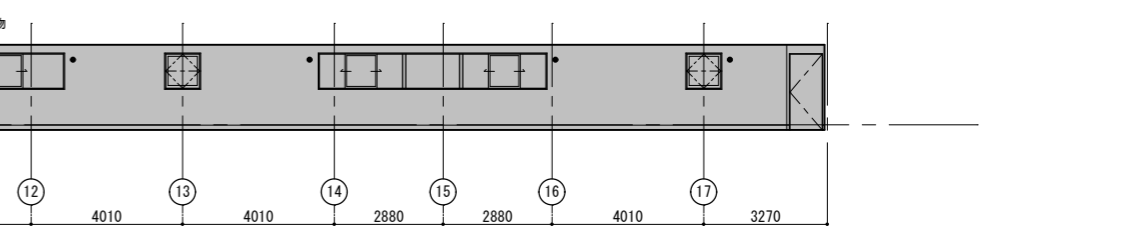
2～4階 共用部 -C-



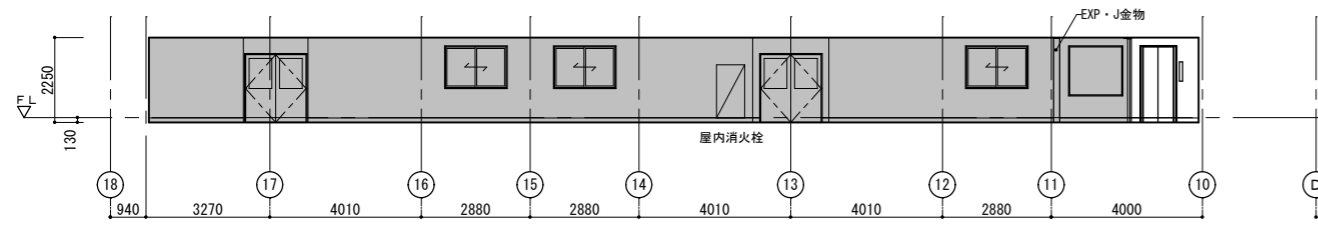
5階 共用部 -A-



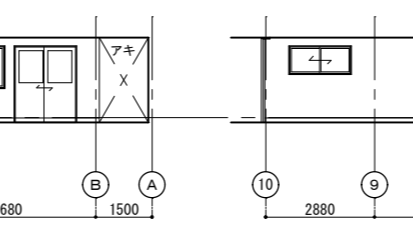
5階 共用部 -B-



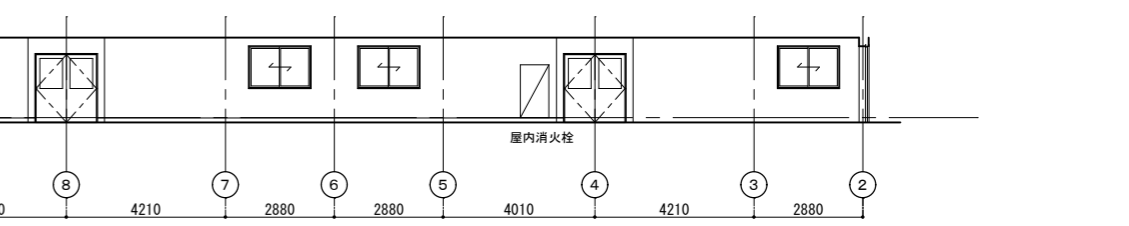
5階 共用部 -A-



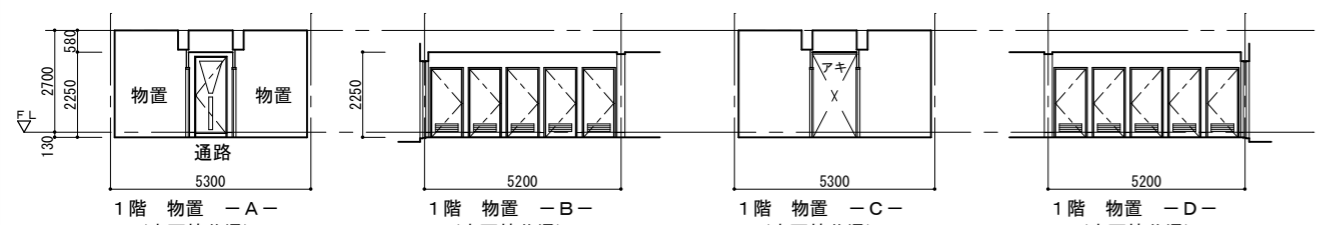
5階 共用部 -C-



5階 共用部 -D-



5階 共用部 -C-

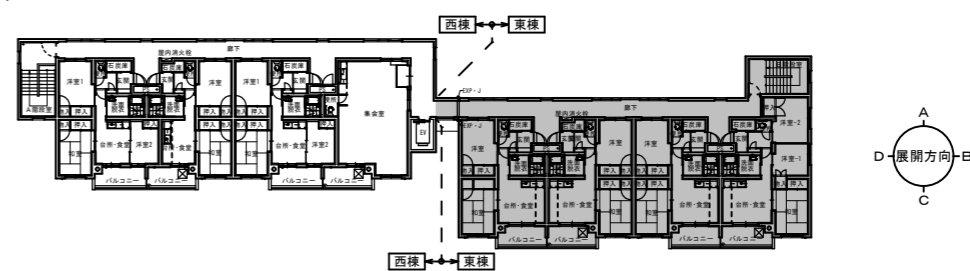


1階 物置 -A- (東西棟共通)

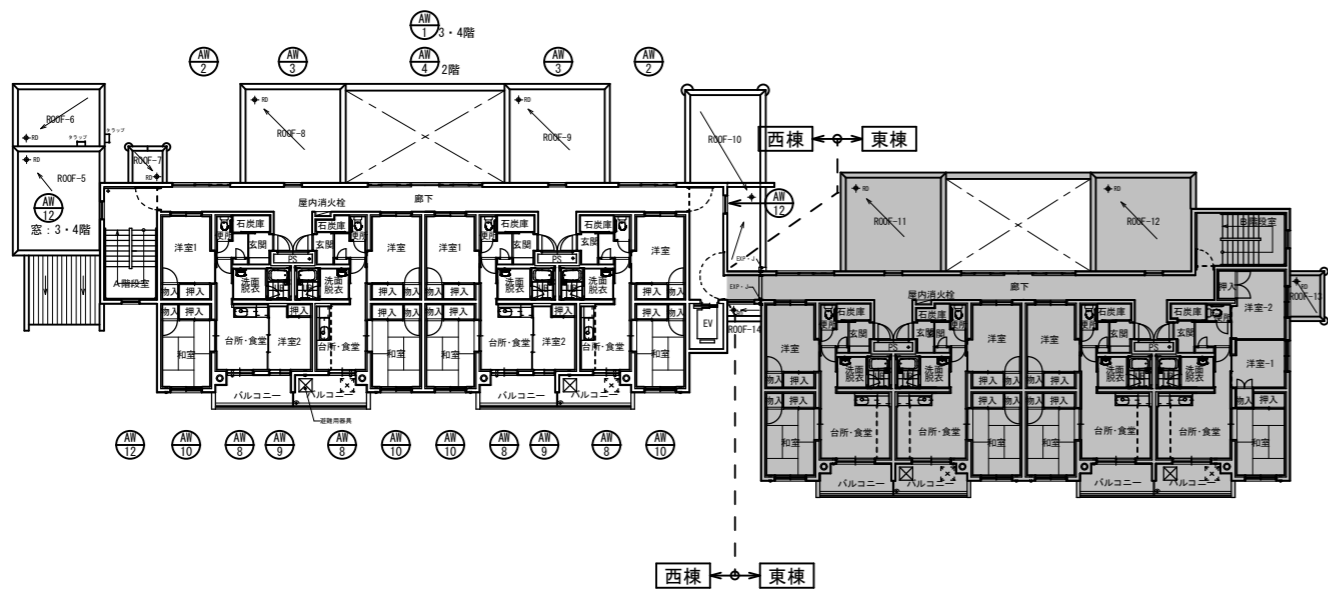
1階 物置 -B- (東西棟共通)

1階 物置 -C- (東西棟共通)

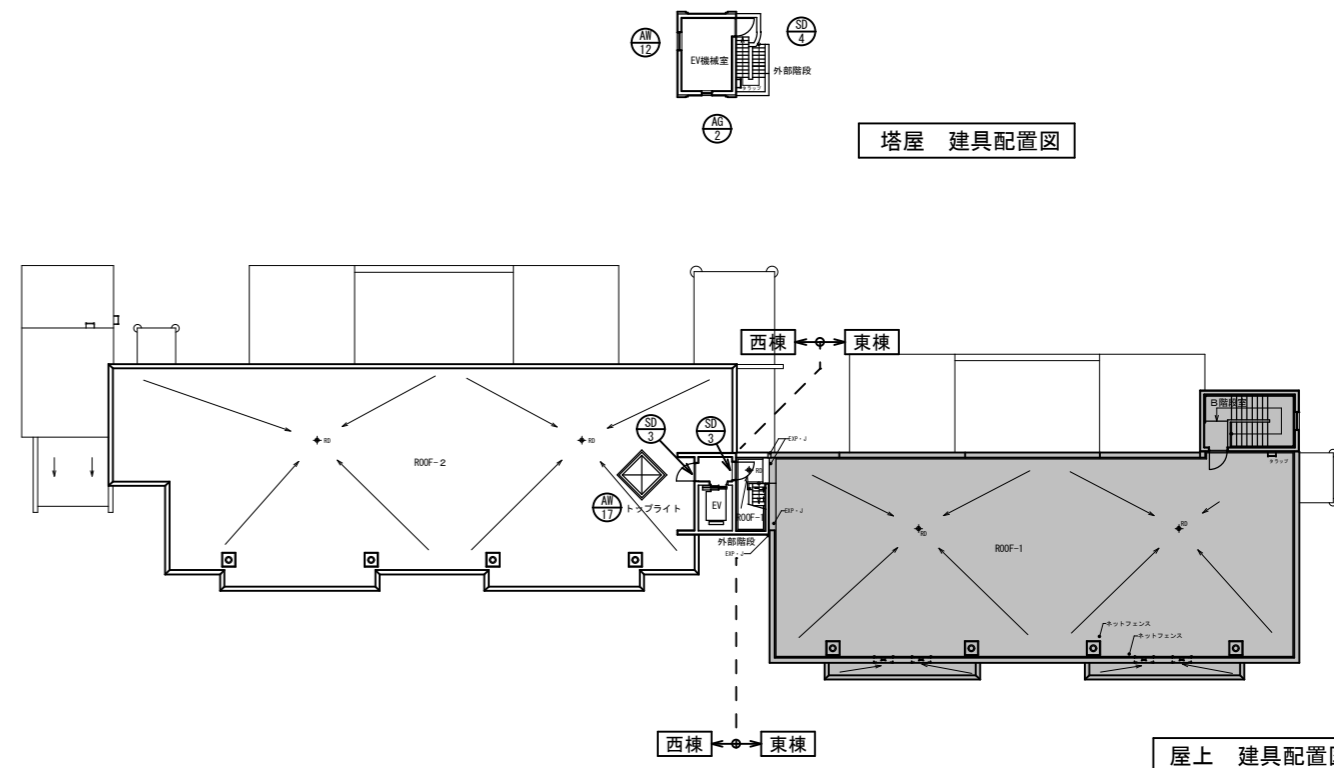
1階 物置 -D- (東西棟共通)



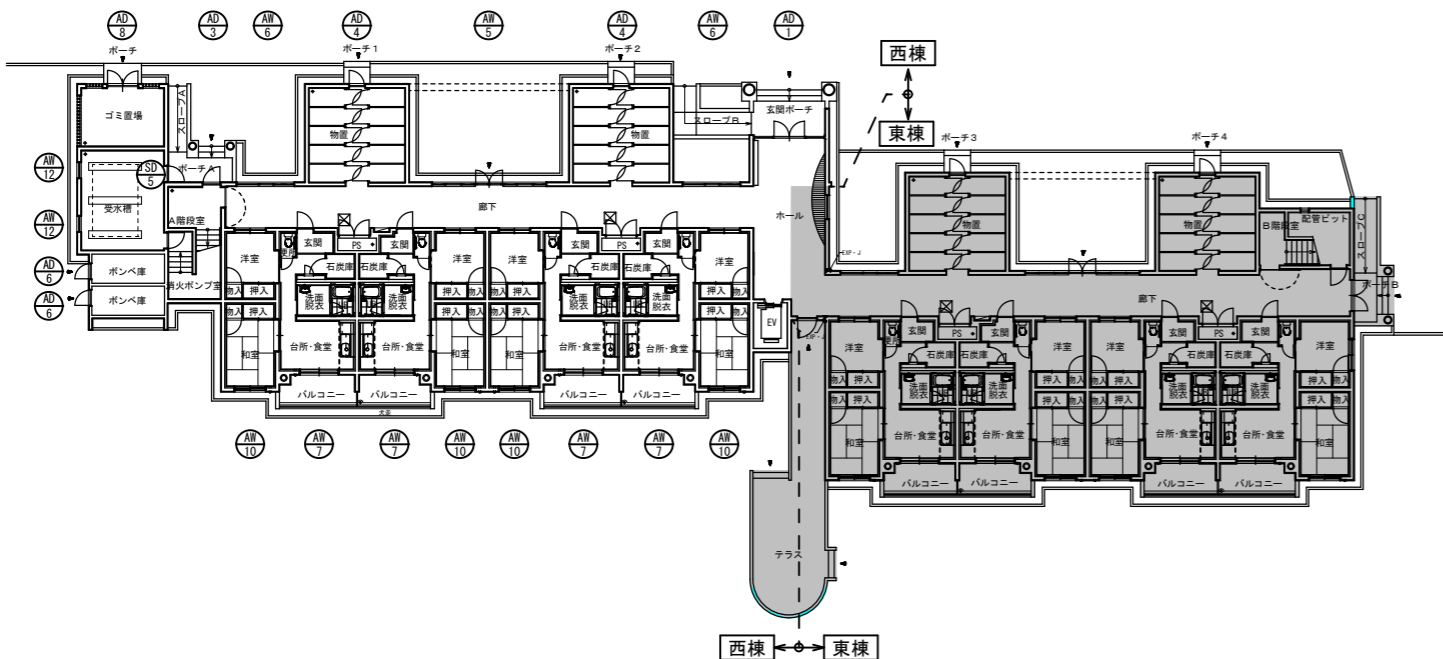
2～4階 建具配置図



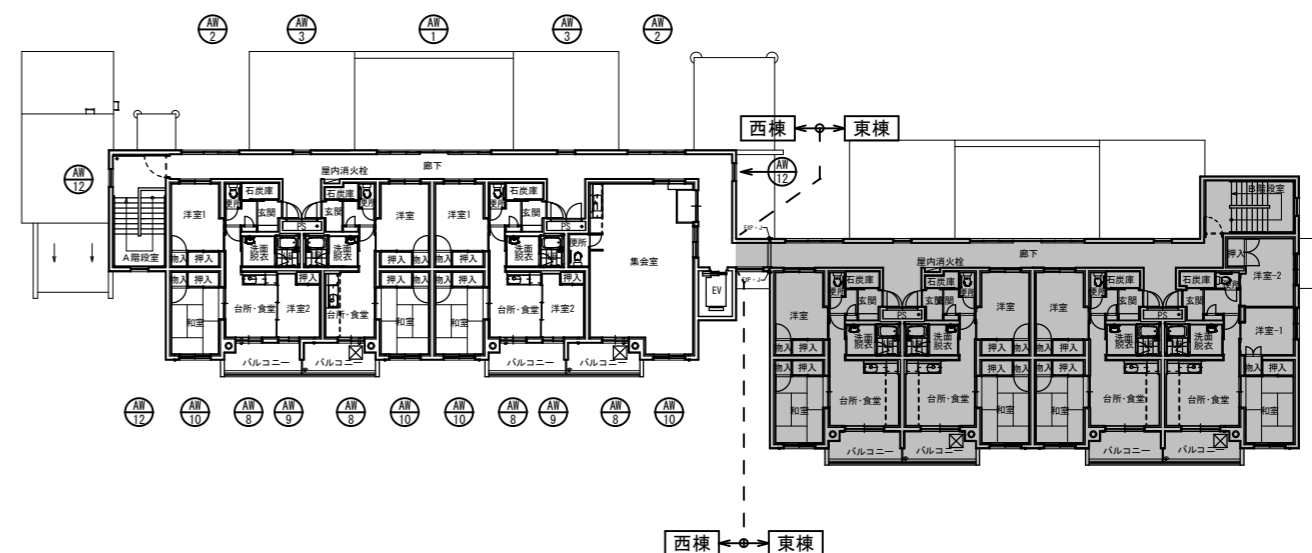
屋上・塔屋 建具配置図



1階 建具配置図



5階 建具配置図



改修前・後

記号・形式	SD1 鋼製 玄関片開きフラッシュ扉 (常閉) 共用部	SD2 鋼製 両開き点検扉 共用部	SD3 鋼製 片開フラッシュ扉	SD3A 鋼製 片開フラッシュ扉	SD4 鋼製 片開フラッシュ扉	建具凡例	仕上凡例
室名・数量	住戸玄関 39	P S 20	屋上 EVホール 2	屋上 B階段室	屋上 EV機械室 1	AW : アルミ製窓 AD : アルミ製扉 AG : アルミ製ガラリ SD : 鋼製扉 WD : 木製扉	EP-G : つや有合成樹脂エマルジョン塗 DP : 耐候性塗料塗 SOP : 合成樹脂塗合ペイント塗り NA : アルミアルマイト処理 CA : アルミ電解発色処理 SUS : ステンレスHL
図							
見込(程度)			改修: 躯体取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替		硝子凡例 FL : フロートガラス F : 型板ガラス FW : 網入型板ガラス PW : 網入みがきガラス T : 強化ガラス (透明) TF : 強化ガラス (型) 複層ガラス (外側) - (空気層) - (内側) T5 - A6 - FL5
材質・仕上	鋼製 SOP 枠見込み t 80 戸 t 36	鋼製 SOP 枠見込み t 70 戸 t 30	鋼製 SOP 枠見込み t 70 改修: 塗装塗替え DP塗装	鋼製 SOP 枠見込み t 70 既存枠: 塗装塗替え DP塗装	鋼製 SOP 枠見込み t 70 改修: 塗装塗替え DP塗装		
特殊金物・付属品	付属金物一式 PH CL DC DC 安心チェン メガネ	付属金物一式 CH C T FB	付属金物一式 CL H DS DC	付属金物一式 CL H DS DC	付属金物一式 PH CL DC DS		
ガラス	PW t 6.8	PW t 6.8	FL t 3	FL t 3	—		
備考	下枠:SUS製 郵便受 牛乳入						
記号・形式	SD5 鋼製 片開フラッシュ扉	SD6 鋼製 常開防火戸 共用部	SD7 鋼製 常開防火戸 共用部	SD8 鋼製 常開防火戸 共用部	SD9 鋼製 常開防火戸 共用部		
室名・数量	1階 受水槽 B階段室下部 2	1階 A階段室 1	2~5階 A階段室 4	1階 B階段室 1	2~5階 B階段室 4		
図							
見込(程度)		改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替					
材質・仕上	鋼製 SOP 枠見込み t 70 改修: 受水槽 塗装塗替え DP塗装	鋼製 SOP 枠見込み t 120 戸 t 50	鋼製 SOP 枠見込み t 120 戸 t 50	鋼製 SOP 枠見込み t 120 戸 t 50	鋼製 SOP 枠見込み t 120 戸 t 50		
特殊金物・付属品	付属金物一式 PH CL DC DS	付属金物一式 FH CH	付属金物一式 FH CH	付属金物一式 FH CH	付属金物一式 FH CH		
ガラス	—	—	—	—	—		
備考		煙感知器連動装置付き	煙感知器連動装置付き	煙感知器連動装置付き	煙感知器連動装置付き		
記号・形式	SD10 鋼製 常開防火戸 共用部	SD11 鋼製 常開防火戸 共用部		AD1 アルミ製 ガラリ	AD2 アルミ製 ガラリ		
室名・数量	共用廊下 2~4階 3	共用廊下 2~4階 3		1階 B階段室下部	塔屋 EV機械室 1		
図							
見込(程度)					改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替		
材質・仕上	鋼製 SOP 枠見込み t 120 戸 t 50	鋼製 SOP 枠見込み t 120 戸 t 50		アルミ製 枠見込み t 70 電解着色	アルミ製 枠見込み t 70 電解着色		
特殊金物・付属品	付属金物一式 FH CH	付属金物一式 FH CH		付属金物一式	付属金物一式		
ガラス	—	—		—	—		
備考		煙感知器連動装置付き					
記号・形式	AD1 アルミ製 FIX付両開き扉	AD2 アルミ製 両開き扉	AD3 アルミ製 片開き扉	AD4 アルミ製 片開き扉	AD5 アルミ製 引違フラッシュ戸		
室名・数量	共同玄関 1	ポーチB	ポーチA 1	物置 2	5階 集会室 1		
図							
見込(程度)	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体取合部、シーリング打替		
材質・仕上	アルミ製 枠見込み t 100 電解着色	アルミ製 枠見込み t 70 電解着色	アルミ製 枠見込み t 70 電解着色	アルミ製 枠見込み t 70 電解着色	アルミ製 枠見込み t 70		
特殊金物・付属品	付属金物一式 T DC FB C 押し棒	付属金物一式 PH DC DS FB C 押し棒	付属金物一式 PH DC DS C 押し棒	付属金物一式 CL H DC DS	付属金物一式 HL PB		
ガラス	T t 5	T t 5	T t 5	FL t 3	PW t 6.8+6+FL t 3 SUS製レール		
備考							

その他

- ・防火戸のDCはストッパー無しとする
- ・防火戸のDCはストッパー無しとする
- ・AT: エアータイト仕様、SAT: セミエアータイト仕様
- ・AT、SATの扉内部はガラスウール充填 (防火戸はロックウール充填)
- ・AT、SATの戸当り部はネオプレンゴムを設置

改修前・後

記号・形式	AD6 アルミ製 片開き扉	AD7 アルミ製 片開き扉	AD8 アルミ製 両開き扉	AW1 アルミ製 FIX付自由片引き窓	AW2 アルミ製 FIX付自由片引き窓	AW3 アルミ製 横軸回転窓	AW4 アルミ製 FIX付自由片引き窓	AW5 アルミ製 FIX・自由片引付両開き窓	AW6 アルミ製 FIX付自由片引き窓	AW7 アルミ製 引違窓	AW8 アルミ製 引違窓	AW9 アルミ製 引違窓	AW10 アルミ製 引違窓	AW11 アルミ製 引違窓	AW12 アルミ製 FIX窓	AW13 アルミ製 FIX窓	AW14 アルミ製 トップライト (排煙・断熱)	AW15 アルミ製 FIX窓	AW16 アルミ製 引違窓	AW17 木製 片開きフラッシュ扉	共用部
室名・数量	1階 プロパン庫 2	1階 テラス 1	1階 ゴミ庫 1	3~5階 廊下 3	2~5階 廊下 8	2~5階 廊下 8	2階 廊下 1	1階 廊下 1	1階 廊下 2	台所・食堂 4	台所・食堂 16	洋室 8	洋室 和室 集会室 20	洋室 35	2~5階 廊下 1階 受水槽 14	玄関ホール 1	屋上 ROOF-2 (集会室上部) 1	2~5階 廊下 (EV横) 4	集会室 1	物置 40	
図																					
見込(程度)	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: EP-G塗装 新設
材質・仕上	アルミ製 枠見込み t70 電解着色	アルミ製 枠見込み t70 電解着色	アルミ製 枠見込み t70 電解着色	アルミ製シルバー 枠見込み t70	アルミ製シルバー 枠見込み t70	アルミ製シルバー 枠見込み t70	アルミ製シルバー 枠見込み t70	アルミ製シルバー 枠見込み t70	アルミ製シルバー 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	木製 ラワン合板 扉 t33	
特殊金物・付属品	付属金物一式 CL H DC DS	付属金物一式 FH DS C	付属金物一式 CL H DC DS FB	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 H DC CL	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	CL T DS
ガラス	Ft4	Tt5	CL H DC DS FB	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3 下部: Tt5	FLt3 下部: Tt5	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	
備考	下枠:SUS製	下枠:SUS製						水切り アングルピース													
符号・形式	AW2 アルミ製 FIX付自由片引き窓	AW3 アルミ製 横軸回転窓	AW4 アルミ製 FIX付自由片引き窓	AW5 アルミ製 FIX・自由片引付両開き窓	AW6 アルミ製 FIX付自由片引き窓	AW7 アルミ製 引違窓	AW8 アルミ製 引違窓	AW9 アルミ製 引違窓	AW10 アルミ製 引違窓	AW11 アルミ製 引違窓	AW12 アルミ製 FIX窓	AW13 アルミ製 FIX窓	AW14 アルミ製 トップライト (排煙・断熱)	AW15 アルミ製 FIX窓	AW16 アルミ製 引違窓	AW17 木製 片開きフラッシュ扉	共用部				
室名・数量	2~5階 廊下 8	2~5階 廊下 8	2階 廊下 1	1階 廊下 1	1階 廊下 2	台所・食堂 4	台所・食堂 16	洋室 8	洋室 和室 集会室 20	洋室 35	2~5階 廊下 1階 受水槽 14	玄関ホール 1	屋上 ROOF-2 (集会室上部) 1	2~5階 廊下 (EV横) 4	集会室 1	物置 40					
図																					
見込(程度)	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替
材質・仕上	アルミ製シルバー 枠見込み t70	アルミ製シルバー 枠見込み t70	アルミ製シルバー 枠見込み t70	アルミ製シルバー 枠見込み t70	アルミ製シルバー 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	
特殊金物・付属品	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	
ガラス	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	
備考																					
符号・形式	AW12 アルミ製 FIX窓	AW13 アルミ製 FIX窓	AW14 アルミ製 トップライト (排煙・断熱)	AW15 アルミ製 FIX窓	AW16 アルミ製 引違窓	AW17 木製 片開きフラッシュ扉	共用部														
室名・数量	2~5階 廊下 1階 受水槽 14	玄関ホール 1	屋上 ROOF-2 (集会室上部) 1	2~5階 廊下 (EV横) 4	集会室 1	物置 40															
図																					
見込(程度)	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替	改修: 躯体、水切取合部、シーリング打替
材質・仕上	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	アルミ製 枠見込み t70	
特殊金物・付属品	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	付属金物一式 水切り アングルピース	
ガラス	FLt3	FLt3	アクリルドーム+PWt6.8	FLt5	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	FLt3	
備考	2~4階まで 横軸回転窓: 3ヶ所		菱型ライト形式 ハッチピラミッド型 程度																		

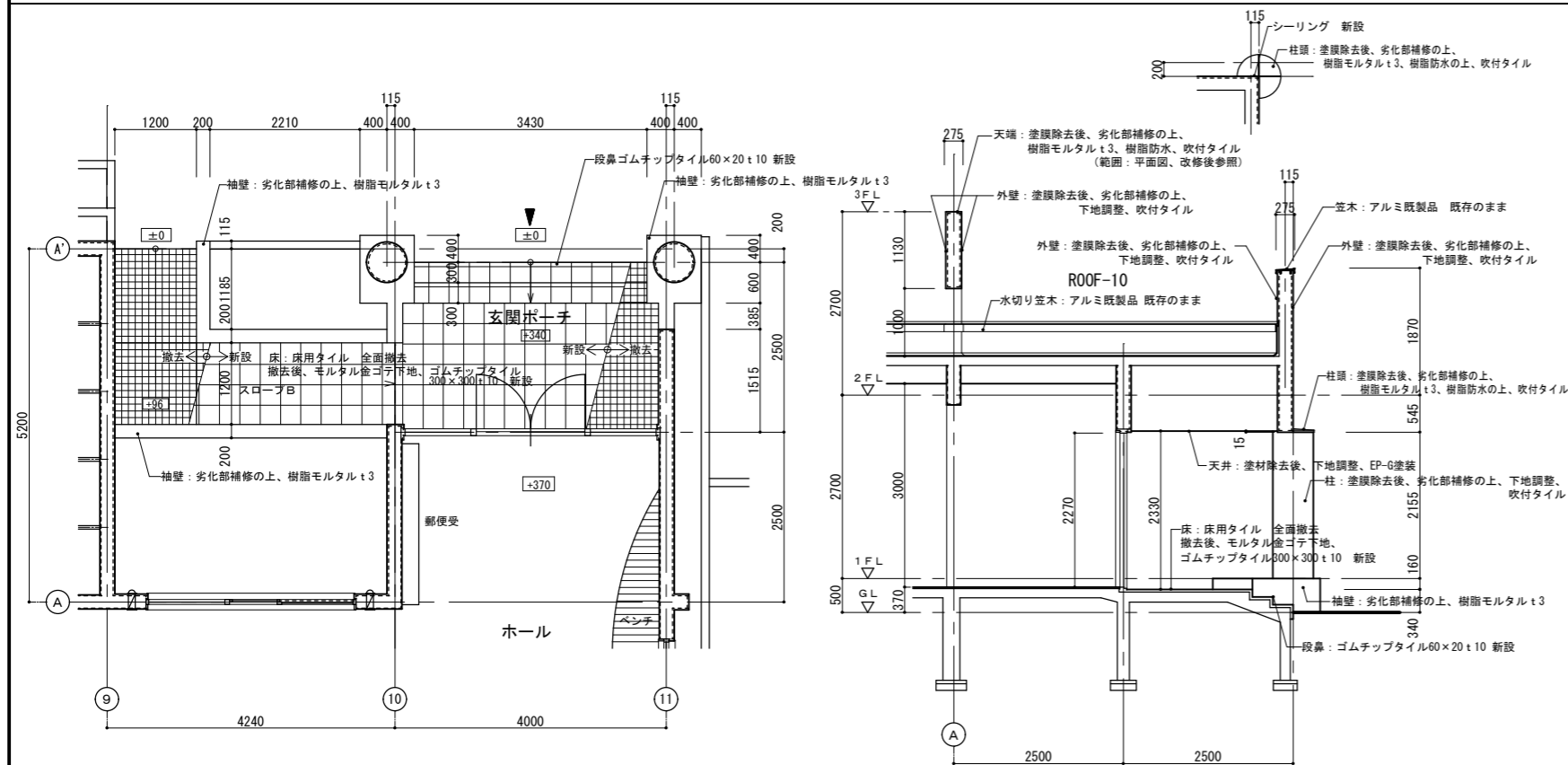
- 建具凡例
- AW : アルミ製窓
 - AD : アルミ製扉
 - AG : アルミ製ガラリ
 - SD : 鋼製扉
 - WD : 木製扉
- 硝子凡例
- EP-G : つや有合成樹脂エマルジョン塗
 - DP : 耐熱性塗料塗
 - SOP : 合成樹脂顔料ペイント塗り
 - NA : アルミアルマイト処理
 - CA : アルミ電解発色処理
 - SUS : ステンレスHL
- 硝子凡例
- FL : フロートガラス
 - F : 型板ガラス
 - FW : 網入型板ガラス
 - PW : 網入みがきガラス
 - T : 強化ガラス (透明)
 - TF : 強化ガラス (型)
 - 複層ガラス (外側) - (空気層) - (内側)
 - T5 - A6 - FL5
- 金物凡例
- CL : シリンダー箱錠 (レバーハンドル付)
 - C : シリンダー本錠錠
 - HL : シリンダー鎌錠
 - PL : 引戸用錠
 - LH : レバーハンドル
 - CH : ケースハンドル
 - GH : グレモンハンドル
 - N : 握玉
 - PP : 押板
 - PB : 引手
 - T : 丁番 (ステンレス)
 - FH : フロアヒンジ
 - PH : ピボットヒンジ
 - DC : ドアチェック
 - DS : 戸当り
 - FB : フランス落し
 - K : 結露受 (ランマ共)
 - P : アングルピース
 - S : ステンレス番指
- S-1 20 40 S-2 25 S-3 25

その他

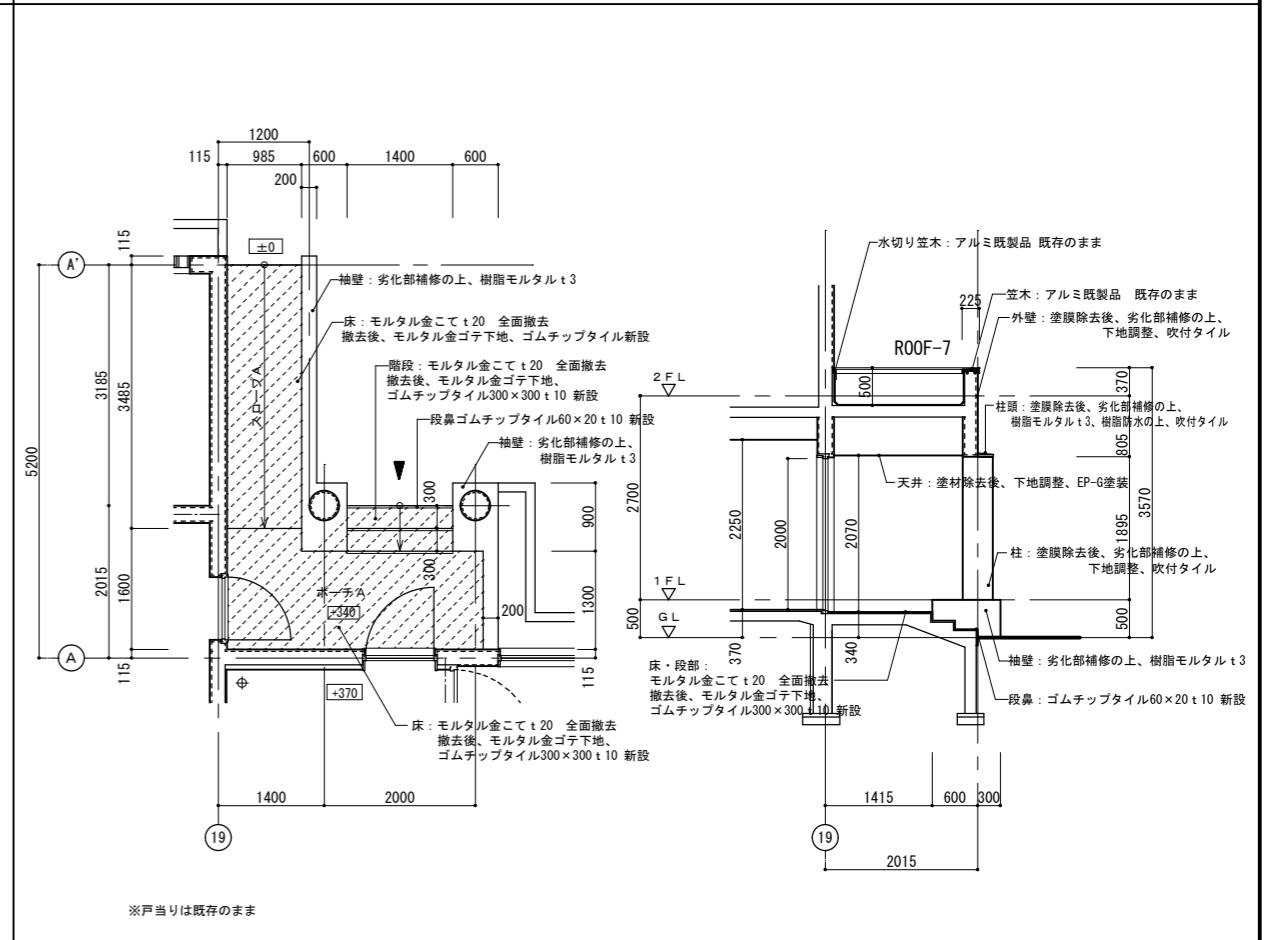
- 防火戸のDCはストッパー無しとする
- 防火戸のDCはストッパー無しとする
- AT : エアータイト仕様、SAT : セミエアータイト仕様
- AT、SATの扉内部はガラスウール充填 (防火戸はロックウール充填)
- AT、SATの戸当り部はネオプレンゴムを設置

改修前・後

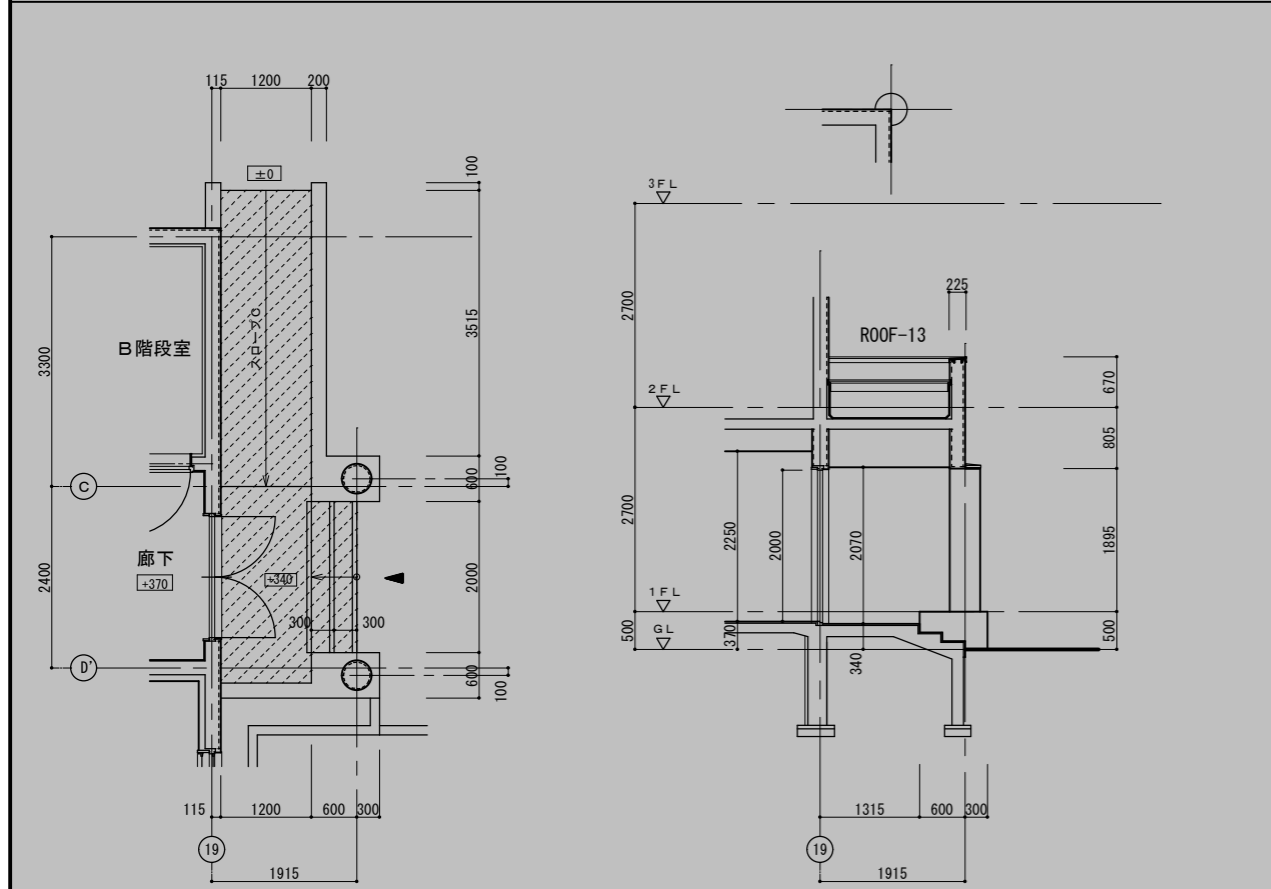
玄関ポーチ 詳細図



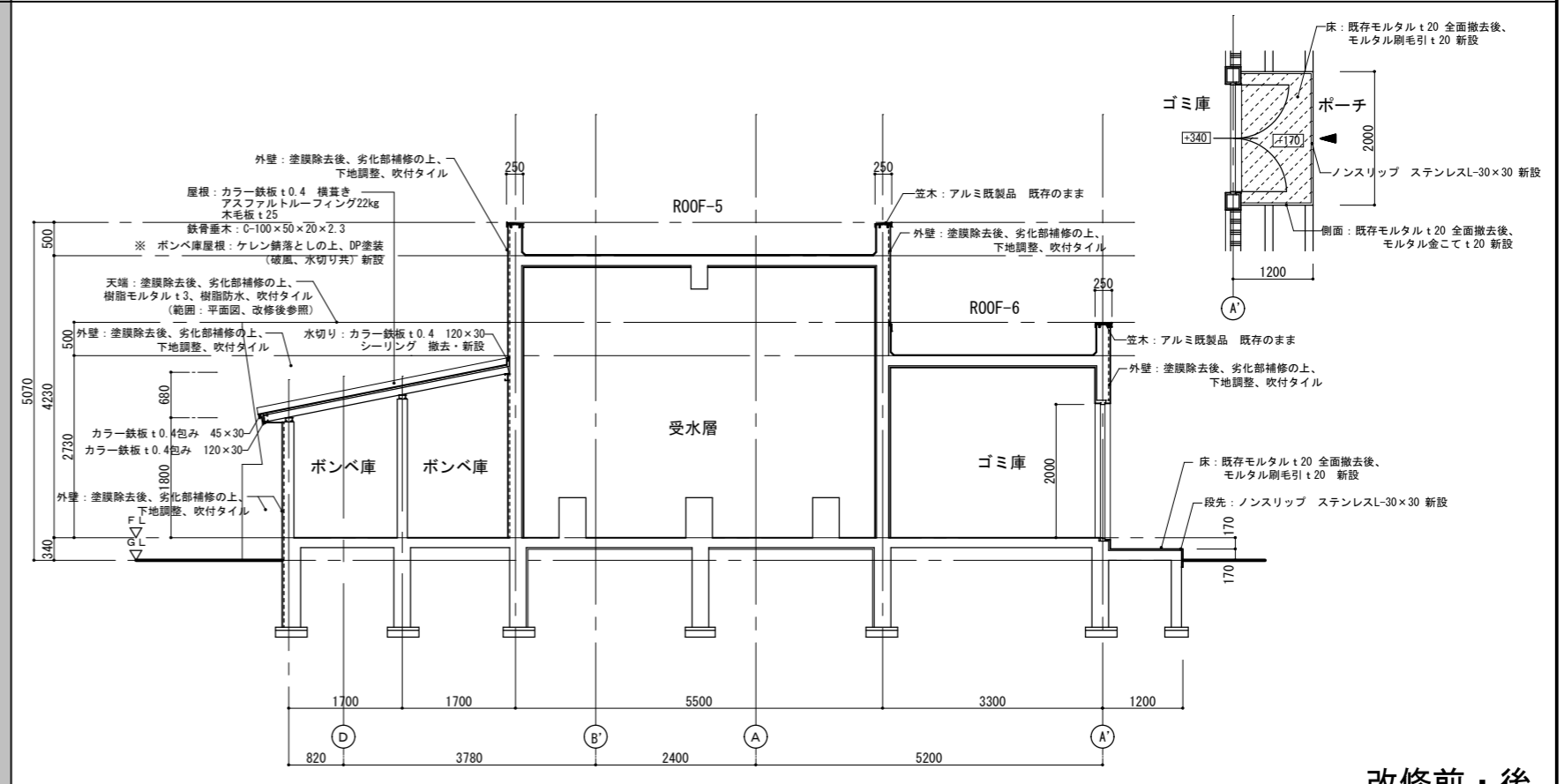
ポーチ A 詳細図



ポーチ B 詳細図

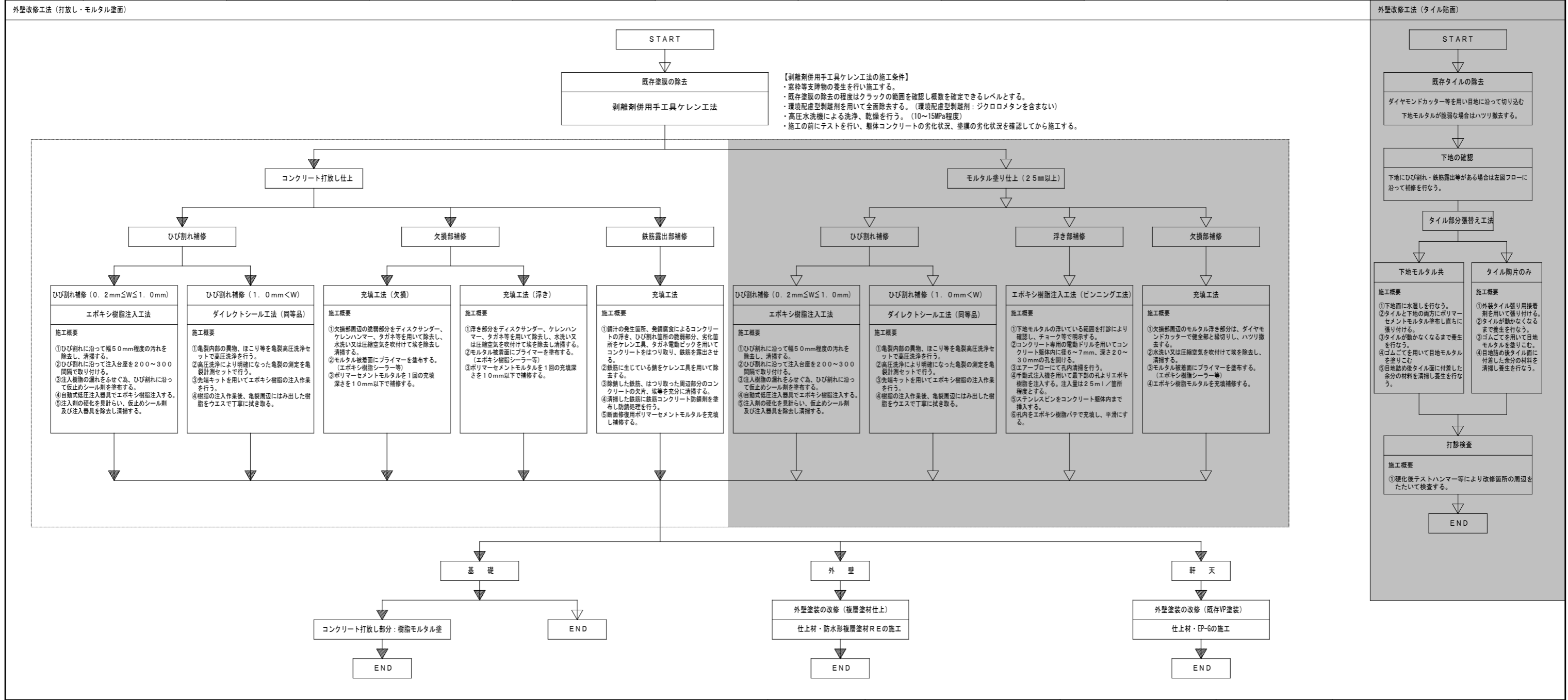


プロパン庫・受水層・ゴミ庫ポーチ 詳細図



改修前・後

B-1 外壁改修		ひび割れ補修 (0.2mm ≤ W ≤ 1.0mm)		ひび割れ補修 (1.0mm < W)		欠損部補修		浮き部補修		鉄筋露出補修		タイル貼 浮き・欠損・ひび割れ
		コンクリート打放し仕上	モルタル塗り仕上	コンクリート打放し仕上	モルタル塗り仕上	コンクリート打放し仕上	コンクリート打放し仕上	コンクリート打放し仕上	モルタル塗り仕上	一般部	鉄筋かぶり厚不足部	
改修前												
改修後												
外壁改修工法 (打放し・モルタル塗面)				※ダイレクトシール工法 (同等品)		※ダイレクトシール工法 (同等品)						外壁改修工法 (タイル貼面)





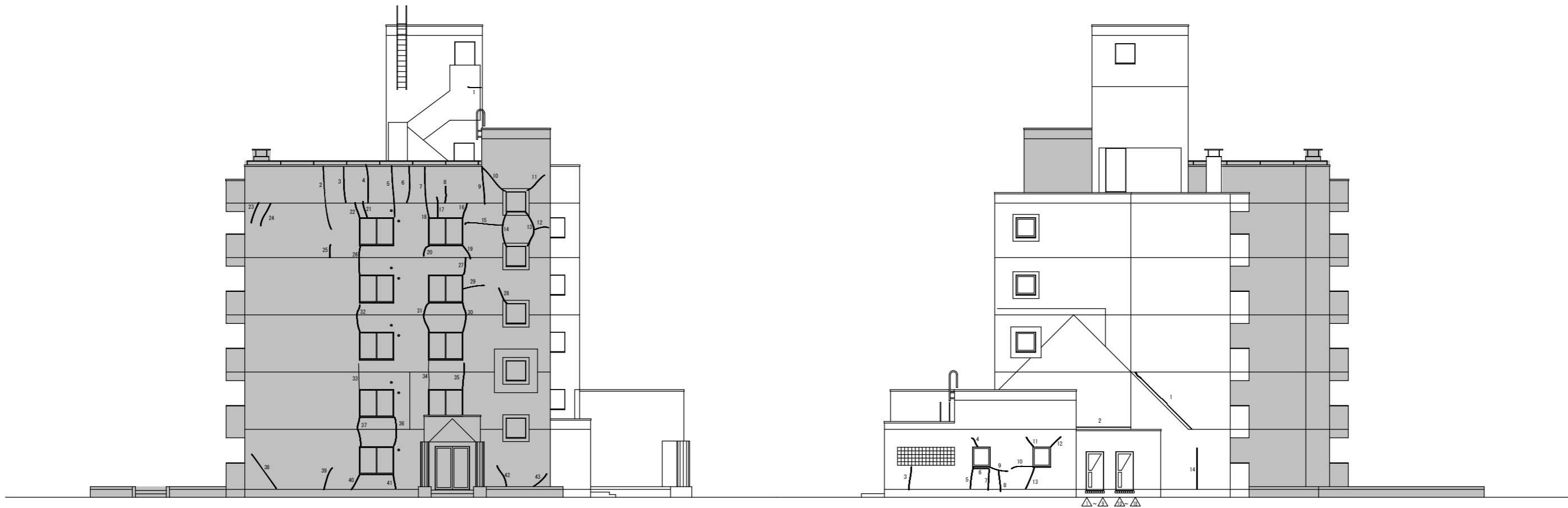
南側 立面図

凡 例	数量 西棟
⊙--- ひび割れ 1mm<W	2.1 m
— ⁿ ひび割れ W≤1mm	81.1 m
△ 欠損 100×100	22 箇所



北側 立面図

凡 例		数 量
		西 棟
—	ひび割れ $W \leq 1\text{mm}$	52.0 m
△	欠 損 100×100	11 箇所

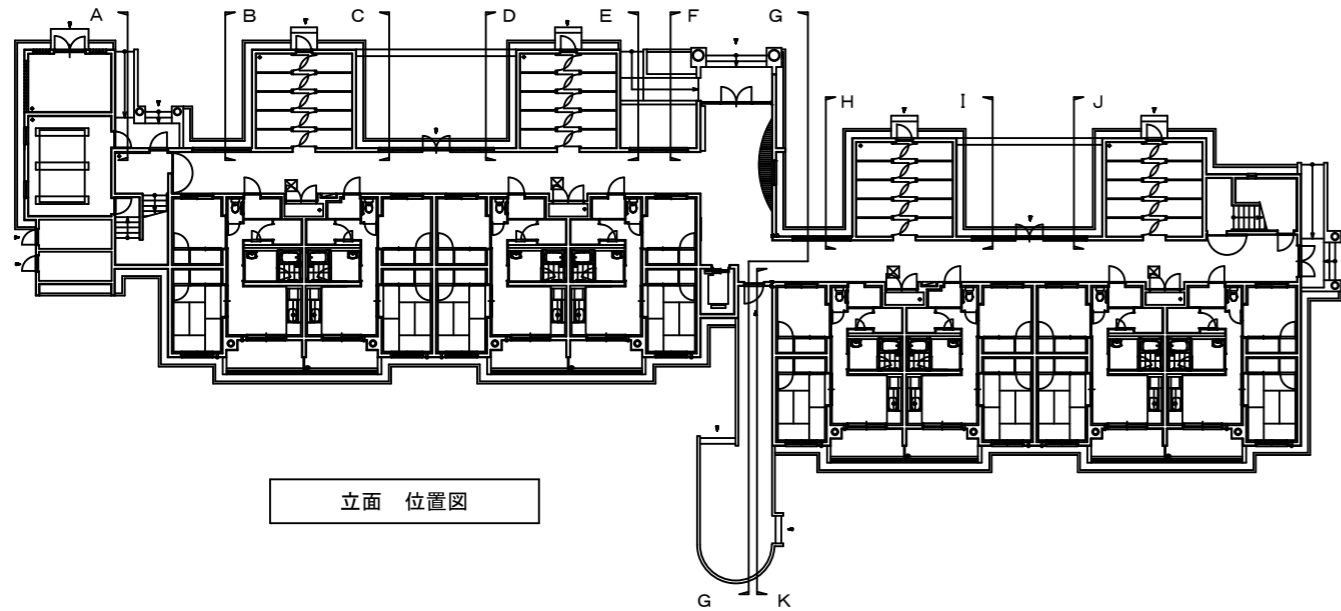


東側 立面図

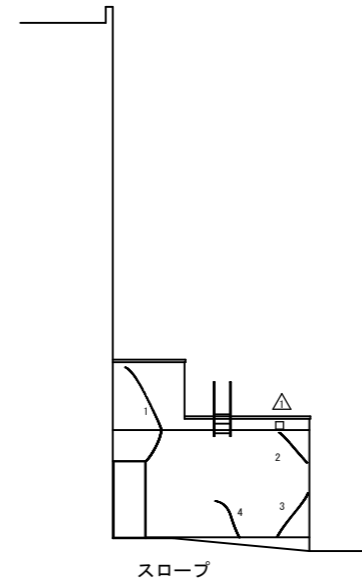
凡 例	数 量
— ⁿ ひび割れ W≤1mm	西 棟 0.6 m

西側 立面図

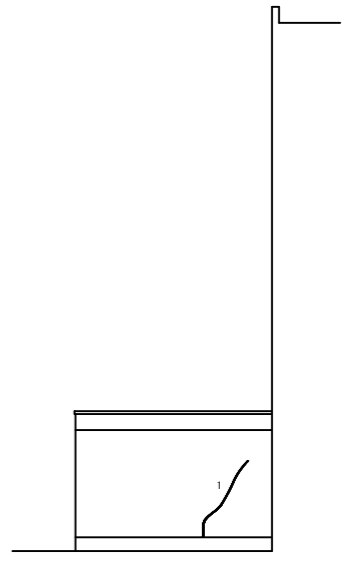
凡 例	数 量
— ⁿ ひび割れ W≤1mm	西 棟 18.0 m
△ 欠 損 100×100	18 箇所



立面 位置図



A面 立面図



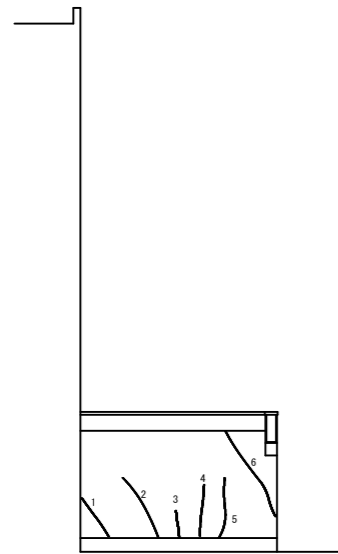
B面 立面図

A面

凡 例	数 量 西 棟
— ひび割れ $W \leq 1\text{mm}$	6.6 m
△ 欠 損 100×100	1 箇所

B面

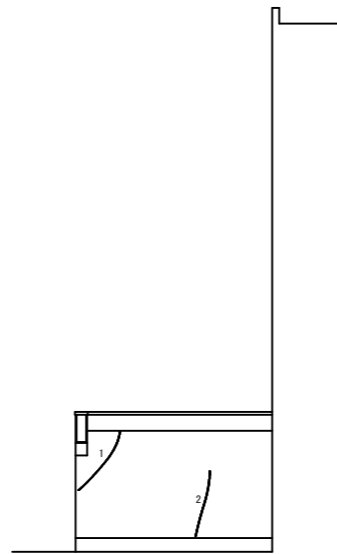
凡 例	数 量 西 棟
— ひび割れ $W \leq 1\text{mm}$	2.4 m



C面 立面図

C面

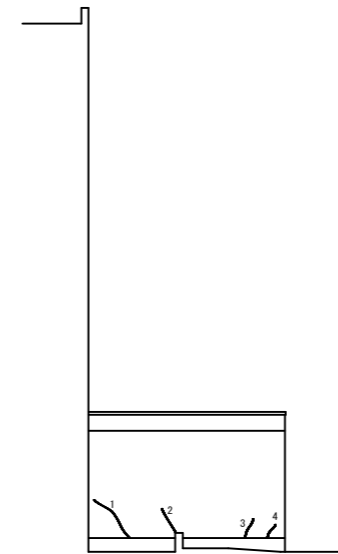
凡 例	数 量 西 棟
— ひび割れ $W \leq 1\text{mm}$	9.4 m



D面 立面図

D面

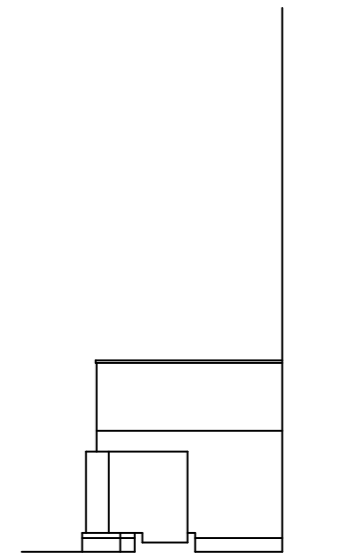
凡 例	数 量 西 棟
— ひび割れ $W \leq 1\text{mm}$	3.8 m



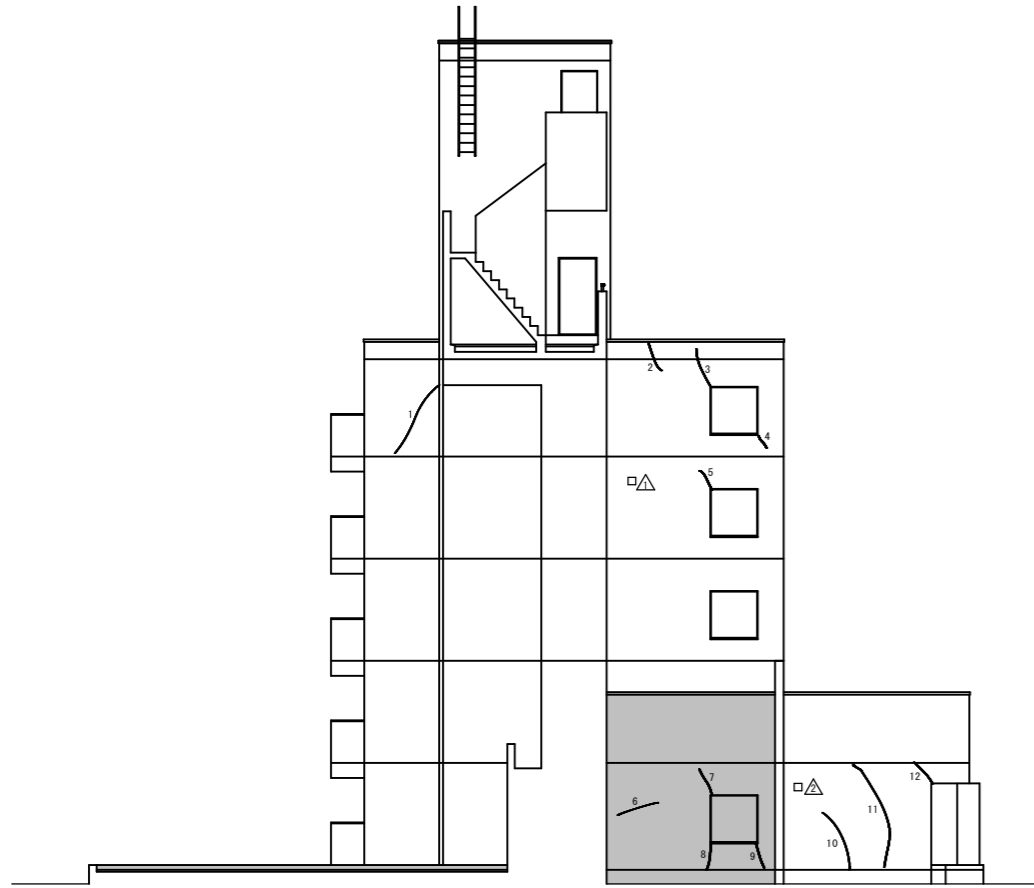
E面 立面図

E面

凡 例	数 量 西 棟
— ひび割れ $W \leq 1\text{mm}$	3.0 m



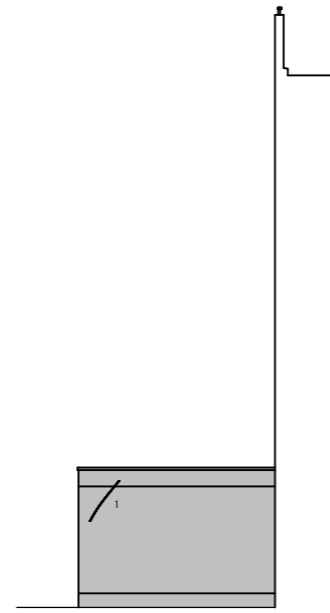
F面 立面図



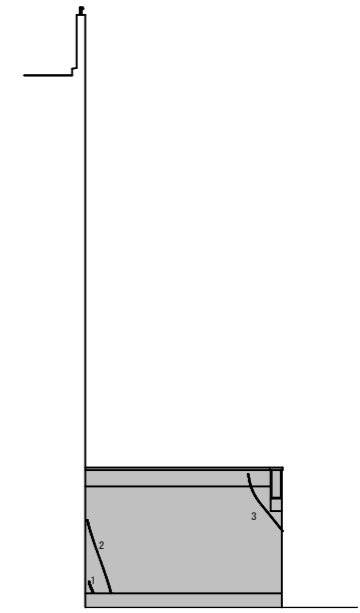
G面 立面図

G面

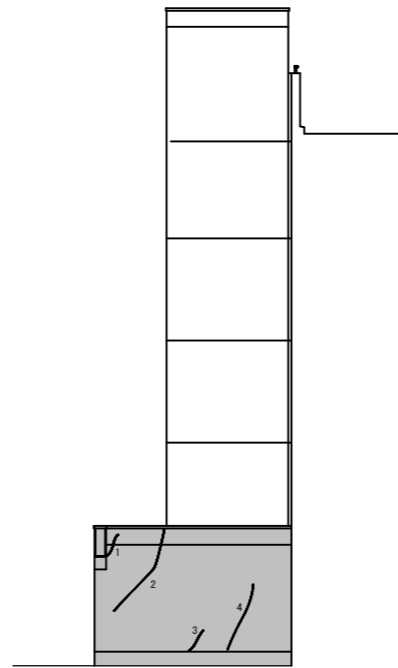
凡 例	数 量	西 棟
— ひび割れ $W \leq 1\text{mm}$	10.6	m
△ 欠損 100×100	2	箇所



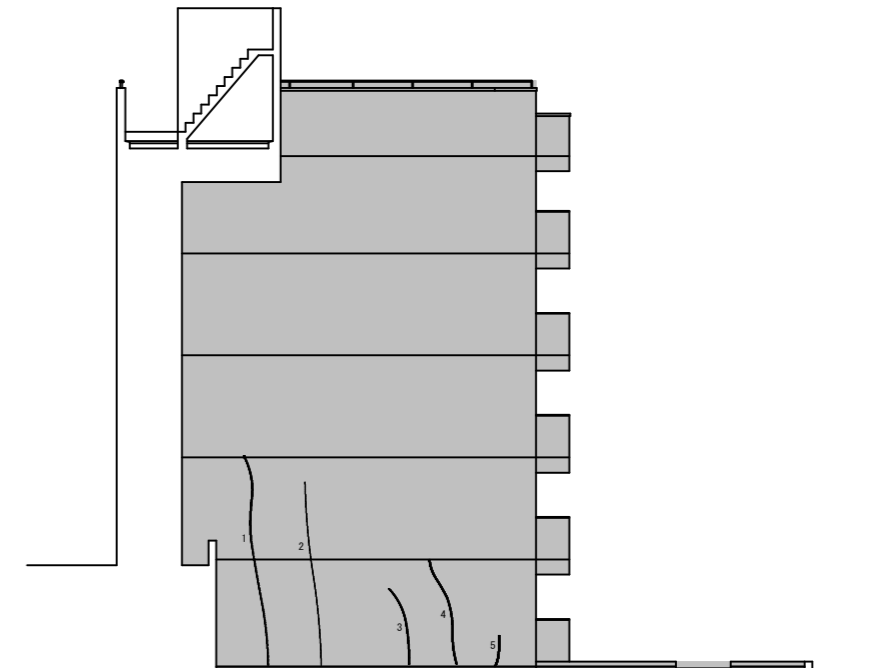
H面 立面図



I面 立面図



J面 立面図



K面 立面図

■ひび割れ補修 0.2≦W≦1.0

合計 398.9 m

南面 167.5 m								
番号	長さ m	番号	長さ m	番号	長さ m	番号	長さ m	
1	1.0	61	0.6	121	0.6	181	0.8	
2	1.6	62	1.6	122	0.6	182	0.6	
3	0.4	63	0.6	123	0.4	183	0.7	
4	1.3	64	0.6	124	0.9	184	1.4	
5	0.8	65	1.3	125	1.4	185	0.7	
6	1.1	66	1.6	126	0.5	186	0.7	
7	0.9	67	0.4	127	0.9	187	0.5	
8	1.1	68	0.8	128	0.8	188	0.4	
9	1.1	69	0.9	129	0.6	189	0.4	
10	0.4	70	0.5	130	1.6	190	0.4	
11	0.7	71	0.6	131	0.6	191	0.4	
12	2.4	72	1.6	132	0.6	192	0.8	
13	1.6	73	1.6	133	0.6	193	0.8	
14	0.9	74	0.9	134	0.5	194	1.6	
15	2.4	75	0.6	135	1.6	195	0.9	
16	0.4	76	0.5	136	0.6	196	2.4	
17	1.6	77	0.3	137	0.8	197	0.3	
18	0.6	78	1.6	138	0.6	198	0.5	
19	0.8	79	0.6	139	0.6	199	0.2	
20	2.4	80	0.4	140	1.6			
21	1.4	81	0.8	141	0.4			
22	0.3	82	0.9	142	0.5			
23	0.6	83	1.0	143	0.5			
24	0.6	84	1.6	144	1.6			
25	0.6	85	0.6	145	0.6			
26	0.7	86	0.5	146	0.8			
27	1.6	87	0.8	147	0.3			
28	0.6	88	1.4	148	0.9			
29	0.8	89	1.6	149	0.6			
30	0.7	90	1.4	150	0.8			
31	0.3	91	0.9	151	1.1			
32	0.6	92	1.6	152	0.9			
33	0.7	93	0.7	153	0.8			
34	1.1	94	0.9	154	0.8			
35	0.6	95	0.5	155	0.8			
36	0.5	96	0.6	156	0.7			
37	1.2	97	0.7	157	1.6			
38	0.6	98	0.6	158	0.7			
39	1.6	99	0.8	159	0.6			
40	0.6	100	0.3	160	0.9			
41	1.9	101	0.6	161	1.6			
42	0.3	102	0.4	162	0.7			
43	0.2	103	0.7	163	0.5			
44	1.8	104	0.9	164	0.4			
45	0.2	105	0.6	165	0.5			
46	0.2	106	0.6	166	0.8			
47	0.7	107	1.6	167	0.8			
48	1.6	108	0.6	168	0.7			
49	0.6	109	0.8	169	1.6			
50	0.9	110	0.6	170	0.7			
51	0.8	111	1.7	171	0.7			
52	1.4	112	0.6	172	0.9			
53	0.6	113	0.2	173	0.8			
54	0.7	114	0.3	174	0.8			
55	0.9	115	0.2	175	0.8			
56	0.8	116	0.2	176	0.8			
57	0.6	117	0.8	177	0.4			
58	1.3	118	0.9	178	0.4			
59	0.8	119	0.6	179	0.4			
60	0.9	120	0.9	180	0.4			
							計	167.5

東棟計 86.4
西棟計 81.1

北面				
番号	長さ m	番号	長さ m	
1	0.8	61	1.8	
2	0.6	62	0.4	
3	0.6	63	0.5	
4	0.2	64	0.5	
5	0.2	65	0.6	
6	0.2	66	1.0	
7	0.2	67	1.0	
8	1.2	68	0.5	
9	1.9	69	0.9	
10	1.8	70	0.9	
11	1.0	71	1.7	
12	1.0	72	6.0	
13	1.0	73	0.9	
14	0.5	74	0.9	
15	0.9	75	1.6	
16	0.9	76	1.8	
17	0.4	77	0.7	
18	1.1	78	1.8	
19	1.0	79	0.7	
20	1.0	80	0.7	
21	1.0	81	0.6	
22	1.1	82	0.5	
23	0.9	83	0.7	
24	1.0	84	0.6	
25	0.5	85	0.7	
26	0.4	86	1.1	
27	1.1	87	0.7	
28	1.3	88	0.5	
29	0.4	89	0.4	
30	0.4	90	0.6	
31	0.5	91	0.9	
32	0.5	92	0.4	
33	1.1	93	1.1	
34	0.9	94	0.3	
35	0.7	95	1.0	
36	0.5	96	0.4	
37	0.5	97	0.7	
38	0.5	98	0.7	
39	0.7	99	1.5	
40	2.4	100	0.3	
41	1.0			
42	1.0			
43	0.9			
44	0.9			
45	0.6			
46	0.8			
47	0.8			
48	0.9			
49	0.9			
50	1.0			
51	0.5			
52	1.9			
53	2.3			
54	0.5			
55	0.7			
56	0.7			
57	2.3			
58	0.4			
59	1.8			
60	1.8			
			計	93.2

東棟計 41.2
西棟計 52.0

東面			
番号	長さ m		
1	0.6		
2	3.0		
3	1.7		
4	1.8		
5	2.4		
6	1.7		
7	1.7		
8	0.8		
9	1.8		
10	1.6		
11	1.1		
12	0.6		
13	1.8		
14	1.7		
15	1.8		
16	0.7		
17	0.9		
18	0.7		
19	0.7		
20	0.6		
21	0.8		
22	0.7		
23	1.0		
24	1.2		
25	0.5		
26	1.3		
27	0.8		
28	0.8		
29	1.0		
30	1.4		
31	1.5		
32	1.3		
33	1.2		
34	1.4		
35	1.2		
36	1.4		
37	1.4		
38	2.0		
39	1.1		
40	0.8		
41	0.7		
42	1.1		
43	0.9		
		計	53.2

東棟計 52.6
西棟計 0.6

西面			
番号	長さ m		
1	3.8		
2	2.6		
3	1.1		
4	0.5		
5	1.0		
6	0.8		
7	1.0		
8	1.0		
9	0.8		
10	1.1		
11	0.5		
12	0.7		
13	1.1		
14	2.0		
		計	18.0

東棟計 0
西棟計 18.0

A面			
番号	長さ m		
1	2.9		
2	1.1		
3	1.4		
4	1.2		
		計	6.6

B面			
番号	長さ m		
1	2.4		
		計	2.4

C面			
番号	長さ m		
1	1.2		
2	1.9		
3	0.7		
4	1.4		
5	1.6		
6	2.6		
		計	9.4

D面			
番号	長さ m		
1	2.0		
2	1.8		
		計	3.8

E面			
番号	長さ m		
1	1.4		
2	0.7		
3	0.5		
4	0.4		
		計	3.0

G面			
番号	長さ m		
1	2.2		
2	0.8		
3	1.1		
4	0.4		
5	0.6		
6	1.1		
7	0.8		
8	0.8		
9	0.7		
10	1.7		
11	3.0		
12	0.8		
		計	14.0

G面小計
東棟計 3.4
西棟計 10.6

H面			
番号	長さ m		
1	1.3		
		計	1.3

A~K面
東棟計 31.2
西棟計 35.8

■ひび割れ補修 1.0<W 合計 2.0m

合計 2.1 m

南面			
番号	長さ m		
1	1.4		
2	0.7		
		計	2.1

東棟計 0
西棟計 2.1

■欠損部補修 小規模 100×100

合計 80 箇所

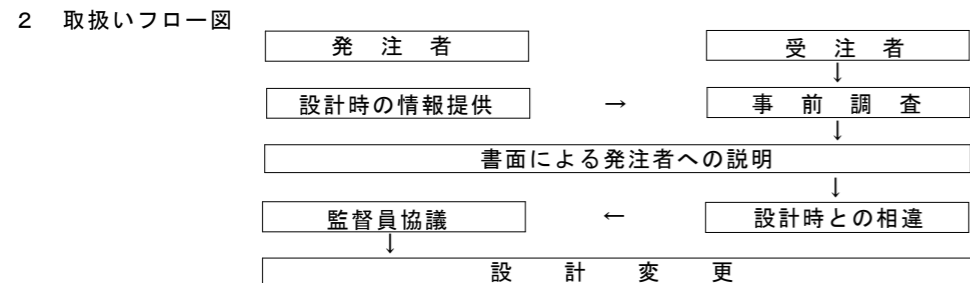
北面		東面		西面		
番号	長さ m	番号	長さ m	番号	長さ m	
1	2.1	10	1.1	11	1.1	
2	1.8	0	0	18	1.8	
3	3.8	16	1.6	22	2.2	
4	1	0	0	1	1	
5	2	0	0	2	2	
				計		80

東棟計 26
西棟計 54

アスベスト含有仕上塗材（レベル3建材）の除去を伴う工事の取扱いについて

参考図

- 1 適用範囲
建築物においてアスベストを含有する仕上塗材及び下地調整材の除去を伴う工事及びアスベスト含有仕上塗材等に塗装を行う工事に適用する。



3 設計時の情報提供

- (1) アスベスト含有調査 ○は検出 空白は不検出

部位・建材名	アスベスト有無	外壁		備考
		仕上塗材	下地調整材	
外壁 吹付タイル	○	○	○	
エントランス天井スレート板	○			
バルコニー軒天塗材	○		○	

- (2) 処理工法の選定 剥離剤併用手工具ケレン工法とする

工法区分	処理工法	選定※1
I	ディスクグラインダーケレン工法	○
	超高压水洗工法（100MPa以上）	
	超音波ケレン工法	
	その他（ ）	
I ※2 (室内側負圧：有)	集じん装置付ディスクグラインダーケレン工法	○
	集じん装置付超高压水洗工法（100MPa以上）	
	超音波ケレン工法（HEPAフィルター付掃除機併用）	
	その他（ ）	
II ※2 (室内側負圧：無)	集じん装置付ディスクグラインダーケレン工法	○
	集じん装置付超高压水洗工法（100MPa以上）	
	超音波ケレン工法（HEPAフィルター付掃除機併用）	
	その他（ ）	
II	剥離剤併用超高速水洗工法（100MPa以上）	○
	剥離剤併用超高压水洗工法（30～50MPa程度）	
	剥離剤併用手工具ケレン工法	
	剥離剤併用超音波ケレン工法	

※1 工法を選定するためにアスベスト調査を行いました。
 ※2 施工区画内に面する窓等があり、使用する室内側に負圧が発生する場合は、室内への粉じん飛散防止のため、工法区分は、Iとする。

4 受注者の事前調査

- (1) 事前調査
 ・事前調査は設計図書等の文書及び現地における目視での確認により行うこと。
 ・追加のアスベスト含有の分析調査が必要と判断した場合は監督員と協議の上、分析調査を追加する。
 なお、R5.10.1からは資格者等による事前調査の実施が必要であること。

- (2) 調査結果の発注者への説明
 ・受注者は、事前調査を実施し、調査結果を当該工事開始日までに書面により監督員へ説明する。

- (3) 調査結果の報告
 ・石綿含有建材の有無について、調査結果を原則「石綿事前調査結果報告システム」により労働基準監督署及び大気汚染防止法所管部局に報告（申請）を行うこと。（令和4年4月1日改正施行関係）
 また、事前調査記録を作成し、その写しを現場に備え置くとともに工事終了後3年間保存すること。

規模要件	建築物の解体	床面積の合計 80㎡以上
	建築物の改修、工作物の解体・改修	請負金額の合計100万円以上

【石綿事前調査結果報告システム】<https://www.ishiwata-houkoku.mhlw.go.jp/>

- (4) 調査結果等の掲示
 ・作業場の見やすい場所及び公衆に見やすい場所に、事前調査結果等を掲示する。
 ・掲示板はA3（42.0cm×29.7cm）以上

- 5 作業計画の作成
 石綿則・大防法とも届出は不要であるが、作業計画の作成、作業員への説明等が必要。（※届出は条例等により必要な場合もあるため事前確認を行うこと。）

- (1) 作業計画
 ① 工事の概要
 ・発注者の住所及び氏名
 ・工事の場所
 ② 石綿含有建材除去等作業
 ・作業の種類、実施期間、石綿含有建材の種類、使用箇所、使用面積
 ③ 石綿飛散防止措置
 ・具体的な作業の方法（石綿等の粉じんの飛散を防止し又は抑制する方法）、作業の対象となる建築物等の概要、配置図及び付近の状況
 ④ 工事の工程表
 ・石綿除去等作業の工程を明示した建設工事の工程の概要
 ⑤ 施工体制
 ・現場責任者の氏名及び連絡先
 ・下請負人が石綿の除去等作業を実施する場合の当該下請負人の現場責任者氏名及び連絡先
 ⑥ 安全衛生
 ・石綿使用建築物等解体等作業を行う労働者への石綿等の粉じんのばく露を防止する方法（保護具及び保護衣の種類、管理方法及び扱い方、呼吸用保護具の選定及び使用方法等の管理方法。また、じん肺健康診断の実施確認及び石綿健康診断の実施確認の方法等）

6 石綿含有仕上塗材の解体等工事における規制

項目	法令上の措置				北海道の運用上の措置※4	
	大防法条項	石綿則条項	電動工具を使用しない	電動工具を使用する	工法区分Ⅱ	工法区分Ⅰ
事前調査の実施	18条の15第1項（規則16条の5）	3条	要	要	要	要
作業計画の作成	18条の14（規則16条の4第一号）	4条	要	要	要	要
作業、計画の届出	—	—	届出対象外	届出対象外	届出対象外	届出対象外
事前調査結果の報告	18条の15第6項（規則16条の11）	4条の2	要	要	要	要
事前調査結果の掲示	18条の15第5項	3条	要	要	要	要
その他掲示	18条の14（規則16条の4第二号）	15条他	要	要	要	要
隔離養生	18条の14（規則別表第7の3）	6条の3	— ※1	要（負圧不要）	要（負圧不要）	負圧隔離養生
立入禁止措置	—	15条	要	要	要	要
湿潤化	18条の14（規則別表第7の3）	6条の3	要	要	要	要
完了確認	18条の14（規則16条の4第四号、五号）	—	要	要	要	要
石綿作業主任者	—	19条	要	要	要	要
石綿特別教育	—	27条	要	要	要	要
呼吸用保護具	—	14条	防塵マスク又は電動ファン付※2	電動ファン付防塵マスク又は電動ファン付※2	防塵マスク又は電動ファン付	電動ファン付
保護衣等	—	14条	専用の作業衣又は保護衣	専用の作業衣又は保護衣	専用の作業衣又は保護衣	専用の作業衣又は保護衣
作業記録	18条の14（規則16条の8）	35条	要 ※3	要 ※3	要 ※3	要 ※3
廃棄物	—	廃掃法	石綿含有廃棄物として処理	石綿含有廃棄物として処理	石綿含有廃棄物として処理	石綿含有廃棄物として処理

※1 粉じん飛散防止のために実施することが望ましい。
 ※2 剥離剤工法の場合、使用する剥離剤及び工程に合わせて送気マスク等の適切な呼吸用保護具を着用する必要がある。令和2年基安化発0817第1号を参照。
 ※3 下請負人による作業の記録は、工事が完了するまで保存（大防法施行規則第16条の4第三号）。
 ※4 北海道の運用上の措置では、隔離養生について粉じん飛散防止措置の強化のため、実施することとしている。

- 7 負圧隔離養生（工法区分Ⅰ）
 (1) 隔離養生
 ・壁は0.08mm以上のプラスチックシート、床は0.15mm以上のプラスチックシート
 ・2重敷、30～45cmの重ねをとり作業場を密閉する。
 ・必要に応じて床用塩化ビニルシート等の堅固なシートで補強すること。
 ・水を使用する工法では、防水シートを用い、立ち土がりを設けること。
 ・作業場内に面する開口部等について、プラスチックシートで目張り養生を行い、使用する室内側に負圧が生じる室については、室内側の開口部についてもプラスチックシートで目張り養生を行うこと。

- (2) セキュリティゾーンの設置
 ・入り口に前室、洗身室、更衣室の3室からなるセキュリティゾーンを設置して石綿粉じんの漏えいを防止する。なお、設置箇所に変更を加えた場合には漏洩の有無を確認すること。

- (3) 負圧の確保、集じん・排気装置の設置
 ・作業場内の石綿粉じんをHEPAフィルタでろ過し、空気を外部へ排気する集じん・排気装置を設置し、作業室内を負圧に維持すること。
 ・使用する室内側に負圧が発生する場合は、室内側より施工区画内の負圧値が高くなるよう集じん・排気装置を設置すること。

- (4) 負圧の確認
 ・除去を行う日の除去の開始前及び除去の作業を申断したとき、除去作業中は定期的・連続的に作業区画内の負圧が常時確保されていることを点検し、記録すること。
 ・使用する室内側に負圧が発生する場合は、マイクロマンメーター等で室内側の負圧値を確認すること。

- 8 負圧隔離養生としない場合の措置（工法区分Ⅱ）
 ・施工区画を設定し、プラスチックシートなどで隔離養生をすること。
 ・セキュリティゾーンは不要であるが、施工区画から外に出る際には、エアシャワー、真空掃除機で作業衣に付着している粉じんを除去する計画とすること。

- 9 湿潤化
 ・粉じんの発生及び飛散抑制のため、常時湿潤な状態を保つこと。

- 10 排水処理
 ・高圧水洗工法等を使用して除去する工法の場合、廃水は流出や地面に浸透することの無いように回収すること。
 ・回収した廃水は、凝集剤などを用いて泥分を沈殿させ、土澄み水は、ろ過後に下水道等に放流すること。（下水道窓口と協議すること）
 ・沈殿物は、吸収剤などを用いて吸着させるか、セメントにより固化し、プラスチック袋で2重梱包し、特別管理産業廃棄物「廃石綿等」として処分すること。

- 11 廃棄物処理
 ・除去した塗材は、特別管理産業廃棄物「廃石綿等」として処分すること。
 ・隔離工法において養生などに使用したプラスチックシート、保護衣、各フィルターについても特別管理産業廃棄物「廃石綿等」として取り扱うこと。

- 12 その他
 ・下地調整材に無機質系のアスベストが含有している場合は、除去せずに新たな塗材により封じ込めること。
 ・下地調整材に無機質系のアスベストが含有している場合の仕上材の撤去については、下地調整材に影響の無い工法を選定すること。
 ・本書に記載のない事項は、「建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル」（厚生労働省・環境省）によること。

